

令和6年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」
専門学校と高等学校の有機的連携プログラムの開発・実証
工業系分野における高専連携の5年一貫教育プログラム開発・実証

成果報告書

はじめに

本書は、文部科学省が委託した「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」の一環である「専門学校と高等学校、教育委員会、企業が協働して教育プログラムを開発するモデル構築事業」の成果報告書です。

この事業の目的は、高校生の進路意識や職業観を育てることと、専門学校生の実践的な学びの質を高めることです。これにより、意欲とスキルの高い人材を育成し、地域産業の中核を担う人材の育成に貢献したいと考えています。

本校は、1969年に開校した自動車整備士養成の工業系専門学校で、2万人以上の卒業生を自動車業界に送り出しています。また、同法人内には「建築・インテリア」、「情報・IT・Web」、「AI・IoT・データサイエンス」、「バイオテクノロジー」、「環境」の分野を持つ専門学校、東京テクニカルカレッジ（東中野）を設置しており、日本の基幹産業を網羅しています。さらに、約120社（2024年8月現在）の企業が加盟する「後援会」組織があり、就職や教育課程編成委員会などの活動で学園を支援いただいています。

近年、Society5.0やSDGs、DX、GXなど、社会的インフラや未来の就業環境が大きく変わろうとしています。本事業でも、高校の3年間と専門学校の2年から4年間をカバーするため、時代のニーズに対応した教育プログラムの開発が求められました。

今年度は事業の4年目にあたり、主に「高校3年生」を対象とした教育プログラムの開発・実証を行いました。本校の教育ノウハウや後援会企業の協力を得て、「未来の技術者の養成」につながる実習プログラムやオンライン学習を盛り込みました。実証授業の成果や課題は本編で紹介しますが、高校段階からの実践的な教育は、職業観の育成やキャリア形成に大きく貢献すると確信しています。

今後は、各分野の職業体験コンテンツを増やし、PDCAサイクルを用いて、高校の全日制・定時制・通信制、普通科・専門科・総合学科への普及活動を行い、教育コンテンツの質を向上させていきます。また、高校生のキャリア形成に欠かせない高校教員や保護者の理解を深め、サポート体制を構築していきます。

最後に、この報告書が多くの高校、専門学校、企業にとって、今後の教育の指針となることを願っています。

事業責任者

学校法人小山学園 専門学校東京工科自動車大学校
運営本部長 兼 中野校・世田谷校校長 佐藤 康夫

目次

はじめに

第1章 令和6年度事業概要

1. 事業の趣旨・目的	3
2. 事業の背景	3
3. 開発する教育プログラムの概要	6
4. 実施体制	7
5. 学習ターゲット・目指すべき人材像	7
6. 具体的なとりくみ	7
(1) ヒアリング	7
(2) 推し授業コマシラバス	12
(3) 推し授業インタビュー動画（テキスト）	17
(4) 実証授業	23
(5) アンケート	23
7. 構成機関・構成委員	24
(1) 高等学校	24
(2) 行政機関	25
(3) 専門学校	25
(4) 企業	26
(5) 企画推進委員会の構成員（委員）	27
(6) プログラム開発WGの構成員（委員）	29
(7) 課題・分析WGの構成員（委員）	31
(8) 実証実験WGの構成員（委員）	32
8. 会議開催実績	33
(1) 第1回企画推進委員会会議①	33
(2) 第1回企画推進委員会会議②	33
(3) 第1回プログラム開発WG	33
(4) 第1回プログラム開発WG	34

第2章 令和6年度活動詳細

1. 企業・高校ヒアリング	37
1. ヒアリング実施概要	37
(1) 実施期間	37
(2) 実施先担当部署等	37
(3) 手法	37
(4) ヒアリング項目	38
(5) 実施件数	39
2. 企業ヒアリング結果	39
(1) 自動車分野	39
(2) 建築分野	41
(3) インテリア分野	43
(4) 情報（I o T）分野	44
(5) I T / D X（データサイエンス）分野	47
(6) 環境分野	49
3. 高等学校ヒアリング結果	50
4. ヒアリングまとめ	55
(1) 企業ヒアリングまとめ	55
(2) 高等学校ヒアリングまとめ	55
2. 実証授業	57
1. 実証授業概要	57
2. 各分野実証授業テーマと内容	57
(1) 自動車整備分野	57
(2) 建築分野	58
(3) インテリア分野	58
(4) 情報（I T / I o T）分野	58
(5) I T / D X（データサイエンス）分野	59
(6) 環境分野	60
3. 実証授業アンケート結果	60
(1) 自動車整備分野	60
(2) 建築分野	75
(3) インテリア分野	86

(4) 情報（IT/IoT）分野	98
(5) IT/DX（データサイエンス）分野	108
(6) 環境分野	119
(7) 6分野全体	128

第3章 本年度のまとめと次年度へ向けて

1. 本年度の取り組み結果	141
(1) 企業・高等学校ヒアリング結果	141
(2) 推し授業教材開発	144
(4) 実証授業の実施	144
2. 本年度のまとめ	146
3. 次年度の取り組み	147

第4章 参考資料

会議録	151
-----	-----

第1章

令和6年度事業概要

第1章 令和6年度事業概要

1. 事業の趣旨・目的

工業高校生の学びの目的意識（キャリア観）やモチベーションには学びが就職につながるというイメージが希薄であり、課題として浮き彫りとなってきた状況であると議論されている（東京都教育庁参考：当該教育プログラムが必要な背景に記載）。そこで、本事業では、高校生時点から具体的な社会のニーズ（＝活躍イメージ）と技術職の魅力を生徒に正しく伝え、職業教育を標榜する教育機関同士が相互の「教育連携」を図ることにより、高校生が具体的な活躍のイメージを持つことで視野を広げ、職業意識の醸成と進路に対する意識や学習意欲を高めることを狙いとする。魅力ある高等学校教育、専門学校教育の充実を図ることを目的として、「高専一貫教育」のプログラム開発・実証を行う。

日本の基幹産業の自動車や建築、情報、環境等の技術者養成の工業系専門学校「東京工科自動車大学校」と「東京テクニカルカレッジ」が実践している企業連携手法を参考に6職業分野（自動車・情報（Web）・IT/DX・建築・インテリア・環境）において先端技術者養成のプログラムのノウハウを提供して、様々な分野で社会の変化に対応できる「職業人」のキャリア形成を図る。

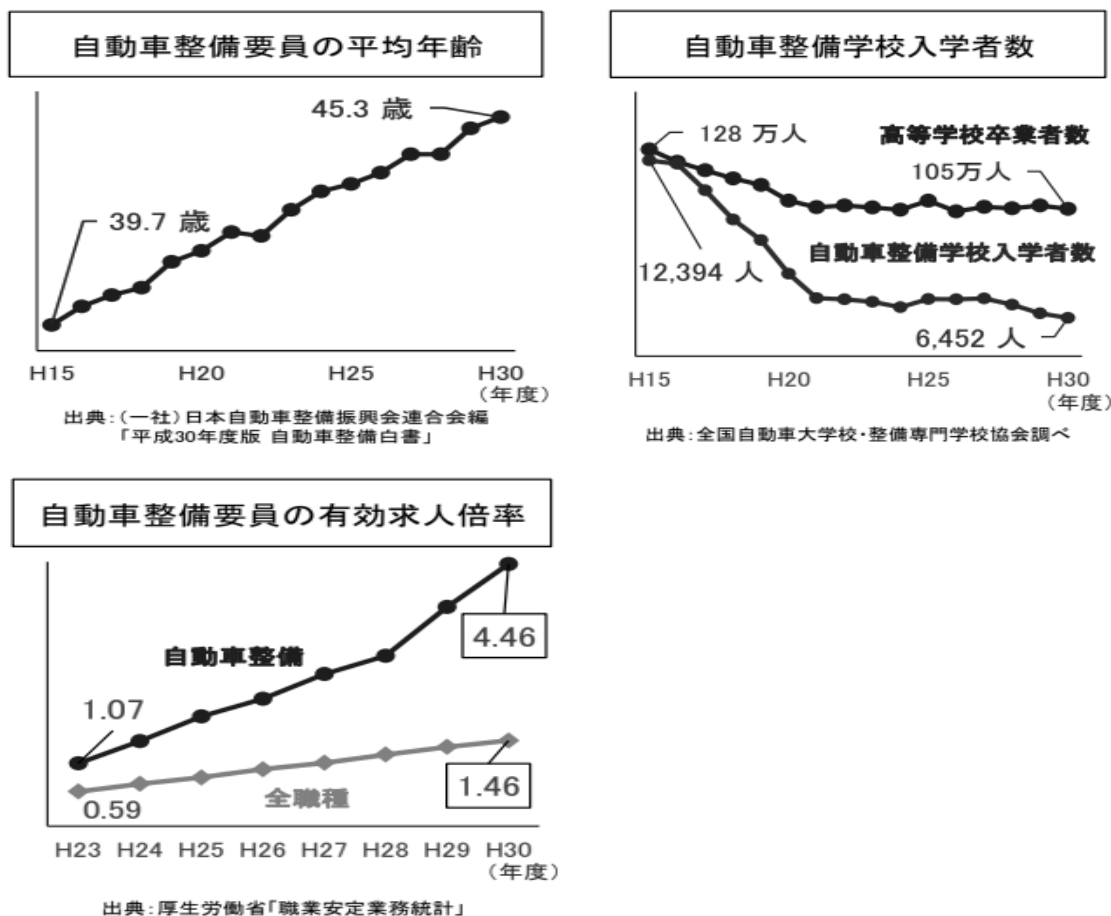
プログラム開発の過程においては、企業・行政の協力を得て、「企業連携授業」を取り入れていくことにより、最先端でリアルな職業体験を取り入れ具体的な活躍イメージの定着を目指す。

本事業で開発した教育プログラムの成果物であるカリキュラムやシラバス・コマシラバス、スキルマップ等はその作成プロセスを含めて对外発信し、他校への普及を図る。

2. 事業の背景

人工知能やIoT等のテクノロジーの急速な発達により、実業高校および工業系専門学校において育成する「職業人」の必要要件も変化の中にある。一方で、テクノロジーが発達すればするほど、製品を安全・安定的に「動かす」ための現場技術者ニーズはより一層高まることが予想され、「未来の人材ニーズ」「技術者として普遍的な能力スキル」の育成を不易流行のスタンスでバランスよく育成することが求められる。それには、業種毎の魅力を生徒に正しく伝えることが必要である。

<例:自動車整備人材を取り巻く環境>



※日本の自動車の保有台数8000万台はほぼ横ばいなのに対して、自動車の使用年数は約10年となり、長く使用する分、途中のメンテナンスの仕事量は増加している。

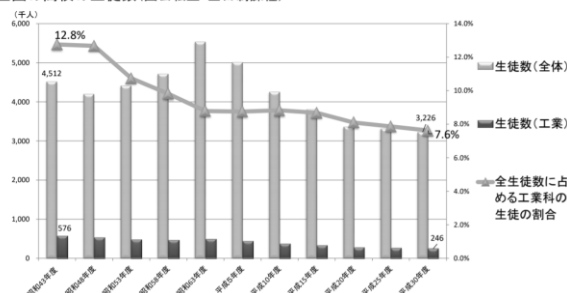
しかし、自動車整備士の平均年齢は上昇の一途で世代交代が行われず人材不足が加速している。整備士の需要に対し、この数が伸びていない背景には、少子化および若者の自動車離れや大学進学率の上昇などの要因がある。自動車整備士資格者を輩出する国土交通省指定の整備専門学校の入学者もここ15年で半減している。

高校生時点からCGを活用した映像などで最新技術紹介を取り入れた具体的な社会ニーズ(=活躍イメージ)と技術職の魅力を生徒に正しく伝え、学びへの動機付けを行う。動機付けができた生徒に専門学校でより専門的な技術者育成を行うことで、技術者不足という未来の社会課題仮説解決の役割を担っていく。

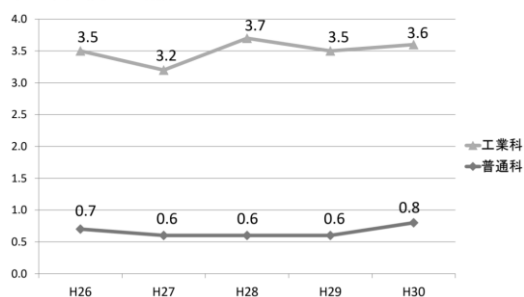
工業高校における生徒数の減少、および中途退学率も普通科と比較して高い状況があり、この分野においての生徒・学生の学びの目的意識(キャリア観)やモチベーションには課題があると考えられる。またその背景として、「工業高校・専門学校での学びが社会(就職)につながる」イメージが希薄になっているとう課題仮説がある。

＜工業高校の生徒数推移、中途退学率の状況＞

全国の高校の生徒数(国公立・全日制課程)



中途退学率の推移(全日制課程)



出典：「高度 IT 社会の工業高校に関する有識者会議（第 1 回）」東京都教育庁事務局説明資料より抜粋

高校時点から「出口（就職）を見据えたキャリア教育」「最先端の技術を実体験する」ことで生徒のモチベーションを高め、専門学校では具体的な目標を掲げた「技術力向上」「資格取得」「就職」を一貫したプログラムとして提供する。

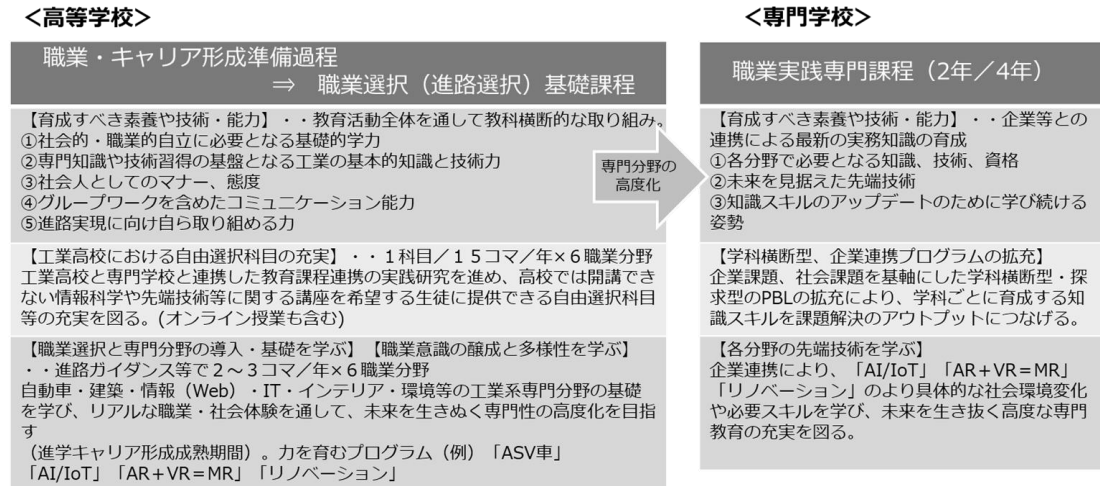
クリアする目標（積み上げるべきもの）のポイントとなる部分に最先端技術の体験などを段階的に取り入れることで生徒の意欲・技術力双方を向上させ、今後も渴望される専門技術者人材育成に寄与する。

職業教育を標榜する教育機関同士が相互の「教育連携」を図ることにより、高校生が具体的な活躍のイメージを持つことで視野が広がり、職業意識の醸成と進路に対する意識や学習意欲を高める有効な手段と考えられる。魅力ある高等学校教育、専門学校教育の充実を図るべく、「高専一貫教育」のプログラム開発・実証を行う。

3. 開発する教育プログラムの概要

【開発する教育プログラムの概要】

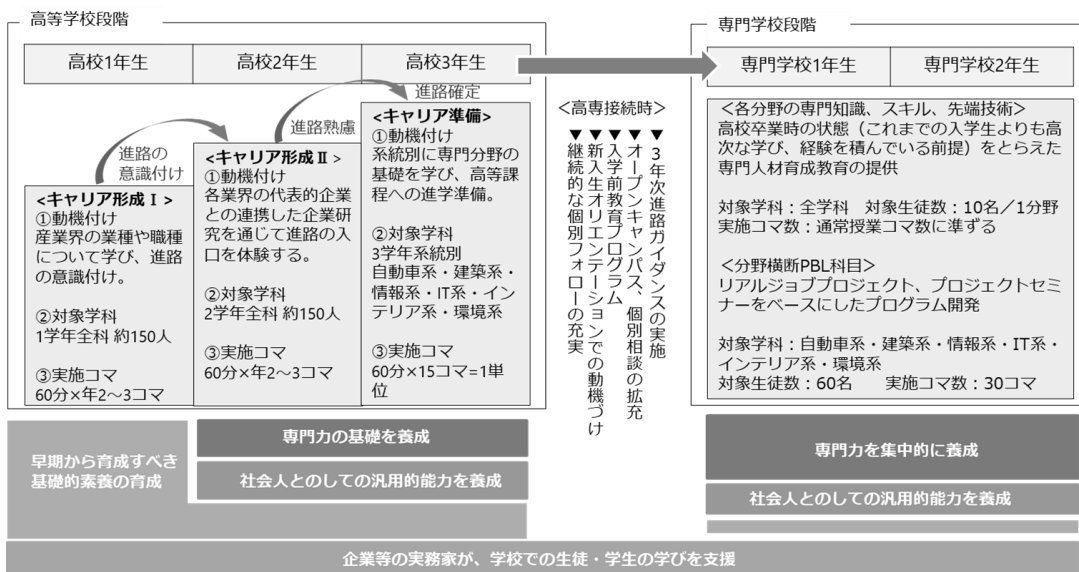
- (1) 名称：工業系分野における高専連携の5年一貫教育プログラム開発・実証
 - (2) 内容：開発する高・専一貫の教育プログラムの取組み概要図
- 本事業の取組は、下記概要図に示された内容で行う（高校入学～専門学校卒業）。



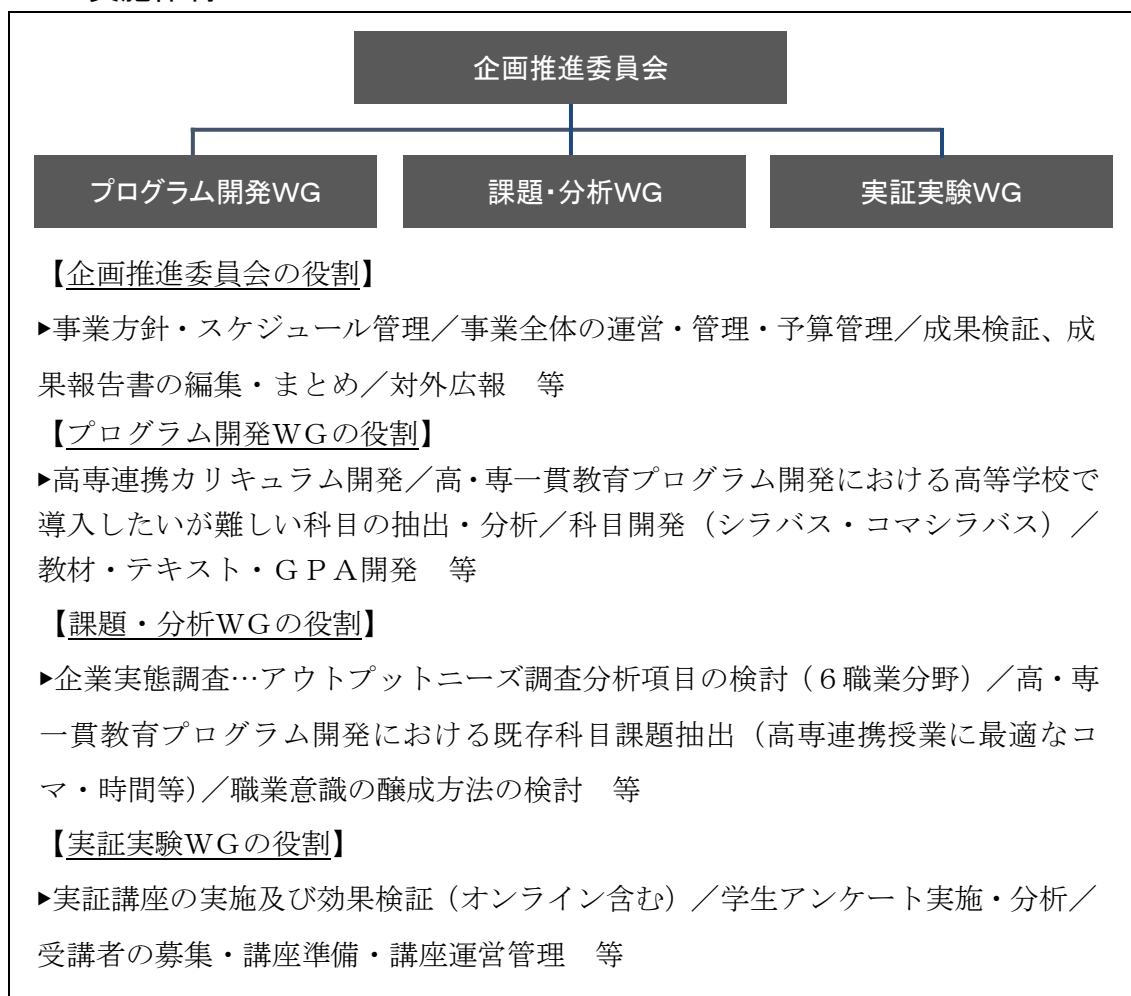
アウトプット（活動目標）	アウトカム（成果目標）	インパクト（社会への影響）
<ul style="list-style-type: none"> ● 工業高校に対して専門学校が提供する新プログラム（シラバス、コマシラバス）の実装 ● 高校～専門学校の5年一貫プログラム（キャリアマップ、カリキュラムフロー）のアウトプット ● プログラムに対する企業評価 	<ul style="list-style-type: none"> ● 確認テスト、学生アンケート等によるプログラム成果の可視化 ● 中退率、就職率の維持・向上 ● 成果報告書、活動動画による認知獲得 ● 結果としての高校・専門学校の教育力向上 	<ul style="list-style-type: none"> ● 目的意識と高い技術力を持つ専門人材を安定的に輩出することによる経済社会のさらなる発展への寄与 ● 実業高校、工業系専門学校の認知とブランド向上（結果としての生徒募集安定化）

＜育成すべき能力＞

- ◆ 各分野における先端技術をとらえた知識、スキル
例：「ASV車」「AI/IoT」「AR+VR=MR」「リノベーション」
- ◆ 技術者としての活躍、社会貢献に対する高いモチベーション
- ◆ 分野横断プロジェクトへの参画（=実業務）に必要なコミュニケーション力、提案力



4. 実施体制



5. 学習ターゲット、目指すべき人材像

【育成すべき能力】

- 各分野における先端技術をとらえた知識、スキル
例：「ASV車」「AI/IoT」「AR+VR=MR」「リノベーション」
- 技術者としての活躍、社会貢献に対する高いモチベーション
- 分野横断プロジェクトへの参画（=実業務）に必要なコミュニケーション力、提案力

6. 具体的な取り組み

（1）ヒアリング

◆目的

企業のヒアリングでは、採用目線で企業が求めている学生の素養を調査。人工知能やIoT等のテクノロジーの急速な発達により、実業高校および工業系専門学校にお

いて育成する「職業人」の必要要件も変化している。その中で「未来の人材ニーズ」「技術者として普遍的な能力スキル」の育成を不易流行のスタンスでバランスよく育成することが求められる。そのため、6職業分野毎にどのような学習内容を企業が要望しているのか、教育機関に何を求めているのかの調査を行う。高等学校1年生と2年生向けに開発した体験主体の実証授業内容やメタバース空間内による動画視聴に関して率直な意見を整理する。

高等学校のヒアリングでは、進学や進路状況の課題をはじめ、本事業の取り組みに対しての意見、高等学校1年生と2年生向けに開発した体験主体の実証授業内容やメタバース空間内による動画視聴に関して率直な意見や取り入れてほしい内容を行い、どのような形の授業内容を欲しているか把握することを目的とした。

◆調査対象

- ・企業：自動車整備分野、建築分野、インテリア分野、情報分野（IT・IoT）、IT/DX分野、環境分野の6職業分野
- ・高等学校：工業系、普通科、商業

◆調査件数

- ・企業：自動車整備分野 1件、建築分野 2件、インテリア分野 1件、情報分野（IT/IoT） 3件、IT/DX分野 2件、環境分野 1件 合計10件
- ・高等学校：工業高等学校 2件、普通科高等学校3校 合計5校

◆手 法

受託機関である当校が調査目的、調査対象、調査内容を調査会社に示した上で、対象となる一覧表を調査会社が作成する。受託機関である当校は一覧表を確認し、優先順位を決めて調査会社へヒアリングのアポイントを依頼する。

ヒアリングは基本的に受託機関である当校委員と本事業の外部委員で行うこととする。受託機関である当校委員と本事業の外部委員の企業ヒアリング調査はあっても、調査会社のみで企業ヒアリング調査は行わない。等

◆調査項目

- ・企業：①採用状況、②5年一貫教育プログラムについての感想：6分野を体験できる授業形態についてなど、③分野の魅力を伝える動機づけとしてのメタバースなど最新技術紹介を含めた取り組み、④授業内容について（高校1年生：ワクワク感、分野に興味・関心を抱かせることを目的に体験授業を中心、高校2年生：職業の具体的イメ

ーじや期待感を醸成できる内容等)、⑤教育プログラムに取り入れてほしい内容(高校1年生、2年生)、⑥貴社に入社したいと考えている学生に、これだけは身に付けていてほしいこと。等

- ・高等学校：①進学、進路の状況や課題など、②5年一貫教育プログラムについての感想：6分野を体験できる授業形態についてなど、③分野の魅力を伝える動機づけとしてのメタバースなど最新技術紹介を含めた取り組み(高校1年生：分野のイメージのメタバース空間による動画視聴)、④授業内容について(高校1年生：ワクワク感、分野に興味・関心を抱かせることを目的に体験授業を中心。高校2年生：職業の具体的なイメージや期待感を醸成できる内容等)、⑤貴校で同様の高専連携授業を実施となった場合、課題(ハードル)となる点、⑥教育プログラムに取り入れてほしい内容(高校1年生、2年生)、⑦貴校に通う学生に、これだけは身に付けていてほしいこと、⑧専門学校教育に求めること(技術・スキル面についてなど)。等

◆分析内容

①5年一貫教育プログラムについての感想、②分野の魅力を伝える動機づけとしてのメタバース活用について、③授業内容について、④教育プログラムに取り入れてほしい内容。等

◆調査結果反映(次年度以降反映含む)

①コンテンツ利活用(6職業分野)、②シラバス・コマシラバス(6職業分野)、③実証講座の環境整備(6職業分野)、テキスト開発(6職業分野)、④6職業分野へのプログラム開発項目への情報提供 等

【ヒアリング様式（趣意書）企業ヒアリング抜粋】

取組みの趣意

1. 文部科学省委託事業受託機関
学校法人小山学園 専門学校東京工科大学・専門学校東京テクニカルカレッジ（東京都野区）
2. 事業名称（開発する教育プログラム名称）
令和5年度文部科学省委託事業「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」専門学校と高等学校の有機的連携プログラムの開発・実証「工業系分野における高専連携の5年一貫教育プログラム開発・実証」
3. 対象者
工業高等学校生1～3年生と専門学校1～2年生
4. 事業の目的
工業高等学校1年生から6職業分野（自動車・情報・IT・建築・インテリア・環境）の最新技術などを含めた正しい魅力発信と専門的な基礎学習プログラムの構築
5. 事業の趣旨・目的……
工業高校生の学びの目的意識（キャリア観）やモチベーションには学びが就職につながるというイメージが希薄であり、課題として浮き彫りとなってきている状況であると認識されています。
そこで本事業では、高校生時点から具体的な社会的ニーズ（＝活躍イメージ）を技術職の魅力を生徒に正しく伝え、職業教育を標榜する教育機関同士が相互の「教育連携」を図ることにより、高校生が具体的な活躍のイメージを持つことで視野を広げ、職業意識の醸成と進路に対する意識や学習意欲を高める教育プログラムの開発を目指します。
そのためには、魅力ある高等学校教育、専門学校教育の充実を図ることを目的として、「高専一貫教育」のプログラム開発・実証を行います。
日本の基幹産業の自動車や建築、情報、環境等の技術者養成の工業系専門学校「東京工科大学自動車大学校」と「東京テクニカルカレッジ」が実践している企業連携手法を参考に6職業分野（自動車・情報（Web）・IT・建築・インテリア・環境）において先端技術者養成プログラムのノウハウを提供し、様々な分野で社会の変化に対応できる「職業人」のキャリア形成を図っていきます。
プログラム開発の過程においては、企業・行政の協力を得て、「企業連携授業」を取り入れていくことにより、最先端リアルな職業体験を取り入れ具体的な活躍イメージの定着を目指していきます。
また、本事業で開発した教育プログラムの成果物であるカリキュラムやシラバス・コマシラバス、スキルマップ等はその作成プロセスを含めて対外発信し、他校への普及を図っていきます。
6. 開発する必要な背景……
人工知能やIoT等のテクノロジーの急速な発達により、実業高校および工業系専門学校において育

成する「職業人」の必要要件も変化の中にあります。一方で、テクノロジーが発達すればするほど、製品を安全・安定的に動かすための現場技術者ニーズはより一層高まることが予想され、「未来の人材ニーズ」「技術者として普遍的な能力スキル」の育成を不易流行のスタンスでバランスよく育成することが求められます。それには、業種毎の魅力を生徒に正しく伝えることが必要になってきています。
高校生時点からCGを活用した映像などで最新技術紹介を取り入れた具体的な社会的ニーズ（＝活躍イメージ）を技術職の魅力を生徒に正しく伝え、学びへの動機付けを行います。動機付けができた生徒に専門学校でより専門的な技術者育成を行うことで、技術者不足という未来の社会課題仮説の解決によって本教育プログラムを通して担っていきます。
工業高校における生徒数の減少、および中途退学率も普通科と比較して高い状況であり、この分野においての生徒・学生の学びの目的意識（キャリア観）やモチベーションには課題があると考えられています。またその背景として、「工業高校・専門学校での学びが社会（就職）につながる」イメージが希薄になっているという課題仮説もあります。

出典：「高度IT社会の工業高校に関する有識者会議（第1回）」東京都教育庁事務局説明資料より抜粋

高校時点から「出口（就職）」を見据えたキャリア教育「最先端の技術を実体験することで生徒のモチベーションを、専門学校で具体的な目標を掲げた「技術力向上」「資格取得」「就職」を一貫したプログラムとして提供する取組みです。
クリアする目標（積み上げべきもの）に対して、段階的にポイントとなる部分に最先端技術の体験などを取り入れることで生徒の意欲・技術力双方を向上させ、今後も有望な専門技術者人材育成に寄与していきます。
職業教育を標榜する教育機関同士が相互の「教育連携」を図ることにより、高校生が具体的な活躍のイメージを持つことで視野が広がり、職業意識の醸成と進路に対する意識や学習意欲を高める有効な手段と考えられます。魅力ある高等学校教育、専門学校教育の充実を図るべく、「高専一貫教育」のプログラム開発・実証を行う取組みです。

7. 開発する高専一貫プログラム概要……

令和5年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」連携事業（専門学校と高等学校有機的連携プログラム開発）要約

開発する高専一貫プログラムの概要

<高等学校>

職業・キャリア形成準備過程
⇒ 職業選択（進路選択）基礎課程

【育成すべき基礎的知識・能力】…教育課程全体を通して教科横断的な取り組み
① 各分野に関する基礎的知識・能力
② 専門知識や技術習得の基礎となる基礎的知識・技能
③ 社会人としてのマナー、態度
④ グループワーク的なコミュニケーション能力
⑤ 進路実現に向け自ら取り組む力

【工業高校における自由選択科目の充実】…1科目/15コマ/年×6職業分野
工業高校と専門学校に連携し、教育課程連携授業の研究を進め、履修できない科目や履修科目や先履修科目等に関する課題を希望する生徒に提供できる自由選択科目等の充実を図る。（オンライン履修も可）

【職業選択と専門分野の導入・基礎を学ぶ】…履修前後の基礎的多様性を学ぶ
…進路ガイダンス等で2～3コマ/年×6職業分野
① 職業・職種（職種）：IT・エンジニア・建築職の工業系専門分野の基礎を学び、リアルな職業・社会体験を通して、未来を生き抜く専門性の高度化を目指す
② 進学キャリア形成成熟期間、力を育むプログラム（90「ASV車」「AI/IoT」「AR+VR+MR」）

アウトプット（最終目標）

- 企業職に対して専門学校が提供できるプログラム（シラバス、コマシラバス）の充実
- 個別・専門学校の5年一貫プログラム（キャリアマップ、カリキュラム）のアウトプット
- プログラムに対する企業評価

<専門学校>

職業実践専門課程（2年/4年）

【育成すべき基礎的知識・能力】…企業等との企業実践、社会実践を基にした学習機会を確保し、実践的知識・技能の習得
① 各分野で必要となる知識、技能、資格
② 未来を生き抜く先導的知識・技能
③ 知識・技能のアップデートのために学び続ける意欲

【学科横断的企業連携プログラムの充実】
企業実践、社会実践を基にした学習機会を確保し、実践的知識・技能の習得
① 各分野の先導的知識・技能
② 企業実践により、AI/OT「AR+VR+MR」「AI/IoT+IoT」のより高度な社会実装に必要なスキルを学び、未来を生き抜く高度な専門教育の充実を図る。

アウトプット（成果目標）

- 履修リスト、学生アンケート等によるプログラムの改善の可視化
- 中途退学、就職率の維持・向上
- 企業満足、企業評価による認知度向上
- 結果としての他校、専門学校への教育力向上

インパクト（社会への影響）

- 目的意識と意欲・能力を持つ専門人材を安定的に輩出することで社会実装の促進
- 中途退学率の低減
- 企業満足、企業評価による認知度向上
- 結果としての他校、専門学校への教育力向上

令和5年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」連携事業（専門学校と高等学校有機的連携プログラム開発）要約

開発する高専一貫プログラムの概要

<育成すべき能力>

- 各分野に関する基礎的知識・能力
- 技術者としての意識、社会貢献に対する高いモチベーション
- 分野横断的コミュニケーション能力、職業力

高等学校の段階

高校1年生 高校2年生 高校3年生

専門学校の段階

専門学校1年生 専門学校2年生

企業職の段階

企業職1年生 企業職2年生

企業職3年生

企業職4年生

企業職5年生

企業職6年生

企業職7年生

企業職8年生

企業職9年生

企業職10年生

企業職11年生

企業職12年生

企業職13年生

企業職14年生

企業職15年生

企業職16年生

企業職17年生

企業職18年生

企業職19年生

企業職20年生

企業職21年生

企業職22年生

企業職23年生

企業職24年生

企業職25年生

企業職26年生

企業職27年生

企業職28年生

企業職29年生

企業職30年生

企業職31年生

企業職32年生

企業職33年生

企業職34年生

企業職35年生

企業職36年生

企業職37年生

企業職38年生

企業職39年生

企業職40年生

企業職41年生

企業職42年生

企業職43年生

企業職44年生

企業職45年生

企業職46年生

企業職47年生

企業職48年生

企業職49年生

企業職50年生

企業職51年生

企業職52年生

企業職53年生

企業職54年生

企業職55年生

企業職56年生

企業職57年生

企業職58年生

企業職59年生

企業職60年生

企業職61年生

企業職62年生

企業職63年生

企業職64年生

企業職65年生

企業職66年生

企業職67年生

企業職68年生

企業職69年生

企業職70年生

企業職71年生

企業職72年生

企業職73年生

企業職74年生

企業職75年生

企業職76年生

企業職77年生

企業職78年生

企業職79年生

企業職80年生

企業職81年生

企業職82年生

企業職83年生

企業職84年生

企業職85年生

企業職86年生

企業職87年生

企業職88年生

企業職89年生

企業職90年生

企業職91年生

企業職92年生

企業職93年生

企業職94年生

企業職95年生

企業職96年生

企業職97年生

企業職98年生

企業職99年生

企業職100年生

学校法人小山学園企業連携教育体制

職業・キャリア形成準備課程 職業選択（進路選択）基礎課程 職業実践専門課程

高校1年生	高校2年生	高校3年生	専門学校1年生	専門学校2年生	職業実践専門課程
【基礎的知識・能力の育成】 ① 各分野に関する基礎的知識・能力 ② 専門知識や技術習得の基礎となる基礎的知識・技能 ③ 社会人としてのマナー、態度 ④ グループワーク的なコミュニケーション能力 ⑤ 進路実現に向け自ら取り組む力	【基礎的知識・能力の育成】 ① 各分野に関する基礎的知識・能力 ② 専門知識や技術習得の基礎となる基礎的知識・技能 ③ 社会人としてのマナー、態度 ④ グループワーク的なコミュニケーション能力 ⑤ 進路実現に向け自ら取り組む力	【基礎的知識・能力の育成】 ① 各分野に関する基礎的知識・能力 ② 専門知識や技術習得の基礎となる基礎的知識・技能 ③ 社会人としてのマナー、態度 ④ グループワーク的なコミュニケーション能力 ⑤ 進路実現に向け自ら取り組む力	【基礎的知識・能力の育成】 ① 各分野に関する基礎的知識・能力 ② 専門知識や技術習得の基礎となる基礎的知識・技能 ③ 社会人としてのマナー、態度 ④ グループワーク的なコミュニケーション能力 ⑤ 進路実現に向け自ら取り組む力	【基礎的知識・能力の育成】 ① 各分野に関する基礎的知識・能力 ② 専門知識や技術習得の基礎となる基礎的知識・技能 ③ 社会人としてのマナー、態度 ④ グループワーク的なコミュニケーション能力 ⑤ 進路実現に向け自ら取り組む力	【基礎的知識・能力の育成】 ① 各分野に関する基礎的知識・能力 ② 専門知識や技術習得の基礎となる基礎的知識・技能 ③ 社会人としてのマナー、態度 ④ グループワーク的なコミュニケーション能力 ⑤ 進路実現に向け自ら取り組む力

学校法人小山学園ご紹介 リアルジョブプロジェクト

リアルジョブプロジェクト（Real Job Project 通称：RJP）

企業連携によるRJP（問題解決型実習）
企業・地域から課題をいただく等、企業講師のもと問題解決に取り組む

- ① インテリア
⇒ RJPで学校の地下をリノベーション。その出来栄が評価され、学生家のリノベーション（モテバルム）の奨励の依頼を受注。
グループ単位で提案、最優秀作品が実際に施工される。
- ② 情報処理
⇒ 企業の指導を受け、IoTシステム、AI機械学習開発に取り組み
- ③ ゲームプログラミング
⇒ 企業の依頼を受け、iPhoneのゲームを開発、リリースされる
- ④ Web動画クリエイター
⇒ 地域のNPO依頼で、制作、吉祥寺/口/Wインイベントを支援
- ⑤ バイオテクノロジー
⇒ 地域の子どもと夏、理科実験教室を提供
⇒ 企業の指導を受け、ブレインイノベーションを継続実施
- ⑥ 環境テクノロジー
⇒ 企業の指導を受け、環境配慮・脱プラスチック構築を提案・実施
⇒ 郡内の公園の依頼を受け、水質・土壌調査を実施

8. 職業に対する興味促進
 昨年度の令和4年度は高校1年生向けに職業分野のイメージ動画とメタバース空間による分野のイメージを感じた上で、体験授業の実証授業を実施。

【令和4年度分野イメージ動画抜粋キャプチャ】

- 建築分野 (URL) <https://youtu.be/iKFQUYZJsg>
- インテリア分野 (URL) <https://youtu.be/efISOpSiiBg>
- 自動車整備分野 (URL) <https://youtu.be/XwmBtwStqRM>
- プログラミング分野 (URL) <https://youtu.be/ddXKI9IGcOQ>
- I T / D X 分野 (URL) <https://youtu.be/r0vOM6WfrA>

- 環境分野 (URL) <https://www.youtube.com/watch?v=IcIDMmKsKKE&t=3s>
- 【メタバース空間抜粋キャプチャ】
- 建築分野: <https://door.ntt/9ub8vHL/admirable-adventurous-barbecue>
- インテリア分野: <https://door.ntt/FaqS4uv/luminous-joyial-gathering>
- 自動車分野: <https://door.ntt/hWPKhGs/sturdy-cylindrical-convention>
- 環境分野: <https://door.ntt/QyKjoh/expert-decisive-exploration>

【体験授業テーマ（興味・関心を学生に抱いてもらうことを目的とした内容）：高校1年生向け】

体験授業分野	授業内容	備考
自動車	A S V の仕組み、予防安全、スマートアシストの体験	企業に協力を仰ぎ、自動ブレーキシステムの実車体験
建築	建築模型制作体験	1/100 スケールで建築模型の「切る」「削る」「組み立てる」体験
インテリア	ファッションに合ったインテリアコーディネート	Web 上で好きな家具などを選び自分なりのインテリアデザイン体験
情報（プログラミング）	ホームページの仕組み	WEB ページの原理を知ることから作成するまでの体験
I T / D X（データサイエンス）	「論理ゲーム」からデータサイエンスの世界を知る	論理的な考え方を理解する体験
環境	身近な所にある水の水質測定	日常生活を健康に過ごすための水環境の改善と保全を考える水質測定体験

【実証授業体験後の心の動き】
 令和4年度実証授業を体験した分野に対する自分の気持ち（興味と感心）を学生が評価したアンケートの結果（イメージ動画を見る前→見た後→体験授業を受ける前→受けた後で比較していく、数値「-5 ~ +5」の11段階）

【プログラミング実証授業アンケート結果】

■令和5年度開発する高校2年生向け体験授業教育プログラム

【体験授業テーマ（職業の具体的なイメージや期待感を醸成できる内容）：高校2年生】

体験授業分野	授業テーマ	体験内容
自動車	ロビンエンジンの分解・組み立て	2人1組でのエンジン分解作業を通して、手工具の正しい取り扱い方、測定器の正しい取り扱い方を学ぶ。また安全な整備作業の重要性を学び、エンジン整備の基本的な作業を体験する。
建築	模型用木材にて橋を作り、強度実験大会を行う	小さな断面の角材を組合せ、橋をデザインする。条件を守った中で一番安全かつ素敵な橋を作れる人を競う。
インテリア	自分たちが授業を受ける教室のリノベーションの提案	自分たちが学習、学校生活を送る教室のリノベーションの提案をおこなう。付箋に家具・設備や素材をスケッチや文字で記入し、教室と仮定した大きな用紙の上に付箋を貼り、各グループで教室の計画を提案・発表する。
プログラミング	テキストを生成AIで抜き出す	Web上のテキストデータを生成AIを活用して抜き出す。最新の技術を知る。
I T / D X（データサイエンス）	データサイエンティストの市場価値を可視化する	ネット上から、データサイエンティストに関する情報（求人情報等）を集め、分析する。その結果から、データサイエンティストの市場価値をみる。
環境	水環境と水生生物との関係	実際に採取してきた、川に生息している水生昆虫の種類を調べ、その川の汚濁の程度を調べる。

(2) 推し授業コマシラバス

当校各分野の卒業生の推し授業内容を抜粋し作成

①自動車分野

モータ制御実習

1	モーターの種類	1_1	シラバスとの関係	モーターの種類について理解する
		1_2	コマ主題	モーターの種類・特徴を理解する
		1_3	コマ主題細目	①DCモーターの長所・短所を理解する ②AC誘導モーターの長所・短所を理解する ③埋込永久磁石同期モーター長所・短所を理解する ④埋込永久磁石同期モーターの構造を理解する ⑤スイッチリラクタンスモーターの長所・短所を理解する
		1_4	コマ主題細目深度	①、②、③、⑤で各モーターの特徴、得手不得手について説明する ④現在EVやHVで流行となっているIPMSMのサンプルを現物確認させる
		1_5	次コマとの関係	B L D Cモーターの構造について理解する
2	モーターの制作 (実習)	2_1	シラバスとの関係	ブラシレスDCモーターを実際に製作する
		2_2	コマ主題	モーターの構造を実習で制作し理解する
		2_3	コマ主題細目	①構造を理解する ②位置制御を認識する ③結線処理を理解する
		2_4	コマ主題細目深度	①各自で考慮しつ作製をする能力を養う。B L D Cの構造についての理解を深める ②内容物のホールセンサの存在を認識し、位置制御していることを確認する ③結線処理を行い、不具合が無いが実際に動作させて確認する
		2_5	次コマとの関係	モーターの制御について理解する
3	モーターの制御	3_1	シラバスとの関係	モーターの制御について理解する
		3_2	コマ主題	モーターの制御種類・概要を理解する
		3_3	コマ主題細目	①コントローラー役割について説明 ②コントローラー種類について説明 ③電源種類について説明 ④電気ブレーキ。
		3_4	コマ主題細目深度	①コントローラーの役割を理解させる ②コントローラーの種類・概要・動作について理解させる ③電源の種類について理解させる ④電気ブレーキについて理解させる
		3_5	次コマとの関係	PWM方式のコントローラーを実際に製作させる
4	モーターの制御 (実習)	4_1	シラバスとの関係	DCモーターのPWMスピードコントローラー回路を実際に製作する
		4_2	コマ主題	モーターの制御を実習で体験する
		4_3	コマ主題細目	①回路内容を理解する ②速度制御を体験する ③電圧変化、出力パルスを確認・理解する
		4_4	コマ主題細目深度	①部品と回路図だけを投げ、各自でレイアウトを考慮しつつ回路作製をする能力を養う。MOS-FETについての理解を深める ②完成したコントローラーでモーターを駆動させ、可変抵抗のボリュームだけで速度制御が行えることを確認する ③オシロスコープで出力がどのようにされているか確認する
		4_5		

②建築分野

製図実習と法規関連

1	6.37m×6.37m木造在来工法二階建て住宅の平面設計1 : 階段と吹抜け	1_1	シラバスとの関係	6.37m×6.37m木造在来工法二階建て住宅の平面計画を行う
		1_2	コマ主題	6.37m×6.37m木造在来工法二階建て住宅の平面設計1 : 階段と吹抜け
		1_3	コマ主題細目	①階段 ②吹抜け
		1_4	コマ主題細目深度	木造在来工法二階建て住宅設計における階段と吹抜けの設計手法を理解し、エスキースが出来る
		1_5	次コマとの関係	6.37m×6.37m木造在来工法二階建て住宅設計のため、柱間と面積算定について理解を深める
2	前面道路と高さ制限	2_1	シラバスとの関係	住宅を高さ的に見て、その敷地内の立てることが可能なかを見極める
		2_2	コマ主題	前面道路と高さ制限
		2_3	コマ主題細目	①敷地の正確な把握 ②塀の位置と高さ ③外部での見え掛りの段差 ④前面道路の範囲の確認と作成 ⑤道路斜線の確認 ⑥高さ制限 ⑦境界線の表現 ⑧斜線の傾きに合わせた文字の記入
		2_4	コマ主題細目深度	前面道路から道路斜線を導き出して、住宅の位置が適しているかを確認する
		2_5	次コマとの関係	前面道路を描き、道路斜線が引けている

3	RCフレームの構造計画	3_1	シラバスとの関係	中規模以上の建築物に共通する基本事項を、500㎡規模の集合住宅を計画しながら学ぶ
		3_2	コマ主題	RCフレームの構造計画
		3_3	コマ主題細目	部材の構成、スパン、断面寸法、集合住宅特有の例外、モジュール
		3_4	コマ主題細目深度	基本となる原則の知識と手順
		3_5	次コマとの関係	計画を実践するために必要な基本の知識の1つ
4	法と条例の調査	4_1	シラバスとの関係	中規模以上の建築物に共通する基本事項を、500㎡規模の集合住宅を計画しながら学ぶ
		4_2	コマ主題	法と条例の調査
		4_3	コマ主題細目	法以外で守るべきもの、条例の調べ方、法の調査、東京都条例・中野区条例の調査
		4_4	コマ主題細目深度	基本となる原則の知識と手順
		4_5	次コマとの関係	計画を実践するために必要な基本の知識の1つ
5	法と条例の調査	5_1	シラバスとの関係	中規模以上の建築物に共通する基本事項を、2,500㎡規模の集合住宅を計画しながら学ぶ
		5_2	コマ主題	法と条例の調査
		5_3	コマ主題細目	法の調査、東京都条例・中野区条例の調査
		5_4	コマ主題細目深度	基本となる原則の知識と手順
		5_5	次コマとの関係	課題1で学んだ基本の知識を2,500㎡規模で実践するために必要な確認と補足
6	構造計画の確認	6_1	シラバスとの関係	中規模以上の建築物に共通する基本事項を、2,500㎡規模の集合住宅を計画しながら学ぶ
		6_2	コマ主題	構造計画の確認
		6_3	コマ主題細目	柱割、部材断面寸法、断面方向各部の寸法
		6_4	コマ主題細目深度	基本となる原則の知識と手順
		6_5	次コマとの関係	課題1で学んだ基本の知識を2,500㎡規模で実践するために必要な確認と補足
7	用語の定義2（面積・高さなど）	7_1	シラバスとの関係	建築基準法のうち、用語の定義「面積・高さ関係」を学びながら、法令集に慣れる
		7_2	コマ主題	用語の定義2（面積・高さなど）
		7_3	コマ主題細目	敷地面積、建築面積、床面積、延べ面積、築造面積、建築物の高さ、軒の高さ、階数、地盤面
		7_4	コマ主題細目深度	原則とおもな例外規定を知り、法令集を用いた調べ方に慣れる
		7_5	次コマとの関係	次回から学ぶ項目では、前回と今回の用語を用いる
8	集団規定・高さ制限1	8_1	シラバスとの関係	建築物の規模に関わる規定のうち、高さ制限について学ぶ
		8_2	コマ主題	高さ制限
		8_3	コマ主題細目	高さ制限の種類、道路斜線制限
		8_4	コマ主題細目深度	原則とおもな例外規定を知り、法令集を用いた調べ方を学ぶ
		8_5	次コマとの関係	今回は、道路斜線以外の高さ制限について学ぶ
9	集団規定・高さ制限2	9_1	シラバスとの関係	建築物の規模に関わる規定のうち、高さ制限について学ぶ
		9_2	コマ主題	高さ制限
		9_3	コマ主題細目	隣地斜線制限、北側斜線制限、絶対高さ制限、日影規制、高度地区
		9_4	コマ主題細目深度	原則とおもな例外規定を知り、法令集を用いた調べ方を学ぶ
		9_5		

③インテリア分野

校外学習：キッチンショールーム体験

1	国産キッチン：ショールーム体験 (ショールーム見学)	1_1	シラバスとの関係	<見学編> ショールーム見学 その1 キッチンの基礎知識を学んだことを、メーカーショールームで実際の商品を見て感じて、理解を深める
		1_2	コマ主題	「システムキッチンの実物を見て学ぶ：国産キッチンの実例」
		1_3	コマ主題細目	①システムキッチンの基本タイプ ②設備・機能 ③デザイン ④ショールームの利用方法
		1_4	コマ主題細目深度	①キッチンの構成要素を盛り込んだ間口2550mm。作業動線を考慮したレイアウト ②収納の工夫 ③扉の面材、ハンドル ④ショールームアドバイザーから利用方法のポイントを聞く
		1_5	次コマとの関係	講義だけではわかりにくい部分を、実際の商品を見て、触れて、理解する。特に、機能面の特徴をしっかり学ぶ
2	輸入キッチン：ショールーム体験 (ショールーム見学)	2_1	シラバスとの関係	<見学編> ショールーム見学 その2 キッチン計画論の締めくくりとして、世界のキッチンの代表であるドイツのシステムキッチンを見学する
		2_2	コマ主題	「システムキッチンの実物を見て学ぶ：輸入キッチンの実例」
		2_3	コマ主題細目	①世界のシステムキッチン ②ドイツの代表的なキッチンブランド ③デザインのトレンド ④ショールームの利用方法
		2_4	コマ主題細目深度	①ドイツ、イタリアのキッチン ②世界で初めてシステムキッチンを作った国の代表的ブランド：ボーゲンボール ③ショールームアドバイザーから利用方法のポイントを聞く
		2_5		

④情報（IT/IoT）分野

IoT開発実習2：AWSサービス

1	AWSサービスを用いた画像認識システムの構築①	1_1	シラバスとの関係	AWSサービスを利用した画像認識を体験し、IoT/画像認識システムの基礎的な技術の習得を目指す
		1_2	コマ主題	環境準備
		1_3	コマ主題細目	①AWS Cloud9とは ②AWS CLIとは ③AWS Amplify Consoleとは ④AWS Cloud9の環境構築 ⑤Amplify Consoleのデプロイ
		1_4	コマ主題細目深度	①AWS Cloud9の機能を知る ②AWS CLIの機能を復習する ③AWS Amplify Consoleの機能を知る ④AWS Cloud9の環境構築を学ぶ ⑤Amplify Consoleのデプロイを学ぶ
		1_5	次コマとの関係	次の授業に向けて、システム開発に必要な環境を準備し、必要な条件を整えておく
2	AWSサービスを用いた画像認識システムの構築②	2_1	シラバスとの関係	AWSサービスを利用した画像認識を体験し、IoT/画像認識システムの基礎的な技術の習得を目指す
		2_2	コマ主題	顔認識用のコレクションの作成
		2_3	コマ主題細目	①Amazon S3とは ②AWS CLIとは ③Amazon Rekognitionとは ④顔認識用コレクションの作成
		2_4	コマ主題細目深度	①Amazon S3がわかる ②AWS CLIについて復習する ③Amazon Rekognitionについて理解する ④Amazon Rekognitionで顔認識用コレクションの作成を学ぶ
		2_5	次コマとの関係	次の授業に向けて、システム開発に必要な環境を構築し、必要な条件を整えておく
3	AWSサービスを用いた画像認識システムの構築③	3_1	シラバスとの関係	AWSサービスを利用した画像認識を体験し、IoT/画像認識システムの基礎的な技術の習得を目指す
		3_2	コマ主題	顔認証のWeb APIを作成する
		3_3	コマ主題細目	①Web API、AWS Lambda、Amazon API Gatewayの復習 ②AWS APIの構築 ③AWSの画像認識
		3_4	コマ主題細目深度	①IoT開発実習1で学んだAPIの関連知識を復習する ②デバイスから外部APIに利用する方法を学ぶ ③JSON形式のファイルの取り扱いを学ぶ ④AWSでのAPI構築方法を学ぶ ⑤AWSの画像認識機能を知る
		3_5	次コマとの関係	次の授業に向けて、顔認識に必要なコレクションを作成し、必要な条件を整えておく
4	AWSサービスを用いた画像認識システムの構築④	4_1	シラバスとの関係	AWSサービスを利用した画像認識を体験し、IoT/画像認識システムの基礎的な技術の習得を目指す
		4_2	コマ主題	顔画像分析結果を取得するWeb APIを作成する
		4_3	コマ主題細目	①AWS画像認証機能を知る ②Web APIの作成を学ぶ
		4_4	コマ主題細目深度	①Amazon Rekognitionでの顔分析を知る ②顔分析用Web APIを作成し、デバイスからWeb APIを利用することを学ぶ
		4_5	次コマとの関係	次の授業に向けて、Web APIを作成し、必要な条件を整えておく

5	AWSサービスを用いた画像認識システムの構築⑤	5_1	シラバスとの関係	AWSサービスを利用した画像認識を体験し、IoT/画像認識システムの基礎的な技術の習得を目指す
		5_2	コマ主題	ログデータをクラウドにアップロードする
		5_3	コマ主題細目	①AWS IoT Coreとは ②Amazon Kinesis Data Firehoseとは ③Web APIから受け取った顔画像分析結果データを、クラウドに送信し蓄積する仕組みを構築する
		5_4	コマ主題細目深度	①AWS IoT Coreを復習する ②Amazon Kinesis Data Firehoseがわかる ③デバイス側のデータをクラウドに送信する手法を学ぶ ④AWSでのデータ蓄積方法を学ぶ ⑤AWSでのデータ収集環境を構築する
		5_5	次コマとの関係	次の授業に向けて、データを蓄積し、必要な条件を整えておく
6	AWSサービスを用いた画像認識システムの構築⑥	6_1	シラバスとの関係	AWSサービスを利用した画像認識を体験し、IoT/画像認識システムの基礎的な技術の習得を目指す
		6_2	コマ主題	ログデータの可視化を行う
		6_3	コマ主題細目	①ログデータの可視化 ②AWSのBIサービス ③データの分析手法
		6_4	コマ主題細目深度	①デバイス側から収集したログデータを可視化し分析する ②AWSのBIサービスの使用方法を学ぶ ③AWSのS3上に蓄積されたテキストデータの分析手法を知る
		6_5		

⑤ IT/DX（データサイエンス）分野

プロジェクト型授業

1	kaggleについて	1_1	シラバスとの関係	利用
		1_2	コマ主題	kaggleでのコンペティションの流れを理解する。
		1_3	コマ主題細目	1. kaggleとは 2. kaggleの立ち位置 3. 類似のプラットフォーム
		1_4	コマ主題細目深度	1. kaggleの概要 2. kaggleの注目度、メリット 3. SIGNATE
		1_5	次コマとの関係	登録前の情報収集
2	分析内容の共有	2_1	シラバスとの関係	利用
		2_2	コマ主題	kaggleコンペの分析内容の共有について注意しながらコンペを実施する
		2_3	コマ主題細目	1. プライベートシェアリング 2. 公開カーネル 3. コンペ終了後
		2_4	コマ主題細目深度	1. kaggleにおけるプライベートシェアリングの考え方 2. カーネルの公開と閲覧 3. データの破壊
		2_5	次コマとの関係	情報についての注意点の理解
3	Grand Masterのkernelレビュー	3_1	シラバスとの関係	分析テクニック、示唆
		3_2	コマ主題	Grand Masterの作成したkernelからテクニックを学び取る
		3_3	コマ主題細目	1. kaggleのランク 2. Grand Master 3. Grand Masterからの示唆
		3_4	コマ主題細目深度	1. メダルとランクの条件 2. 著名なGrans Master 3. Grand Masterのkernelのレビュー
		3_5		

⑥環境分野

野外実習：自然環境調査等

1	干潟の自然環境	1_1	シラバスとの関係	干潟の環境
		1_2	コマ主題	干潟の環境とは、三番瀬とは、干潟の保護保全について
		1_3	コマ主題細目	①三番瀬の干潟 ②暮らしている動植物 ③干潟におけるOECM ④保護と利用
		1_4	コマ主題細目深度	①干潟という特殊な環境について学ぶ、どのように重要か説明できる ②三番瀬という干潟の環境を知る ③どのような動植物がいるのかを知る、豊かな生物相（アザリなど） ④干潟の水質浄化機能 ⑤OECMについて学ぶ
		1_5	次コマとの関係	保全や調査方法
2	干潟での自然環境調査（ハントス）	2_1	シラバスとの関係	実際の干潟における調査の実施
		2_2	コマ主題	ハントスの調査
		2_3	コマ主題細目	①調査の目的、意義 ②調査方法 ③調査の必要部品や許可
		2_4	コマ主題細目深度	①実際に調査に必要な許可申請を知る ②干潟での調査方法、安全管理、気を付けるポイントを押さえる ③調査の目的、意義が分かる ④実際に観察（採取）することができる
		2_5	次コマとの関係	調査データの活用
3	干潟での自然環境調査（ハントス）	3_1	シラバスとの関係	実際の干潟における調査の実施
		3_2	コマ主題	ハントスの調査
		3_3	コマ主題細目	①調査の実施 ②同定
		3_4	コマ主題細目深度	①実際に調査に必要な許可申請を知る ②干潟での調査方法、安全管理、気を付けるポイントを押さえる ③調査の目的、意義が分かる ④実際に観察（採取）することができる
		3_5	次コマとの関係	調査データの活用
4	多摩川の自然環境調査の実際（水生生物の調査）	4_1	シラバスとの関係	調査の方法について、調査の実際
		4_2	コマ主題	多摩川沿いの動植物調査
		4_3	コマ主題細目	①調査の目的、意義 ②調査方法 ③見られる動植物
		4_4	コマ主題細目深度	①多摩川沿いの水生生物を行う意義、目的を知る ②調査方法が分かる ③危険生物などについて現地に行く前に予め予習しておく
		4_5	次コマとの関係	調査の目的、意義を理解し安全に実施
5	多摩川の自然環境調査の実際（水生生物の調査）	5_1	シラバスとの関係	たも網の使い方、捕獲の方法が分かる
		5_2	コマ主題	多摩川沿いの水生生物の調査
		5_3	コマ主題細目	①たも網の使い方 ②捕獲した生物の扱い方
		5_4	コマ主題細目深度	①たも網を使い、虫を捕まえることができる ②捕獲した生物の管理の方法が分かる
		5_5	次コマとの関係	調査時の水生生物採集の方法が分かるようになる
6	多摩川の自然環境調査の実際（水生生物の調査）	6_1	シラバスとの関係	捕獲した生き物の同定
		6_2	コマ主題	水生生物の同定方法
		6_3	コマ主題細目	①魚の同定方法 ②ヤゴの同定方法 ③カニの同定方法など
		6_4	コマ主題細目深度	①種類ごとの同定ポイントが理解できる ②二子玉治いの多摩川の特徴的な水生生物が分かる
		6_5	次コマとの関係	奥多摩・干潟・二子玉川の水辺での生物相を比較することができる
7	多摩川の自然環境調査の実際（水生生物の調査）	7_1	シラバスとの関係	調査を行うにあたって許可申請、生き物の生体展示
		7_2	コマ主題	調査を行うために
		7_3	コマ主題細目	①自然調査を行うための許可申請等 ②目的あつての調査
		7_4	コマ主題細目深度	①調査を行うためには、諸々の許可申請があることを知る ②水生生物の調査を行い、区民の方への多摩川への理解を深めることを目的としていることが分かる ③持ち帰った生き物の展示方法などが分かる
		7_5		

(3) 推し授業インタビュー動画（テキスト）

当校各分野の卒業生から専門学校に進学する高校生に向けたインタビュー動画を作成した。

①自動車分野（抜粋）：モータ制御実習

自動車整備分野

■イントロダクション



令和6年度自動車科専攻事業「専門学校による地域産業中核的人材育成事業」
専門学校と高等学校の有機的連携プログラムの開発・実証
自動車分野における高専連携の5年一貫教育プログラム開発・実証

■卒業生インタビュー
（インタビュー）今お仕事をされている、会社名とお名前をお願いします。
専門学校を卒業して何年目ですか？



現在お仕事をされている会社名とお名前をお願いします。
専門学校を卒業して何年目ですか？
東日本三慶自動車株式会社 八王子北野店
櫻井 欣生さん

（卒業生）東日本三慶自動車販売株式会社八王子北野店で自動車整備の仕事をしています。一般自動車整備士の櫻井です。専門学校卒業して2年目です。

自動車整備分野

（インタビュー）現在どのようなお仕事をしていますか？



現在どのようなお仕事をしていますか？
まだ一人前とは言えませんが

（卒業生）まだまだ一人前とは言えませんが、少しずつ様々な経験を積み重ねている充実した日々を過ごしています。お客様が安心・安全・快適に乗っていただくために車の健康診断的な定期点検をはじめ、車検整備などをしています。

（インタビュー）今お仕事をされている、会社名とお名前をお願いします。
専門学校を卒業して何年目ですか？



現在どのようなお仕事をしていますか？
仕事は1人で黙々とするのではなく

（卒業生）仕事は一人で黙々とするのではなく、先輩方と二人一組で仕事をしていて、先輩方に指導を受けながら仕事をしていますので、分からないことがあっても不安になることはありません。

自動車整備分野

ように気持ちの変化がでるとはビックリしました。少しでも車に興味を持った方、一緒に車業界を盛り上げていきましょう！

■講師インタビュー
自己紹介




専門学校 東京工科自動車大学校
副校長 國田 幸祐さん

（講師）東京工科自動車大学校中野校 副校長の國田です。

自動車整備分野

（講師）電気自動車に使われる「電池」の種類や特徴、動力となる「モータ」の種類や仕組み、そしてそのモーターを制御する装置についても学びます。



卒業生の「推し授業」ではどんなことを学ぶのでしょうか？
最終的には、自分たちでモータコントローラーを作り

（講師）最終的には、自分たちでモータコントローラーを作り、モータの動きをどうやってコントロールしているのかを体験して理解を深めます。

（インタビュー）この授業を通して身につけてほしい力とは？



この授業を通して身につけてほしい力とは？
電気回路の作成、制御内容の理解をすることで

（講師）電気回路の作成、制御内容の理解をすることで、実際に仕事に必要な電気自動車の整備解説書に書かれている内容の理解力が身に付きます。

（インタビュー）卒業生の「推し授業」ではどんなことを学ぶのでしょうか？



卒業生の「推し授業」ではどんなことを学ぶのでしょうか？
電気自動車に使われる「電池」の種類や特徴

②建築分野（抜粋）：製図実習と法規関連


建築分野

■イントロダクション



令和6年度 文部科学省委託事業「専修学校による地域産出中核的人材養成事業」
専門学校と高等学校の有機的連携プログラムの開発・実証
工業系分野における高専連携の5年一貫教育プログラム開発・実証

■卒業生インタビュー
(インタビュー) 今お仕事をされている、会社名とお名前をお願いします。
専門学校を卒業して何年目ですか？



現在仕事をされている会社名とお名前をお願いします。
専門学校を卒業して何年目ですか？
出典 生和コーポレーション株式会社
土井 俊志朗さん

(卒業生) 生和コーポレーション株式会社 設計部 土井と申します。専門学校卒業して二年目になります。

建築分野

(インタビュー) その授業の内容について簡単に教えてください。



その授業内容について簡単に教えてください。
実際の法律に則って実務に近い形で設計する授業です。

(卒業生) 実際の法律に則って実務に近い形で設計する授業です。決められた時間に何度も設計図を書くことで、正しいものの寸法を覚える授業です。

(インタビュー) なぜその授業を「推し授業」に選びましたか？



なぜその授業を「推し授業」に選びましたか？
現在、私が担当しているプロジェクトでは

(卒業生) 現在、私が担当しているプロジェクトでは、設計を通じて、デザインを考える人、構造を考える人、設備を考える人といった様々な人たちとやり取りをしています。

建築分野


■講師インタビュー
自己紹介



専門学校東京テクニカルカレッジ
建築科 科長 野上 和裕さん

(講師) 専門学校東京テクニカルカレッジ 建築科 科長の野上です。

(インタビュー) 業生の「推し授業」ではどんなことを学ぶのでしょうか？



卒業生の「推し授業」ではどんなことを学ぶのでしょうか？
製図実習の授業では、建築各部の様々な寸法を知り

(講師) 製図実習の授業では、建築各部の様々な寸法を知り、それを元に設計を行い住みやすい、利用しやすい建築を創り出す授業です。

建築分野



高校卒業後すぐに就職、または大学で学ぶのでもなく、専門学校で学ぶことのメリットは何と想いますか？
また、大学では一般教養も含め4年間が必要ですが

(講師) また、大学では一般教養も含め4年間が必要ですが、専門学校では建築の勉強に絞ることで、2年間で4年生の大学卒業と同様に2級建築士の受験や取得が可能です。



さらに近年は

(講師) さらに近年は卒業と同時に1級建築士にもチャレンジできるようになりました。大学よりも2年も早い受験が可能です。就職したい専門分野が決まっているならば、専門学校での学びが圧倒的に有利です。

③インテリア分野（抜粋）：校外学習（キッチンショールーム体験）

インテリア分野

■卒業生インタビュー

（インタビュー）今お仕事をされている、会社名とお名前をお願いします。専門学校を卒業して何年目ですか？



今お仕事をされている会社名とお名前をお願いします。専門学校を卒業して何年目ですか？
 提供：株式会社フレッシュハウス
新藤 守さん

（卒業生）株式会社フレッシュハウスの新藤です。学校を卒業して4年目です。

（インタビュー）現在どのようなお仕事をしていますか？



現在どのようなお仕事をしていますか？
会社では営業と現場管理の仕事をしています。

（卒業生）会社では営業と現場管理の仕事をしています。リフォーム等ご希望のお客様に伺って、ヒアリングと現地調査を行いプランの提案と見積の作成をします。暮らしやすい空間の提供を心掛けています。

インテリア分野

インテリア分野



その授業内容について簡単に教えてください。
最終授業では、キッチンのプランニングを行います。

（卒業生）最終授業ではキッチンのプランニングを行います。インテリアは実物の商品を見たり、触ったりしながらでないとしっかりと学ぶことができないと思いますのでその点でも、とても為になる授業でした。

（インタビュー）なぜその授業を「推し授業」に選びましたか？



なぜその授業を「推し授業」に選びましたか？
実際に国産メーカーや海外メーカーのショールームに見学に行って

（卒業生）実際に国産メーカーや海外メーカーのショールームに見学に行って、学校内の授業とは違い、実物を見たり触れたりしたことでクラスのみならずみんなもテンションが上がってワクワクしながら仕事できるって良いなと思いました。

インテリア分野

■講師インタビュー

自己紹介



専門学校 東京テクニカルカレッジ
インテリア科 科長 高山 寿一郎さん

（講師）専門学校東京テクニカルカレッジ インテリア科 科長の高山です。

（インタビュー）卒業生の「推し授業」ではどんなことを学ぶのでしょうか？



卒業生の「推し授業」ではどんなことを学ぶのでしょうか？
各インテリアエレメントの授業で校外学習を行なっていますが

（講師）各インテリアエレメントの授業で校外学習をおこなっていますが、キッチンに関する校外学習では、国産メーカー、海外のメーカーのショールームを見学しに行って、実物を見て触ったり、ショールームの方の説明を聞いたりしています。

（インタビュー）高校卒業後すぐに就職、または大学で学ぶのではなく、専門学校で学ぶことの強みは何だと思いますか？



高校卒業後すぐに就職、または大学で学ぶのではなく、専門学校で学ぶことの強みは何だと思いますか？
専門学校では、実際の仕事に直結する必要な内容が

（講師）専門学校では、実際の仕事に直結する必要な内容が授業に多く組み込まれています。実際にお仕事をされている方と一緒にものを作ることも授業に入っていますので、ふれあいながら一歩一歩着実に実践的な基礎知識が身に付くところだと思っています。



高校卒業後すぐに就職、または大学で学ぶのではなく、専門学校で学ぶことの強みは何だと思いますか？
大学とは違って理論的ではなく

大学とは違って理論的ではなく、実践できるスキルや技術を覚えるだけでなく、活かせる授業がたくさんあることです。

④情報（IT・IoT）分野（抜粋）：IoT開発実習2（AWSサービス）

情報 (IT・IoT)


■イントロダクション



令和6年度 文部科学省委託事業「専門学校による地域産業中核的人材養成事業」
専門学校と高等学校の有機的連携プログラムの開発・実証
工業系分野における高専連携の5年一貫教育プログラムの開発・実証

■卒業生インタビュー

(インタビュー) 今お仕事をされている会社とお名前をお願いします。
専門学校を卒業して何年目ですか？



今お仕事をされている会社とお名前をお願いします。
専門学校を卒業して何年目ですか？
提供:株式会社サワライズ
松山 祐一さん

(卒業生) 株式会社サワライズの松山祐一です。不動産や鉄鋼事業などの会社でSEをしています。2年目です。

情報 (IT・IoT)

(インタビュー) その授業の内容について簡単に教えてください。



その授業内容について簡単に教えてください。
IoTで重要なクラウドにデータを送信する技術が学べます。

(卒業生) IoTで重要なクラウドにデータを送信する技術が学べます。

(インタビュー) なぜその授業を「推し授業」に選びましたか？



なぜその授業を「推し授業」に選びましたか？
実際にデータを送信することによって

(卒業生) 実際にデータを送信することによって、センサーから取得したデータが、グラフで見られるようになり、そこから課題解決へとつなげる体験ができたので、創造力を養う実感を得ることができたからです。

情報 (IT・IoT)

■講師インタビュー

自己紹介



専門学校 東京テクニカルカレッジ
IoT + AI科 科長 藤原 瑞樹さん

(講師) 専門学校テクニカルカレッジIoT+AI科 科長の藤原です。

(インタビュー) 卒業生の「推し授業」ではどんなことを学ぶのでしょうか？




卒業生の「推し授業」ではどんなことを学ぶのでしょうか？
この「IoT開発実習2」の授業では

(講師) この「IoT開発実習2」の授業では、IoTやAIを活用した実習を通じて、

情報 (IT・IoT)

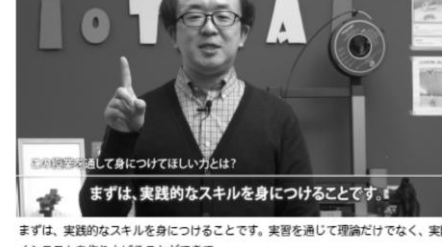
(インタビュー) この授業を通して身につけてほしい力とは？



この授業を通して身につけてほしい力とは？
主に3つあります。

(講師) 主に3つあります

(インタビュー) この授業を通して身につけてほしい力とは？



この授業を通して身につけてほしい力とは？
まずは、実践的なスキルを身につけることです。

まずは、実践的なスキルを身につけることです。実習を通じて理論だけでなく、実際に動くシステムを作り上げることができて、

⑤ IT/DX（データサイエンス）分野（抜粋）：プロジェクト型授業

IT/DX（データサイエンス）分野

■卒業生インタビュー

(インタビュー) 今お仕事をされている、会社名とお名前をお願いします。
専門学校を卒業して何年目ですか？



(卒業生) 株式会社PanGu 第二事業部の木村です。システムエンジニアとして働いています。専門学校卒業して1年目です。

(インタビュー) 現在どのようなお仕事をしていますか？



(卒業生) 主な仕事は、業界問わず、ソフトウェア開発をしています。今の仕事は、営業アプリと社内管理アプリを統合してひとつにする案件に携わっています。

IT/DX（データサイエンス）分野

(インタビュー) 卒業生の「推し授業」ではどんなことを学ぶのでしょうか？



(講師) 普段の授業ではデータ分析についてインプットを中心とした内容となりますが、校外学習では普段の授業で習得した技術をアウトプットする事に重点を置いています。



(講師) 具体的には、Kaggleというデータ分析のオンラインコンペに出る、あるいはChatGPTなどのAIを組み込んだシステムを構築するなど、

IT/DX（データサイエンス）分野

(インタビュー) なぜその授業を「推し授業」に選びましたか。



(卒業生) 推しのポイントとして、3つほどあります。

- ・1年生は先輩と一緒にやることでキャッチアップしてもらええること。
- ・次に、勉強面の知識に限らず、作業を進める上でのテクニックやグループワークでの立ち回りを学ぶことができること。



(卒業生) さらに、2年生は後輩に教えることで自分の知識の定着具合を確認することができるし、言語化することでさらなる定着にもつながるといったところです。

IT/DX（データサイエンス）分野



(講師) 一方、専門学校では専門的な技術を実務家が指導し、就職する事を前提に、業務で扱う技術の習得を2年間で行います。いち早く技術者として社会に出たいというニーズには答えられる場だと思います。



(講師) データサイエンスに関して言うと、必要な3つのスキルである「データサイエンススキル」「データエンジニアリングスキル」「ビジネススキル」のうち、専門学校では「エンジニアリング」と「ビジネス」が強いと言えるでしょう。

⑥環境分野：野外実習（自然環境調査等）

環境分野

■イントロダクション



令和4年度「文部科学省委託事業、専門学校による地域産業中核的人材養成事業」
専門学校と高専学校の有機的連携プログラムの開発・実証
工業系分野における高専連携の5年一貫教育プログラムの開発・実証

■卒業生インタビュー
(インタビュー) 今お仕事をされている、会社名とお名前をお願いします。
専門学校を卒業して何年目ですか？




梅田 将磨さん

(卒業生) 水 ing AM 株式会社 梅田です。松戸市を中心としたエリアの水をきれいにして
いる仕事をしています。専門学校卒業して3年目です。

環境分野

(インタビュー) その授業の内容について簡単に教えてください。




その授業内容について簡単に教えてください。

野外実習授業は「環境調査・管理・保全に関わる授業」

(卒業生) 野外実習授業は、環境調査・管理・保全に関わる授業で、教室の講義もありま
したが、野外実習が多く組まれたグループワークの活動でした。
近郊の山、街中、干潟など様々な場所に出かけて、自然環境の違いを知り環境を守る意味
を学びました。

(インタビュー) なぜその授業を「推し授業」に選びましたか？



なぜその授業を「推し授業」に選びましたか？

野外実習では、河川や干潟に棲む生物をつかまえ、生物の種類や、その生息地の
環境の状態を調べました。

(卒業生) 野外実習では、河川や干潟に棲む生物をつかまえ、生物の種類や、その生息地の
環境の状態を調べました。

環境分野

■講師インタビュー
(インタビュー) 卒業生の「推し授業」ではどんなことを学ぶのでしょうか？



卒業生の「推し授業」ではどんなことを学ぶのでしょうか？

株式会社 自然教育研究センター
深澤 いぶきさん

(講師) 街の公園、山、干潟などの多様な異なる場所の自然環境の違いを、実習を通して
それぞれの環境の大切さを感じる授業です。



卒業生の「推し授業」ではどんなことを学ぶのでしょうか？

また、どの自然環境もそれぞれに役割があることを理解して

(講師) また、どの自然環境もそれぞれに役割があることを理解して、広く環境保全につ
いて考えられるよう学習していきます。

環境分野

(インタビュー) 高校卒業後すぐに就職、または大学で学ぶのではなく、専門学校で学
ぶことの強みは何だと思いますか？



高校卒業後すぐに就職、または大学で学ぶのではなく、専門学校で学
ぶことの強みは何だと思いますか？

専門学校で学ぶことの強みは「実践的なスキルの習得」です。

(講師) 専門学校で学ぶことの強みは、「実践的なスキルの習得」です。



高校卒業後すぐに就職、または大学で学ぶのではなく、専門学校で学
ぶことの強みは何だと思いますか？

座学の授業だけではなく、実習や実験授業が多いため

(講師) 座学の授業だけではなく、実習や実験の授業が多いため、職業に直結したスキルや
知識を実践的に学ぶことができます。そのため、卒業後も即戦力として働くことができ
ます。

(4) 実証授業

①実施期間：令和7年1月17日（金）～2月7日（金）

②実施手法：オンラインによる実証授業の説明をし、当校卒業生の推し授業動画視聴後にワークを行い、指定様式に記入後提出

③実証授業内容：

専門学校入学予定者（専門学校0年生）対象に下記内容の実証授業を実施

体験授業分野	課題テーマ	受講人数
自動車整備	モータ組み立て実験	22
建築	階段の適合調査	5
インテリア	自分のお気に入りのインテリアを調べてみよう！	8
情報＋I o T	I o Tの利便性を考える	4
I T / D X (データサイエンス)	あなたが推しのために何ができるのか客観的な情報を分析。テーマ「推し活」	6
環境	冬の生きものを探索しよう！	1

(5) アンケート項目

【動画をみる前】の選択分野に関しての期待指数（興味・やる気・授業への期待）を教えてください。

*自分の気持ち（期待指数）を、「-5から+5」の11段階から選んでください。
-5が最も低く、+5が最も高いとします。

上記の期待指数にした理由

【動画をみた後】の期待指数を教えてください。

*自分の気持ち（期待指数）を、「-5から+5」の11段階から選んでください。
-5が最も低く、+5が最も高いとします。

上記の期待指数にした理由

この動画を見て、分野（入学予定の学科）の学びについての理解は深まりましたか？

この動画を見て、専門学校入学への意欲（やる気）について変化はありましたか？ 上記で「とてもそう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答した方
この動画を見て、専門学校での学びが「仕事」にどのように役立つかの理解は深まりましたか？
この動画を見て、専門学校での学びが「暮らし」にどのように役立つかの理解は深まりましたか？
この動画を見て、専門学校で学ぶことへの不安な気持ちは軽減されましたか？
【ワークに取り組む前】の期待指数を教えてください。 *自分の気持ち（期待指数）を、「-5から+5」の11段階から選んでください。 -5が最も低く、+5が最も高いとします。 上記の期待指数にした理由
【ワークに取り組んだ後】の期待指数を教えてください。 *自分の気持ち（期待指数）を、「-5から+5」の11段階から選んでください。 -5が最も低く、+5が最も高いとします。 上記の期待指数にした理由
全体を通して印象に残っていること

7. 構成機関・構成委員

(1) 高等学校

【役割】

職業意識の醸成と進路に対する意識や学習意欲を高めるため、高・専一貫教育プログラム開発における最適な内容とするため、先端技術者養成のプログラムのノウハウを提供して、様々な分野で社会の変化に対応できる「職業人」のキャリア形成を担う。等

【協力事項】

高・専一貫教育プログラム開発における課題抽出・分析協力／カリキュラム開発の提案・検討。等

	名称	役割等	都道府 県名
1	東京都立練馬工科高等学校	調査・研究、カリキュラム 開発、実証実験、普及検討	東京都
2	東京都立六郷工科高等学校	調査・研究、カリキュラム 開発、実証実験、普及検討	東京都
3	東京都立多摩工科高等学校	調査・研究、カリキュラム 開発、実証実験、普及検討	東京都

4	学校法人堀越学園堀越高等学校	調査・研究、カリキュラム開発、実証実験、普及検討	東京都
5	東京都立蔵前工科高等学校	調査・研究、カリキュラム開発、実証実験、普及検討	東京都

(2) 行政機関

【役割】

開発する高・専一貫教育プログラムの評価。等

【協力事項】

開発した教育プログラムの授業導入の妥当性等について評価。等

	名称	役割等	都道府 県名
1	東京都教育庁都立学校教育部	カリキュラム開発、評価	東京都

(3) 専門学校

【役割】

職業意識の醸成と進路に対する意識や学習意欲を高めるため、高・専一貫教育プログラム開発における最適な内容とするため、先端技術者養成のプログラムのノウハウを提供して様々な分野で社会の変化に対応できる「職業人」のキャリア形成を担う。等

【協力事項】

アウトプットニーズ調査・分析に関する手法・検討協力／カリキュラム開発の提案・検討／プログラム構成（テキスト内容構成や実証講座実施）に対するアドバイス（オンライン授業も含む）／GPA開発協力／最新情報を含めた資料提供や普及に関するアドバイス 等

	名称	役割等	都道府 県名
1	専門学校東京工科自動車大学校	調査・研究、カリキュラム開発、実証実験、普及検討	東京都
2	専門学校東京テクニカルカレッジ	調査・研究、カリキュラム開発、実証実験、普及検討	東京都
3	専門学校Y I Cグループ	調査・研究、カリキュラム開発、実証実験、普及検討	山口県

(4) 企業

【役割】

高・専一貫教育プログラム開発のバックアップ。等

【協力事項】

テキスト・実証講座開発協力（内容の精査、最新情報提供、その他アドバイス等）／AR・VRなどの先端技術教材開発のアドバイス／カリキュラム開発におけるアドバイス（企業ニーズに応えられたものになっているか等）／知的財産（主に著作権）侵害有無のチェックやアドバイス／実証講座講師・技術協力／汎用性の妥当等の評価・アドバイス。等

	名称	役割等	都道府県名
1	株式会社リクルート	コーディネーター、情報提供、汎用・普及	東京都
2	東京商工会議所中野支部	情報提供・評価	東京都
3	全国専修学校各種学校総連合会	情報提供・評価	東京都
4	ウエイズトヨタ神奈川株式会社	情報提供・評価・企業連携	神奈川県
5	東京スバル株式会社	情報提供・評価・企業連携	神奈川県
6	株式会社ケーユーホールディングス	情報提供・評価・企業連携	東京都
7	ソフトビューベリオン株式会社	情報提供・評価・企業連携	東京都
8	特定非営利活動法人NPOフュージョン長池	情報提供・評価・企業連携	東京都
9	一般社団法人Global Language	情報提供・評価	東京都
10	合同会社peer Quest	情報提供・評価・普及	東京都

(5) 企画推進委員会の構成員（委員）

【目的・役割】

事業全体の計画・スケジュール等の策定と進捗管理を行う全体会。

- ・各WGの事業計画・スケジュールの調整機関
- ・各WGの会議の調整と事業・KPIの進捗管理
- ・第三者評価の設計

	氏名	所属・職名	役割等	都道府 県名
1	佐藤 康夫	専門学校東京工科自動車大学校 理事・校長	事業責任者	東京都
2	影山 裕介	学校法人小山学園 成長戦略 推進本部長	事務局統括、汎用 性、普及検討	東京都
3	三浦 勝寛	株式会社リクルート まなび進 学情報D i v i s i o nリク ルート進学総研	コーディネーター、 情報提供、汎用・普 及	東京都
4	岡村 慎一	専門学校Y I Cグループ統括 本部 理事・統括本部長	情報提供・評価、普 及検討	山口県
5	長谷 克己	東京都教育庁都立学校教育部 ものづくり教育担当課長	情報提供・評価、普 及検討	東京都
6	林 努	東京都立練馬工科高等学校 統括校長	カリキュラム開発、 実証実験	東京都
7	鋳持 利治	東京都立六郷工科高等学校 校長	カリキュラム開発、 実証実験	東京都
8	前田 平作	東京都立多摩工科高等学校 校長	カリキュラム開発、 実証実験	東京都
9	掛本 寿雄	学校法人堀越学園堀越高等学 校 校長	カリキュラム開発、 実証実験	東京都
10	古藤 一弘	東京都立蔵前工科高等学校 校長	カリキュラム開発、 実証実験	東京都
11	安部 泰起	東京商工会議所中野支部 事務局長	情報提供・評価、普 及検討	東京都
12	山崎 年雄	ウエイズトヨタ神奈川株式 会社サービス部 技術教育室 技術教育グループ 主査	情報提供・評価・企 業連携	神奈川 県

13	嶋田 章二	東京スバル株式会社 総務部 人事課 課長	情報提供・評価・企業連携	神奈川県
14	稲垣 正義	株式会社ケーユーホールディングス 取締役専務執行役員	情報提供・評価・企業連携	東京都
15	経塚 真裕	ソフトビューベリオン株式会社 代表取締役	情報提供・評価・企業連携	東京都
16	小林健人	特定非営利活動法人NPOフュージョン長池 理事	情報提供・評価・企業連携	東京都
17	久保正仁	一般社団法人Global Language 代表取締役	情報提供・評価	東京都
18	浪川 舞	合同会社peer Quest 代表兼CEO	情報提供・評価・普及	東京都
19	菊田 薫	全国専修学校各種学校総連合会 参与	情報提供・評価・普及	東京都
20	白井 雅哲	専門学校東京テクニカルカレッジ 校長	カリキュラム開発、実証実験、普及検討	東京都
21	井上 真一	専門学校東京工科自動車大学校 世田谷校 副校長	カリキュラム開発、汎用化【自動車】	東京都
22	園田 幸祐	専門学校東京工科自動車大学校 副校長	カリキュラム開発、汎用化【自動車】	東京都
23	井坂 昭司	専門学校東京テクニカルカレッジ 副校長 情報処理科科長	カリキュラム開発、汎用化【情報・IT】	東京都
24	今野 祐二	専門学校東京テクニカルカレッジ 環境テクノロジー科科長	カリキュラム開発、汎用化【環境】	東京都
25	高山寿一郎	専門学校東京テクニカルカレッジ インテリア科科長	カリキュラム開発、汎用化【インテリア】	東京都
26	野上 和裕	専門学校東京テクニカルカレッジ 建築科科長	カリキュラム開発、汎用化【建築】	東京都
27	金井 伸也	専門学校東京テクニカルカレッジ データサイエンス+AI科科長	カリキュラム開発、汎用化【IT/DX】	東京都
28	藤原瑞卿	専門学校東京テクニカルカレッジ IoT+AI科科長	カリキュラム開発、汎用化【情報/IT】	東京都

29	二ノ宮健志	学校法人小山学園 成長戦略推進本部 副本部長	事務局	東京都
30	村山 健	学校法人小山学園 成長戦略推進本部 HRD事業部 部長	事務局	東京都
31	鈴木 遼介	学校法人小山学園 成長戦略推進本部 高専連携・入学相談部 部長	事務局	東京都
32	都留菜々子	学校法人小山学園 成長戦略推進本部	事務局	東京都

(6) プログラム開発WGの構成員（委員）

【目的・役割】

各分野の高・専一貫教育プログラム開発に必要な素材（撮影・ソフト）の骨子をつくる。

- ・コンテンツの抽出（開発ツール・素材等）：本事業協力の高等学校と当校は、各分野の教員レベルで事業開始と同時に取り組む体制を整えている。
- ・カリキュラムの作成と時間数…1科目30時限（2単位）
- ・科目の作成…受講前の前提とする修了科目の設定（カリキュラム・フロー）

	氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
1	佐藤 康夫	専門学校東京工科自動車大学校 理事・校長	事業責任者	東京都
2	影山 裕介	学校法人小山学園 成長戦略推進本部 本部長	事務局統括、汎用性、普及検討	東京都
3	三浦 勝寛	株式会社リクルート まなび進学情報Divisionリクルート進学総研	コーディネーター、情報提供、汎用・普及	東京都
4	岡村 慎一	専門学校YICグループ統括本部 理事・統括本部長	情報提供・評価、普及検討	山口県
5	林 努	東京都立練馬工科高等学校 統括校長	カリキュラム開発、実証実験	東京都
6	鋸持 利治	東京都立六郷工科高等学校 校長	カリキュラム開発、実証実験	東京都
7	前田 平作	東京都立多摩工科高等学校 校長	カリキュラム開発、実証実験	東京都

8	掛本 寿雄	学校法人堀越学園堀越高等学校 校長	カリキュラム開発、 実証実験	東京都
9	古藤 一弘	東京都立蔵前工科高等学校 校長	カリキュラム開発、 実証実験	東京都
10	山崎 年雄	ウエイズトヨタ神奈川株式 会社サービス部技術教育室 技術教育グループ 主査	情報提供・評価・企 業連携	東京都
11	嶋田 章二	東京スバル株式会社 総務部 人事課 課長	情報提供・評価・企 業連携	東京都
12	稲垣 正義	株式会社ケーユーホールディ ングス 取締役専務執行役員	情報提供・評価・企 業連携	神奈川 県
13	経塚 真裕	ソフトビューベリオン株式会 社 代表取締役	情報提供・評価・企 業連携	神奈川 県
14	小林 健人	特定非営利活動法人N P Oフ ュージョン長池 理事	情報提供・評価・企 業連携	東京都
15	白井 雅哲	専門学校東京テクニカルカレ ッジ 校長	カリキュラム開発、 実証実験、普及検討	東京都
16	井上 真一	専門学校東京工科自動車大学校 世田谷校 副校長	カリキュラム開発、 汎用化【自動車】	東京都
17	園田 幸祐	専門学校東京工科自動車大学校 副校長	カリキュラム開発、 汎用化【自動車】	東京都
18	井坂 昭司	専門学校東京テクニカルカレ ッジ 副校長 情報処理科科長	カリキュラム開発、 汎用化【情報・IT】	東京都
19	今野 祐二	専門学校東京テクニカルカレ ッジ 環境テクノロジー科科長	カリキュラム開発、 汎用化【環境】	東京都
20	高山寿一郎	専門学校東京テクニカルカレ ッジ インテリア科科長	カリキュラム開発、 汎用化【インテリア】	東京都
21	野上 和裕	専門学校東京テクニカルカレ ッジ建築科科長	カリキュラム開発、 汎用化【建築】	東京都
22	金井 伸也	専門学校東京テクニカルカレ ッジ データサイエンス+A I 科科長	カリキュラム開発、 汎用化【IT/D X】	東京都
23	藤原 瑞卿	専門学校東京テクニカルカレ ッジ IoT+A I科科長	カリキュラム開発、 汎用化【情報/I T】	東京都

24	二ノ宮健志	学校法人小山学園 成長戦略推進本部 副本部長	事務局	東京都
25	都留菜々子	学校法人小山学園成長戦略推進本部	事務局	東京都

(7) 課題・分析WGの構成員(委員)

【目的・役割】

各分野における人材ニーズ調査(タイトル)

- ・調査対象：連携企業
- ・調査名：科目特性(シラバス・コマシラバス調査)
- ・調査項目：コンテンツニーズ/必要な環境・設備(オンライン含む)/ツール/開発ソフト 等
- ・調査手法：インタビュー形式(ヒアリング調査)
- ・調査結果反映：実証講座の環境整備/プログラム開発項目への情報提供 等

	氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
1	佐藤 康夫	専門学校東京工科自動車大学校 理事・校長	事業責任者	東京都
2	影山 裕介	学校法人小山学園 成長戦略推進本部 本部長	事務局統括、汎用性、普及検討	東京都
3	三浦 勝寛	株式会社リクルート まなび進学情報Divisionリクルート進学総研	コーディネーター、情報提供、汎用・普及	東京都
4	長谷 克己	東京都教育庁都立学校教育部 ものづくり教育担当課長	情報提供・評価、普及検討	東京都
5	安部 泰起	東京商工会議所中野支部 事務局長	情報提供・評価、普及検討	東京都
6	菊田 薫	全国専修学校各種学校総連合会 参与	情報提供・評価・普及	東京都
7	都留菜々子	学校法人小山学園 成長戦略推進本部	事務局	東京都

(8) 実証実験WGの構成員(委員)

【目的・役割】

実証講座の地域・教育機関・時期等の選定のため。

- ・実証講座の可能な対象機関の選定(専門学校)：環境・設備(オンライン含む)、既存カリキュラム(受講の前提)、学事日程調整、受講対象者の履修状況、地域特性等
- ・時間割の仮設定
- ・受講対象者の仮設定

	氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
1	佐藤 康夫	専門学校東京工科自動車大学 校 理事・校長	事業責任者	東京都
2	影山 裕介	学校法人小山学園 成長戦略 推進本部 本部長	事務局統括、汎用 性、普及検討	東京都
3	林 努	東京都立練馬工科高等学校 統括校長	カリキュラム開発、 実証実験	東京都
4	釧持 利治	東京都立六郷工科高等学校 校長	カリキュラム開発、 実証実験	東京都
5	前田 平作	東京都立多摩工科高等学校 校長	カリキュラム開発、 実証実験	東京都
6	掛本 寿雄	学校法人堀越学園堀越高等学 校 校長	カリキュラム開発、 実証実験	東京都
7	古藤 一弘	東京都立蔵前工科高等学校 校長	カリキュラム開発、 実証実験	東京都
8	白井 雅哲	専門学校東京テクニカルカレ ッジ 校長	カリキュラム開発、 実証実験、普及検討	東京都
9	園田 幸祐	専門学校東京工科自動車大学 校 副校長	カリキュラム開発、 汎用化【自動車】	東京都
10	二ノ宮健志	学校法人小山学園 成長戦略 推進本部 副本部長	事務局	東京都
11	都留菜々子	学校法人小山学園 成長戦略 推進本部	事務局	東京都

8. 会議開催実績

(1) 第1回企画推進委員会会議①

- ・会議日時：令和6年6月26日（水）15：00～17：00
- ・会議形式：オンライン会議（ホスト：専門学校東京工科自動車大学校）
- ・出席者：16名
- ・会議次第：1. 挨拶、2. 委員自己紹介、3. (1) 事業趣旨・目的、連携機関、実施体制と各機関の役割(2)当該教育プログラムが必要な背景(3)開発する高・専一貫の教育プログラムの概要(4)令和5年度企業ヒアリング結果(5)令和5年度成果物：イメージ動画(6)職業分野(7)令和5年度成果物：メタバース空間(8)令和5年度実証実験(9)令和6年度取り組み(10)令和6年度スケジュール(案)
4. その他（連絡事項）

(2) 第1回企画推進委員会会議②

- ・会議日時：令和6年7月4日（木）10：00～12：00
- ・会議形式：オンライン会議（ホスト：専門学校東京工科自動車大学校）
- ・出席者：14名
- ・会議次第：1. 挨拶、2. 委員自己紹介、3. (1) 事業趣旨・目的、連携機関、実施体制と各機関の役割(2)当該教育プログラムが必要な背景(3)開発する高・専一貫の教育プログラムの概要(4)令和5年度企業ヒアリング結果(5)令和5年度成果物：イメージ動画(6)職業分野(7)令和5年度成果物：メタバース空間(8)令和5年度実証実験(9)令和6年度取り組み(10)令和6年度スケジュール(案)、
4. その他（連絡事項）

(3) 第1回プログラム開発WG会議

- ・会議日時：令和6年7月31日（水）15：00～17：00
- ・会議形式：オンライン会議（ホスト：専門学校東京工科自動車大学校）
- ・出席者：9名
- ・会議次第：1. 開会、2. 議事(1)本事業の振り返りについて(2)令和6年度実証授業の対象者について(3)映像教材・導入授業等について、3. その他（連絡事項等）

(4) 第2回プログラム開発WG会議

- ・会議日時：令和6年8月6日（火）9：00～11：00
- ・会議形式：オンライン会議（ホスト：専門学校東京工科自動車大学校）
- ・出席者：14名
- ・会議次第：1. 開会、2. 議事（1）本事業の振り返りについて（2）令和6年度実証授業の対象者について（3）映像教材・導入授業等について、3. その他（連絡事項）

第2章

令和6年度活動詳細

第2章 令和6年度活動詳細

1. ヒアリング実施概要

(1) 実施期間

- ◆令和6年10月15日～令和7年2月12日

(2) 実施先担当部署 等

- ◆企業：人事関係・採用担当者 等
- ◆高等学校：校長、進路指導担当、学科主任クラス 等

(3) 手 法

①当校の役割

- ・調査会社から作成された企業と高等学校の一覧表の中からヒアリング先企業と高等学校の選定を行う
- ・趣意書（事業概要）の作成をする
- ・企業と高等学校へのヒアリングを行う

②調査会社の役割

- ・調査先企業と高等学校の一覧表の作成
- ・当校が一覧表の中から選定した企業と高等学校に電話、もしくはEメールで連絡を取っていく。ヒアリングに掛かる時間は30分をベースに連絡を取っていく
- ・ヒアリング快諾企業や高等学校と検討企業や高等学校に趣意書（事業概要）を送付し、その後説明を行う（必要であれば協力先に出向いて事前説明をする）
- ・ヒアリングの同意を結び付けた企業と高等学校の連絡先を当校へ連絡し、その後スケジュール調整を行い実施していく
- ・調査会社は、ヒアリングに必要であれば同行する。ヒアリング終了後にヒアリングコメントの整理を行い、当校へ送付する
- ・議事進行のサポートを行う 等

③ヒアリング実施手法

- ・企業や高等学校へ直接訪問、もしくはオンラインで実施
- ・オンラインの場合は、基本的には調査会社がホストとなる

(4) ヒアリング項目

【企業ヒアリング項目】

- ①採用状況
- ②5年一貫教育プログラムについての感想：6分野を体験できる授業形態についてなど
- ③分野の魅力を伝える動機づけとしてのメタバースなど最新技術紹介を含めた取り組み
- ④授業内容について（高校1年生：ワクワク感、分野に興味・関心を抱かせることを目的に体験授業を中心、高校2年生：職業の具体的なイメージや期待感を醸成できる内容等）
- ⑤教育プログラムに取り入れてほしい内容（高校1年生、2年生、3年生）
- ⑥貴社に入社したいと考えている学生に、これだけは身につけていてほしいこと（コミュニケーション等ではなく、技術・スキル面について）
- ⑦これからの専門学校教育に求めること（主に技術・スキル面について）

【高等学校ヒアリング項目】

- ①進学、進路の状況や課題など
- ②5年一貫教育プログラムについての感想：6分野を体験できる授業形態についてなど
- ③分野の魅力を伝える動機づけとしてのメタバースなどの技術紹介を含めた取り組みについてご意見を申し上げます
- ④実施しました授業内容についてご意見を申し上げます（高校1年生：ワクワク感、分野に興味・関心を抱かせることを目的に体験授業を中心、高校2年生：職業の具体的なイメージや期待感を醸成できる内容等）
- ⑤貴校で同様の高専連携授業を実施するとなった場合、課題（ハードル）となる点を教えてください
- ⑥教育プログラムに取り入れてほしい内容（高校1年生、高校2年生、高校3年生）
- ⑦貴校に通う生徒に、これだけは身につけていてほしいこと（コミュニケーション等ではなく、技術・スキル面について）
- ⑧専門学校教育に求めること（技術・スキル面についてなど）

(5) 実施件数

分野	連絡件数	実施件数	実施割合 (%)
(企業) 自動車整備	12	1件	8.3%
(企業) 建築	16	2件	12.5%
(企業) インテリア	11	1件	9.1%
(企業) 情報 (IT・IoT)	20	3件	15%
(企業) IT/DX (AI系)	20	2件	10%
(企業) 環境	12	1件	8.3%
(高等学校) 工業/普通科	30	7件	23.3%
合計	121	17件	14%

2. 企業ヒアリング結果

(1) 自動車分野

<p>①採用状況</p> <p>・エンジニア54名 (内訳 専門学校：日本人9名、留学生：23名、短期大学：日本人1名、高校生日本人：21名)</p>
<p>②5年一貫教育プログラムについての感想：6分野を体験できる授業形態についてなど</p> <p>・就職に対する意識作りという意味では、高校1年生から始める事によるメリットはかなり大きいと考える。6分野についてと幅広く視点を広げられるのも、個人毎に違う感性を持っている事を考えると大変良い事だと思う</p>
<p>③分野の魅力を伝える動機づけとしてのメタバースなど最新技術紹介を含めた取り組み</p>

- ・メタバースの活用は、今の若い世代には大変有効だと思う。足を運ばなくても気軽に体験することが出来るので、仕事のイメージアップが出来て好奇心を持って次のステップに進めそう。非常に興味深い取組だと思う。企業でも取り入れたいと考えているが、非常に難しい取り組みである

④授業内容について（高校1年生：ワクワク感、分野に興味・関心を抱かせることを目的に体験授業を中心、高校2年生：職業の具体的なイメージや期待感を醸成できる内容等）

【高校1年生】

- ・業界の未来像を知ってもらう事で、仕事をする意味や将来像につながりそう。ワクワク感＝将来の自分への興味につながると思う。ただ、イメージばかりが優先して現実とのギャップが生まれにくい様にならないと、逆に興味を失う可能性もありそう

【高校2年生】

- ・未来像と現実を繋ぐ意味で重要なステップだと思う。具体的に体験する事で仕事のイメージが湧いてきて、自分がどの分野で活躍できるのか理解出来そう

⑤教育プログラムに取り入れてほしい内容（高校1年生、2年生、高校3年生）

【高校1年生】

- ・6分野に限らずもっと数多くの業種について学ぶ事が出来ると、自分に合った将来の方向性が広がると思う。これは仕事を始めたときのミスマッチの減少にもつながりそうだと感じた

【高校2年生】

- ・未来像が現実とつながっていることを理解出来るコンテンツがあると、普段の仕事から未来像へと考えたときに現実味が帯びて来そう

【高校3年生】

- ・専門学校へ進むと専門性が身につく事を体験授業や先輩の講話で気付いてもらうのは大変良いと思う。しかし、一方では事情があって高卒で働く方々もいると思うので、その方たちのケアも必要だと考える

⑥貴社に入社したいと考えている学生に、これだけは身に付けていてほしいこと

- ・まずは、車の基本構造をしっかりと身につけてもらう事で、現場での成長がかなり変わってくると思う。そのために整備士資格は必ず取ってもらいたい。また、いろ

いろいろな装置が電子制御になっているので、電気の基礎はしっかりと理解しておいてほしい

⑦これからの専門学校教育に求めること（主に技術・スキル面について）

- ・学生のうちに積極的に様々な体験を積み重ねて知識の幅を広げてほしいと思う。社会人になってからは企業毎の研修があると思うが、何事にも興味を持ち続けられるかが成長のカギになると思う。そういう意味では、専門学校の取組は学生にとって大きな意味を持っていると思う

<評価について>

高校生のときの就職意識作りは重要で、1年生からの取り組みは効果的で、メタバースといった最新技術を体験することは、興味を持たせる手法は有効との評価であった。

また、2年生では具体的な体験を通じて未来像と現実を結びつけ、3年生は専門性を身につける機会を段階的に設けている作り方には好感を得られている。

自動車整備士資格や電気の基礎知識を身につけることは成長に繋がる大切なものであると同時に、様々な体験を積むことも重要であることから専門学校の取り組みは学生にとって大きな意義があるとの評価が得られた回答傾向であった。

（2）建築分野

（※回答が重複した場合は一つで表示）

①採用状況

- ・学歴問わず行っている。資格を持っていてやる気がある人は歓迎
- ・この事業の取り組みを知ったきっかけで、今年度から枠を広げ、新卒卒で高専卒、専門学校卒を中途で採用するようになった

②5年一貫教育プログラムについての感想：6分野を体験できる授業形態についてなど

- ・おもしろいと思う
- ・きっかけづくりとしては、意味があると思う

③分野の魅力を伝える動機づけとしてのメタバースなど最新技術紹介を含めた取り組み

- ・おもしろいと思う。色々なツールがあるのは良いことと思う
- ・メタバース自体は一般的には見なくなったが、同じ空間内でチャットできたり、動画が見られたりするのをおもしろいと思う。動画も定期的に変えてほしい

④授業内容について（高校1年生：ワクワク感、分野に興味・関心を抱かせることを目的に体験授業を中心、高校2年生：職業の具体的なイメージや期待感を醸成できる内容等）

【高校1年生】

- ・気を引くという意味ではおもしろいと思う
- ・きっかけづくりとしては良いと思う

【高校2年生】

- ・限られた条件で様々なアイデアを巡らせるような体験授業方式は良いと思う
- ・モノづくりの楽しさを体験することは良いことと思う

⑤教育プログラムに取り入れてほしい内容（高校1年生、2年生、3年生）

【高校1年生】

- ・特になし

【高校2年生】

- ・橋づくりのように、様々な限られた条件で体験できるような授業。ルールと法律の存在を気付かせるような内容
- ・かじる程度で構わないので、安全性と法的な部分のルール、建物のデザインの関係性をおもしろく伝えるもの

【高校3年生】

- ・インタビュー動画の設定のような、社会人3年生ぐらいの先輩と触れる内容。決められた中で何をするのか、法律の大切さといったことを伝える授業
- ・法律的なことなどは、必要な知識なのでそこに卒業生からのコメントが入る動画は魅力がある

⑥貴社に入社したいと考えている学生に、これだけは身に付けていてほしいこと

- ・土木関係の基礎知識。資格は必要ない、覚悟をもって会社を選んでもらえればいい
- ・建築関係の資格取得

⑦これからの専門学校教育に求めること（主に技術・スキル面について）

- ・特になし
- ・建築関係の資格取得

<評価について>

ヒアリングの回答から、これまで専門学校卒を採用していなかった企業が本事業を知ることによって採用をはじめた変化が見られたことは、企業サイドにとっても考え方を考えるきっかけになる取り組みと思われる。また、最新技術紹介でメタバースを使った取り組みは参加者の興味を引く効果があるとの評価であった。

高校2年生向けの橋づくりの授業では、限られた条件下でモノづくりの楽しさを体験でき、法律や安全性の重要性を学ぶ内容が有益で、高校3年生には、社会人となった専門学校の卒業生からのインタビュー動画を通じて、法律の大切さや必要な知識を楽しく伝える授業が魅力的になっており、よりリアルな学びができる取り組みであるという評価が得られた回答傾向であった。

(3) インテリア分野

①採用状況

- ・大学と専門学校から採用している。比率は、男性が70%、女性が30%

②5年一貫教育プログラムについての感想：6分野を体験できる授業形態についてなど

- ・きっかけづくりとしては、意味があると思う

③分野の魅力を伝える動機づけとしてのメタバースなど最新技術紹介を含めた取り組み

- ・メタバース空間はよくできている。動画もあって面白い

④授業内容について（高校1年生：ワクワク感、分野に興味・関心を抱かせることを目的に体験授業を中心、高校2年生：職業の具体的なイメージや期待感を醸成できる内容等）

【高校1年生】

- ・きっかけづくりとしては良いと思う

【高校2年生】

- ・自身が楽しい空間を創造することで、その楽しさをお客様につなげる意識が持てることになると思う

⑤教育プログラムに取り入れてほしい内容（高校1年生、2年生、3年生）

【高校1年生】

- ・お客様に喜ばれる空間を楽しいと思えるような内容

【高校2年生】

- ・商売としての空間を提供する考え方

【高校3年生】

- ・実際に見る触れることの大切さを学ぶ内容

⑥貴社に入社したいと考えている学生に、これだけは身に付けていてほしいこと

- ・建築関係の資格取得、インテリアコーディネーターの資格

⑦これからの専門学校教育に求めること（主に技術・スキル面について）

- ・建築関係の資格取

<評価について>

メタバース空間は、高校生1年生にとってはすんなり入れるとともに、興味関心を与えるきっかけづくりに有意義で、動画も面白く、楽しさを与える作り方であると評価を得られている。高校2年生は、自身で楽しい空間を創造することで、お客様に喜ばれる内容や商売の考え方を学び、実際に見る・触れることの大切さを理解するといった内容となっていることが評価されている。このように、本事業の取り組みは高評価であるが、学生に資格取得させることが大前提という回答傾向は否めない。

(4) 情報（IT/IOT分野）

（※回答が重複した場合は一つで表示）

①採用状況

- ・大学院、大卒、専門学校卒、中途と採用。IT系をはじめ、Webデザイン、グラフィックデザイン系で採用することが多い
- ・大卒、専門学校卒、中途と採用。韓国との繋がりが深いため、韓国語がある程度できかないといけないハードルがある。今は、採用をしていない
- ・専門学校卒がメイン。毎年ではないが、Webデザイン系を採用している

②5年一貫教育プログラムについての感想：6分野を体験できる授業形態についてなど

- ・良い取組みと思う。工業系だけではなく、普通科や通信制などに需要があると思う
- ・おもしろい取組みと思う
- ・I o T技術は様々な分野で活躍できるので、高校生で段階で色々な分野の体験ができるのは良いと思う

③分野の魅力を伝える動機づけとしてのメタバースなど最新技術紹介を含めた取り組み

- ・おもしろいと思う、今の若い子たちはすんなり入れると思う。これにリアルをスムーズにつなげられるともっと良くなると思った
- ・韓国との繋がりがあるので、そういうところとつながると面白い。お互いの文化交流になると思う
- ・目立たなくなったが、メタバース空間はよくできていると思う。動画もあってきっかけづくりとしては面白い。ただ、体験が望ましい

④授業内容について（高校1年生：ワクワク感、分野に興味・関心を抱かせることを目的に体験授業を中心、高校2年生：職業の具体的なイメージや期待感を醸成できる内容等）

【高校1年生】

- ・ステップを踏んでいるところは良い。インプットは多いが、整理して出すアウトプットができる場があると良い
- ・ステップアップという段階的に上がっていくための基礎部分になるので良いと思った
- ・きっかけづくりとしては良いと思う

【高校2年生】

- ・インプットは多いが、整理して出すアウトプットができる場があると良い
- ・高校1年生の時は、概念的にとらえる取組みで、次のステップという具体的なところに一歩踏み込んでいるような内容になっていると思う
- ・センサのプログラミングを学ぶ体験ができる内容は良いと思う

⑤教育プログラムに取り入れてほしい内容（高校1年生、2年生、3年生）

【高校1年生】

- ・インプットは多いが、整理して出すアウトプットができる場があると良い。人格形成、役割認識、課題要素といったところにつながると思う
- ・韓国という外国と仕事をしている視点で申し訳ないが、外国の人との交流を今のIT技術を使ってやってほしい。プライベートではゲームでつながることはできるが、学ぶ視点で技術紹介をしてほしい
- ・ワクワクをテーマに掲げているような興味を持たせる内容

【高校2年生】

- ・インプットは多いが、整理して出すアウトプットができる場があると良い。人格形成、役割認識、課題要素といったところにつながると思う
- ・海外の文化的なものと視野が広がるのではと思った
- ・実施した授業のような体験授業で、IoT技術の具体的なイメージがもてるようなもの

【高校3年生】

- ・アウトプットできる機会を設ける
- ・専門学校、大学、社会人と進む道はそれぞれあるが、この先は外国の方との付き合いがより深くなると思うので、外国の文化を学ぶといったイレギュラー的なものもあって良いと思う
- ・IoT技術が社会にどのように役立っているか、実際の仕事内容の体験授業など

⑥貴社に入社したいと考えている学生に、これだけは身に付けていてほしいこと

- ・調べる力がほしい。単にネットとかで調べることはできても、それが正しいのかといったところまで何も言わなくてもできる姿勢を身に付けてほしい
- ・技術面やスキル面は基礎をしっかりと身に付けてもらえれば良い。IT系は特に会社によって取り組む内容が違うので、就職してから学ぶという感じで良いと思う。ただし、常に情報をキャッチすることと考える姿勢はこの分野では不可欠。新しい技術のことはもちろんであるが、それだけではない。技術の交流とか結び付けるといった考えることをやめないことを身に付けてほしい
- ・デザイン系、様々なWebデザインに触れて感性を身に付けてほしい

⑦これからの専門学校教育に求めること（主に技術・スキル面について）

- ・調べる力がほしい。単にネットとかで調べることはできても、それが正しいのかと
いったところまで何も言わなくてもできる姿勢を身に付けてほしい
- ・技術の交流というか結び付けるといった考えることをやめない人材育成をしてほ
しい
- ・特にない

<評価について>

ヒアリング回答から、本事業で取り組んでいることは、多様な学びの機会を提供して
いることの評価ではある。ただ、国際的な視野を広げる開発の要望の声もある。また、
学生たちは小さい頃からインプットすることばかりで、アウトプット場が少ないことか
ら、アウトプットの場を工夫して人格形成や役割認識、課題要素というところにつなげ
てほしいとの声もあった。

基礎からステップ踏んで段階的に上がっていく作りになっていることに評価を得ら
れている。正しい情報かどうかを調べる力や考えることをやめない人材育成が求められ
ている。

(5) IT/DX（データサイエンス）分野

①採用状況

- ・即戦力を求めているため、今は新卒ではなく中途重視で採用。大学卒、専門学校卒
で採用している
- ・新卒採用は、大卒がメイン。インターンシップから入社してくるパターンが多い。
中途採用でエンジニア部門で専門学校卒はいるが、人数は少ない

②5年一貫教育プログラムについての感想：6分野を体験できる授業形態についてなど

- ・取組みはおもしろい、我々の技術は様々な分野を相手にしているので、色々な分野
を体験できるものは良いと思う
- ・おもしろいと思う

③分野の魅力を伝える動機づけとしてのメタバースなど最新技術紹介を含めた取り
組み

- ・何がきっかけになるのか分からないので、色々あることは良いと思う

- ・おもしろいと思う

④授業内容について（高校1年生：ワクワク感、分野に興味・関心を抱かせることを目的に体験授業を中心、高校2年生：職業の具体的なイメージや期待感を醸成できる内容等）

【高校1年生】

- ・きっかけづくりとしては良いと思う
- ・ホームページの仕組みを知ることが基礎的な部分で内容は良いと思うが、ワクワク感にはつながらないと思う

【高校2年生】

- ・センサを動かすためのプログラミングが体験できるのが良いと思った。自分で作ったものが実際に動くに興味湧くと思う
- ・実際にプログラムしたものがどのように反応するか体験できる内容でおもしろいと思う

⑤教育プログラムに取り入れてほしい内容（高校1年生、2年生、3年生）

【高校1年生】

- ・色々な分野の体験授業
- ・具体的には思いつかないが、高校2年生の内容のようなモノとのつながり、自分がプログラミングすることで反応することができる内容が良いと思う

【高校2年生】

- ・費用面を考えなければロボットを動かすなどがあると面白いと思う
- ・実証授業の内容のバージョンが色々あるとおもしろいと思う

【高校3年生】

- ・年齢が近い先輩の声が聞けるのは良い機会と思う。どのようなことは実際の仕事に必要とされているのか、具体的なイメージが付くと思う
- ・仕事に寄り添ったような内容、インタビュー内容のクラウドの使い方とか良いかもしれない

⑥貴社に入社したいと考えている学生に、これだけは身につけてほしいこと

- ・技術的な面は基礎知識、あとは業界用語も含めた業界の知識。それ以外は会社に入ってから学べばよい

- ・技術者だけ求人募集しているのではないので、会社的には業界の知識。技術者は基礎力をしっかりと身につけていること

⑦これからの専門学校教育に求めること（主に技術・スキル面について）

- ・専門用語と業界用語、業界のことをしっかりと身につけてほしい。新卒採用をしていないのはこの理由
- ・基礎力をしっかりと身につける学習内容をしてほしい。業界を知る授業。会社や仕事にはそれぞれの役割があることを知る機会を設けてほしい

<評価について>

本事業の取り組み内容は全般的に方向性含め評価を得られている。評価を得られているからこそ色々な分野の体験ができるコンテンツを増やし、充実化を図ることが求められている。企業が求める人材では、専門用語や業界用語、業界の知識といった基礎知識と基礎力をしっかりと身に付けることが求められている。

（6）環境分野

①採用状況

- ・特に採用はしていない

②5年一貫教育プログラムについての感想：6分野を体験できる授業形態についてなど

- ・色々体験をしてみることができるのはよいと思う

③分野の魅力を伝える動機づけとしてのメタバースなど最新技術紹介を含めた取り組み

- ・おもしろいと思うが、授業への導入の仕方が思いつかない

④授業内容について（高校1年生：ワクワク感、分野に興味・関心を抱かせることを目的に体験授業を中心、高校2年生：職業の具体的なイメージや期待感を醸成できる内容等）

【高校1年生】

- ・きっかけづくりとしては良いと思う

【高校2年生】

- ・高校生に人の暮らしを支える職業であることが伝わるものであってほしい

⑤教育プログラムに取り入れてほしい内容（高校1年生、2年生、3年生）

【高校1年生】

- ・特になし

【高校2年生】

- ・特になし

【高校3年生】

- ・特になし

⑥貴社に入社したいと考えている学生に、これだけは身に付けていてほしいこと

- ・建築を通じた街づくりで環境のことに取り組んでいることが多いから建築の知識

⑦これからの専門学校教育に求めること（主に技術・スキル面について）

- ・特になし

<評価について>

色々な分野の体験ができるといった本事業の取り組みは評価が得られている。

3. 高等学校ヒアリング結果

①進学、進路の状況や課題など

- ・神奈川県内の大学・専門学校への進学が多い。工業系への進学者は少なく、専門学校だと医療系、デザイン系などへの進学者が多い
- ・進学が8割くらい／うち7-8割が専門学校／専門学校のうち2割程度が県外進学、県外は福岡が多数、大阪、東京が少しずつ、工業系（建築、情報、デザイン）が多い、大学・専門学校には優劣つけずに進路指導している、入学時から専門科目を学ぶ生徒達なので行きたい進路を選ばせている。
- ・進学70%（大学30%/専門40～50%）、就職が20～30%。専門高校ではあるが工業高校と比べ進学者が多い。食物調理科、電子機械科、情報技術科は一定就職がいる。デザイン科、服飾デザイン科は高卒求人がないため、美大、デザイン系専門学校に進学。高校と同じ敷地にデザイン専攻科あり
- ・大学（4大、短大）5：専門5、大学進学率を高めたいなどの方針はないが、親の希望も含めて少しずつ大学進学希望者が多くなっている。学校としては個性を重視して、本人のやりたい分野に応じて専門含めた選択肢を提示する。

- ・県内進学も前提ではなく、新潟・仙台・北関東に多く出て行く。東京ど真ん中は警戒して周囲に行く人が一定数いる。個人的には必ず大学を選択肢に入れる必要はなく、専門、理系進学はメリットが多いと思う。何も考えずに進学せずやりたいことを見つけて欲しい
- ・進学65%、就職35%くらいになり、進学傾向が強くなった。うち6-7割は専門学校。工業系のほか医療看護福祉ペット保育美容食品が多い。求人は変わらず多く来るが、保護者の進学傾向が今年は強かった
- ・ほぼ進学/県外が30% 県内は専門学校の割合が高いが県外進学は大学が主で、専門学校は10-15人くらい。自分で調べて希望分野の学校に行く生徒が多い。専門学校は理系分野ではゲーム、デザイン、が多い印象。ITも多少。自動車分野はちらほら
- ・300名くらいが進学、3割くらいが県外。福岡が中心、大学を含めると東京も毎年10人くらいは進学している印象。琉大、私大、県外でも自分で探して中堅私大くらいへ進学する。県外へ行く人は自分で色々調べている印象。進路相談にもくるが、県内進学者はとりあえず進学している生徒もいる

②5年一貫教育プログラムについての感想：6分野を体験できる授業形態についてなど

- ・1年生のうちから興味関心を高めるための取組みが出来ていることは良い。3年生の進路決定後や、テスト期間終了後は授業メニューに困ることが多いのでこういった外部での受講は受け入れやすく、経験が増えるので良さそう
- ・分野意識は高いが、「絵をかくのが好きだからデザイン科」など素朴な考えで入学している生徒もいるので他分野を知るきっかけになるので良い取り組みだと思う
- ・授業外の学びが出来る機会・高校でやる以上の教育や携わっていなかった分野の授業を受けられる機会があるのは、進路職業選択時の幅が広がるので非常に良い取り組みだと思う
- ・自動車、環境など同高校ではあまり触れることのない分野でも選択できると視野が広がって良いかもしれない
- ・学年を追って数年間継続して実証をしているのは面白い

③分野の魅力を伝える動機づけとしてのメタバースなど最新技術紹介を含めた取り組み

(回答を得られなかった)

④授業内容について（高校1年生：ワクワク感、分野に興味・関心を抱かせることを目的に体験授業を中心、高校2年生：職業の具体的なイメージや期待感を醸成できる内容等）

【高校1年生】

（回答を得られなかった）

【高校2年生】

（回答を得られなかった）

⑤貴校で同様の高専連携授業を実施するとなった場合、課題（ハードル）となる点を教えてください

- ・広域通信制のため、メニューを組んでも毎回来校参加する生徒の確約ができない。理解力の部分に課題がある生徒や個性が強い生徒が多いため、生徒毎に合わせた対応が必要
- ・学科毎での取り組みになるので、授業・教員・専門学校側の日程調整が難しい、県外から出張授業で来てもらうには更にハードルがあがる、オンラインで出来る授業があるなら先生に紹介出来るが、具体案がきていない
- ・食物調理科は調理師免許を取得するため、実習時間等の確保でカリキュラムが固定されており空き時間がほぼない。他の授業との調整や教員の確保も課題
- ・遠方のため、定期的な授業開催は難しい。また、理系の授業が少し冷遇されている環境なので設定ハードルが学内的に高いかもしれない。該当分野の希望生徒も多くはない。やるなら課題研究の時間を使って希望制でプログラムを組む形になる。1年生などの若年時から進路、分野の選択肢を広げるための内容をくみたい
- ・食品サイエンス科のみになるので、分野都合上連携授業が出来る内容が少なくなる。また、東京テクニカルカレッジで言うところのバイオテクノロジー科の学びは連動できる要素もあるが、実際のところ開発、分析への進学就職ではなく販売、調理系が多いので進路選択幅を広げる意味でも何をやって貰うか検討してから連携授業を実施しないと意味がなくなるので、スタートまでによく検討が必要
- ・教員や授業内での日時調整、オンラインでどこまで出来るのかの実現可能性
- ・県外の学校企業と実施する場合は来てもらうための日時の調整が一番のハードル。あとは共通して教員の手配、授業時間の調整、成績評価方法など。進路指導からは各学科に紹介するまでなので原則科毎での調整が必要。オンラインになる場合の授

業内容も限られてくるので内容策定も難しそう

⑥教育プログラムに取り入れてほしい内容（高校1年生、2年生、3年生）

【高校1年生】

- ・デジタル的な経験よりも実物などに触れるリアルな経験。具体的な体験で難しいイメージ先行ではなく、簡単な体験。例えば、バイクにまたがる、車に乗ってみるなど・・・
- ・進路を決める前に、色んな分野の就職先・仕事内容・OBによる働き方 など具体的に将来像をイメージできる授業があると良い
- ・1、2年生対象：自分の学んでいる内容が実社会や物事、商品何でも良いがどのように具体化されているのかわかる内容、自分の学んでいることがここにどう活かすことができる、という実感を持たせることで学びのモチベーションをあげたい
- ・高校の授業ではやれないような専門的な授業、進路選択の年次に入る前に世の中には色んな仕事や分野や学校があることが分かるような授業、車など普通高校では馴染みのない分野に興味を持てる内容
- ・文科委託にあるような、分野の視野を広げる取り組み。東京の学校が実施するのであれば東京都で働くことが想定できる内容 など

【高校2年生】

- ・業界の仕事内容を理解し、実際に見学や、仕事を体験するなど イメージをつけることのできる内容

【高校3年生】

- ・今回実施するOBインタビューについてはリアクションが良い

【学年問わず回答】

- ・高校教員の教えられる内容が古くなっているという課題あり。最新の業界情報や技術を体験できる内容/上級学校や企業と連携した授業、課題研究/進学後（5年一貫教育プログラム終了後）のキャリアパスを示せるようなプログラム

⑦貴校に通う学生に、これだけは身に付けていてほしいこと

- ・特に応募要件で求めているが、専門学科が多いのである程度やりたいことをイメージして入学をしてくる生徒が多い。そうでないと辞めてしまう
- ・専門高校なので仕事に就いた時に生きる技術を付けて欲しい。その点で、製造の場で自動化が進む中で旋盤の授業などカリキュラムの見直しも課題である

- ・個性を重視したいので、やりたいことや興味のあることを持ち続けて貰いたい
- ・特色のある学校になるので、少なくとも食、科学分野に興味があると良い

⑧専門学校教育に求めること（技術・スキル面についてなど）※現時点のご意見で構いません

- ・個性の強い生徒が多い学校なので、勉強面だけではなく、学校生活面でのフォロー
- ・どんな資格が取れるか、どんなスキルが身に付くか、が分かること。具体的にどこに就職しているか
- ・高校では一般科目もあるので、専門学校ではより専門スキルを取得してほしい。高卒求人にはない企業、職種への就職
- ・進路指導の観点からだと、専門学校に進学をしたあとの具体的な将来像（どこに就職するのか、どんなキャリアを歩んでいるのか、何の資格を何割の人が取得しているのか、明確に）を提示してほしい。専門学校を知らない人が大半なので、大学と差別化するなら本人、親、進路の先生を納得させるための具体的な情報が必要。入学後、専門学校で学ぶ知識やスキルが大変有意義であることは個人的には認識している
- ・高校では出来ないこと／資格スキルの取得／高卒では行けない企業への就職
- ・社会に出てどこに行っても活躍、通用するような技術を身につけさせること、就職実績や資格取得など
- ・まずは就職、資格実績。大学と違うのであれば何がどう違うのか分かる内容

<評価について>

興味関心の向上として、1年生から外部での受講は、進路選択の幅を広げる良い機会であり、他分野の知識を深めることができる。実践的な学びとしても、リアルな体験（例：バイク、車の試乗）を通じて進路の具体像をイメージできる、専門的な授業による実社会とのつながりを強化できる内容となっている。

また、学年別の取り組みについても、1年生では、多様な分野の紹介、具体的なキャリア体験。2年生では、業界理解を深める見学や体験。3年生ではOBインタビュー動画教材といった取り組みについても評価が得られている。

一方で、協力することに関しては、来校参加の生徒確約が難しく、個別対応が求められること、授業日程や教員の手配が課題でそれが学校の負担となる。

専門学校に求めることについては、専門的なスキルを身に付ける。専門学校に進学した後の将来像の提示、専門学校を知らない学生や親、進路指導の先生がいるのでそれを

どのように納得させることができるのかといった回答結果であった。

4. ヒアリングまとめ

(1) 企業ヒアリングまとめ

①学年別の取り組みと段階的な学びの構築

仕事について考えるきっかけづくりとしてよい取り組みとの評価。多様な分野について視野を広げることができるのも良いとの意見。1年生には分野の興味・関心を持たせるためのイメージ動画、2年生には具体的な体験を通じて未来像を結びつけ、3年生には卒業生の声と専門性を身に付ける機会を提供することについて、未来像と現実をつなぐ意味で重要、と好感が持たれている。

②具体的な授業内容の評価

導入部分としての1年生の体験授業は、ワクワク感が将来の自分への興味につながると思う、との意見。2年生の仕事のイメージを付けることができる体験授業は、限られた条件で様々なアイデアを巡らせることができ、モノづくりの楽しさも知れる内容、との意見。3年生の卒業生インタビュー動画は、仕事のイメージをする機会づくりとして高評価であり、年齢が近い先輩の声を聞けるのは良いとの意見。

③全体的な評価と今後の課題

本事業の取り組みの方向性は評価されているが、国際的な視野を広げる要望や実施分野の拡充、体験コンテンツの充実化やアウトプットの場を提供することが求められている。また、工業系高校だけでなく普通科高校や通信制高校にも需要があると思う、との意見も見られた。

(2) 高等学校ヒアリングまとめ

①多様な学びの提供

他分野の知識を深める機会や、リアルな体験（例：バイク、車の試乗）を通じて進路の具体像をイメージできる。

②学年別の取り組みと段階的な学びの構築

1年生では、多様な分野の紹介とキャリア体験、2年生では、業界理解を深める見学や体験、3年生では、OBインタビュー動画教材の利用といった段階的にステップを踏んでいける作り方に好印象。学年を追って数年間継続して実証をしているのは面白い、といった意見も見られた。

④協力の課題

来校参加の生徒確約が難しく、個別対応や授業日程、教員手配といった学校の負担増があることが課題となっている。また、専門系学科の多い高校については、事前に授業内容をよく検討する必要があるとの意見。

④専門学校への要望

就職先や資格取得に関することをはじめ、専門的なスキルの習得と、進学後の将来像を明示することが求められている。特に、専門学校を知らない学生や親への情報提供が重要。

2. 実証授業

1. 実証授業概要

- ・日時：令和7年1月17日（金）～令和7年2月7日（金）
- ・対象：専門学校進学予定の高校3年生と協力校の高校3年生（専門学校0年生）
- ・目的：専門学校のカリキュラムが仕事とどのように関係し、つながっているのかということ、高校生に伝え足りないところがある。専門学校ではなぜこのような授業内容となっているかといった疑問的なところを専門学校に進む生徒のため、入学前に事前に解消する必要がある。漠然と進学するのではなく、目指す職業人としての必要な知識（資格）の認識を高める効果を目指す。
- ・手法：各分野の卒業生の推し授業動画を視聴し、指定されたテーマに沿ってワークを行う。
- ・実施分野と受講人数：

分 野	受講人数
自動車整備	22
建築	5
インテリア	8
情報（IT/IoT）	4
IT/DX（データサイエンス）	6
環境	1
合計	46

2. 各分野実証授業テーマと内容

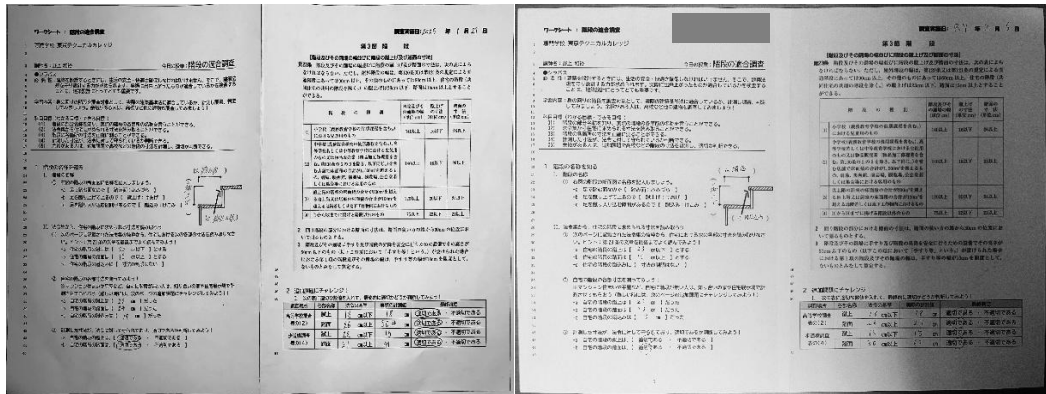
（1）自動車整備分野

- ①当校の卒業生・教員による「専門学校でのオススメ授業」紹介動画の視聴（5分程度）
- ②簡易モーター組み立て実験 ★オンラインにて実施（30分程度）
- 参加場所：自宅（オンラインにてつなぎ、先生の説明をききながら一緒に行います）
- 日時：【2025年1月28日（火）17:00～18:00】
- 準備するもの：事前に送付した材料、セロハンテープ、乾電池（単3）

(2) 建築分野

- ①当校の卒業生・教員による「専門学校でのオススメ授業」紹介動画の視聴（5分程度）
- ②レポート課題：身の回りの階段を調査対象として、実際の建築基準法に適合しているか、計測し調査、判定してみよう！※提出物あり（A3用紙1枚）

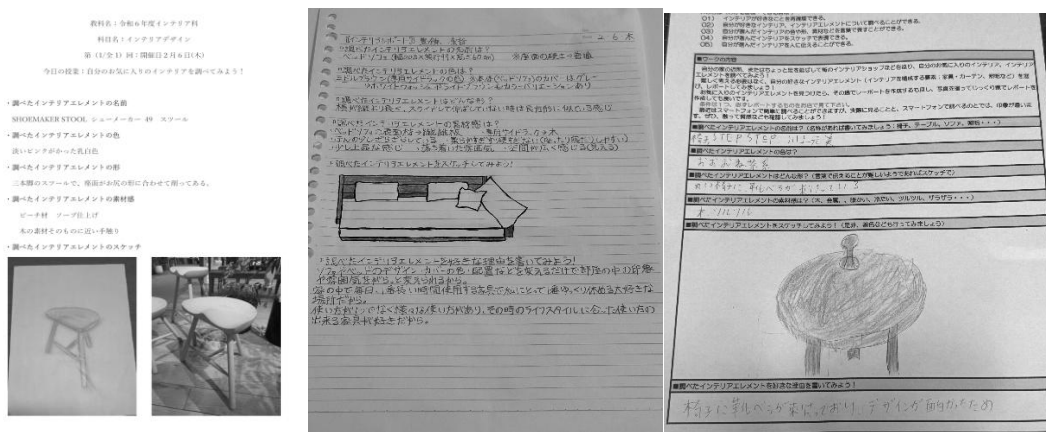
【ワーク提出物（抜粋）】



(3) インテリア分野

- ①当校の卒業生・教員による「専門学校でのオススメ授業」紹介動画の視聴（5分程度）
- ②レポート課題：自分の好きなインテリアエレメントについて色、形、素材、大きさ、デザインを調べてみよう！※提出物あり（A4用紙1枚程度）

【ワーク提出物（抜粋）】



(4) 情報（IT/IoT）分野

- ①当校の卒業生・教員による「専門学校でのオススメ授業」紹介動画の視聴（5分程度）

- ② I o Tとはなにか?について資料を読んで学ぶ(10ページ程度)
添付している資料を読み、I o T技術がどんなものか、I o Tは生活の中のど
んなところで使われているのかを知りましょう。
- ③ レポート課題:日常生活で「困っていること」や「こうなったら便利だろう
な」を解決できるデバイスやサービスを1つ考えてみる。※提出物あり(A4
用紙1枚程度)

【ワーク提出物(抜粋)】

<p>モバイルバッテリー置き忘れ防止システム</p>	<p>提案</p>
<p>問題点 ・ホテルなどに泊まった際充電をして置き忘れる ・カフェなどに使ったあと置き忘れる</p>	<p>IoTモバイルバッテリー置き忘れ防止システム ・Bluetoothトラッカーを活用し、紛失時に位置情報を確認できるようにする。</p>
<p>調査 ・スマートタグを付けることで位置情報を確認する技術がある。 ・モバイルバッテリーを置き忘れ、離れてしまってもスマホの通知などで知らせてくれる技術もある。</p>	<p>・スマホと連携し、一定範囲を離れるとヴァイブレーションやアラームでの警告が来るようにする。</p>
<p>提案</p>	<p>利便性</p>
<p>IoTモバイルバッテリー置き忘れ防止システム</p>	<p>・ユーザーは置き忘れが減り、紛失をすることが少なくなる。</p>
<p>・Bluetoothトラッカーを活用し、紛失時に位置情報を確認できるようにする。</p>	<p>・いつでも自身の手元にあるか、確認することが出来る。</p>

(5) IT/DX(データサイエンス)分野

- ① 当校の卒業生・教員による「専門学校でのオススメ授業」紹介動画の視聴(5分程度)
- ② レポート課題:あなたの「推し」が活躍するために何をすれば良いかを考える。※提出物あり(A4用紙両面1枚)

【ワーク提出物(抜粋)】

(6) 環境分野

- ①当校の卒業生・教員による「専門学校でのオススメ授業」紹介動画の視聴（5分程度）
- ②レポート課題：近所の公園や野山などを探検し、「冬の生きもの」を見つけ、見つけた植物・昆虫・鳥についてレポートする。※提出物あり（A4用紙両面2枚）

【ワーク提出物（抜粋）】



3. 実証授業アンケート結果

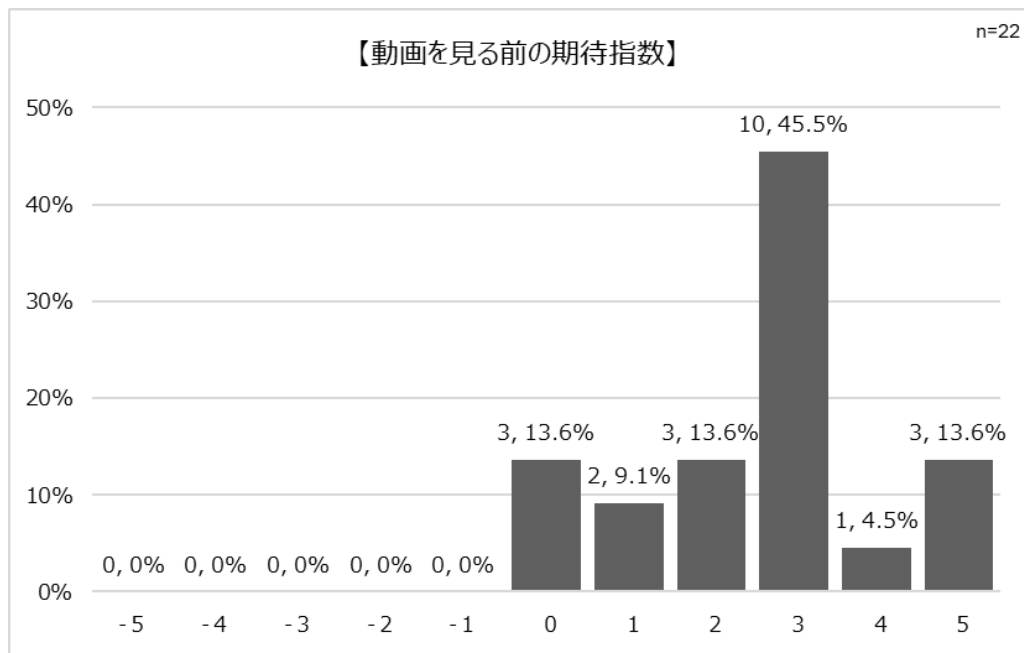
(1) 自動車整備分野

- ①【動画をみる前】の選択分野についての期待指数（興味・やる気・授業への期待）を教えてください。＊自分の気持ち（期待指数）を、「-5から+5」の11段階から選んでください。-5が最も低く、+5が最も高いとします。

n=22

期待指数	回答数	割合
-5	0	0%
-4	0	0%
-3	0	0%
-2	0	0%
-1	0	0%
0	3	13.6%
1	2	9.1%
2	3	13.6%
3	10	45.5%
4	1	4.5%
5	3	13.6%
	22	100%

自動車整備分野に進学する予定者は、期待値が高い傾向である。



②上記①の期待指数にした理由

- ・それなりに興味が出たから
- ・どのようなことをするのかよくわからなかったから
- ・どのような授業内容か興味を持っていたから
- ・どの会社に就職ができるか不安だった
- ・どんなことをするのかは知らないけどやってみたい気持ちがあった
- ・どんな授業があるのか気になっていた
- ・もともと興味のある分野だったため
- ・やる気はありましたが、ついていけるかなど、あまり自信がない不安な気持ちだったため
- ・よく分からなかったため
- ・学校で授業など上手くやっていけるか心配でした
- ・今やっている自動車の勉強からよりレースなど専門的なことも勉強できることが凄く楽しみで頑張りたいから
- ・今回の簡単な授業で楽しくゆっくり学べたことがとても良かったです
- ・自動車が好きだから
- ・自動車に興味があるから
- ・自動車業界に対する期待を感じつつ、自分ができるかどうかという不安がある

- ・自分の好きなことを勉強するため
- ・少し興味があった
- ・少し未来に不安があるから
- ・前々から高校の授業で東京工科さんの授業などみてやはり期待通りだと思いました
- ・入学が楽しみだから
- ・入学するのが楽しみだったから
- ・分からないことが多いから

<期待指数に関するコメントから>

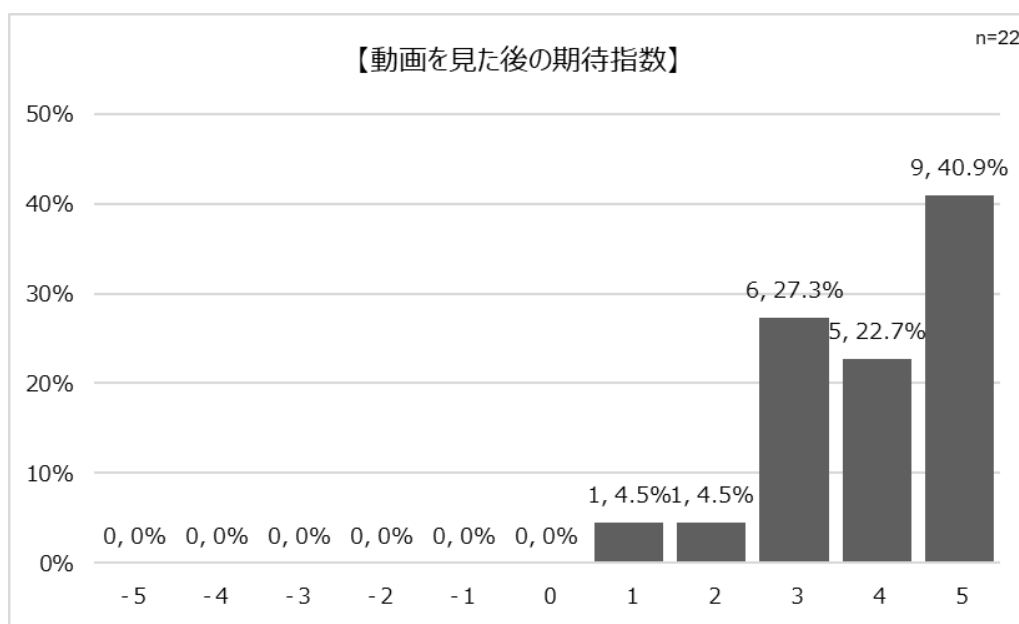
「自動車が好き」「自動車に興味ある」「入学が楽しみ」「授業などが期待通り」といったポジティブなものや期待的なコメントが目立った。

- ③【動画をみた後】の期待指数を教えてください。＊自分の気持ち（期待指数）を、「-5から+5」の11段階から選んでください。-5が最も低く、+5が最も高いとします。

n=22

期待指数	回答数	割合
-5	0	0%
-4	0	0%
-3	0	0%
-2	0	0%
-1	0	0%
0	0	0%
1	1	4.5%
2	1	4.5%
3	6	27.3%
4	5	22.7%
5	9	40.9%
	22	100%

動画を見た後の自動車整備に進学する予定者は、期待値がさらに上がった。



- ④上記③の期待指数にした理由

- ・動画を見て少し興味が出てきたため
- ・車にあまり興味がなくてもしっかり整備士になる事ができるから
- ・授業内容が楽しそうだった
- ・すごく面白そう！と興味を惹かれることはなかったため
- ・将来への具体的な進路を学んだから

- ・動画を見てさらに興味が湧いた
- ・いろんな原理を教われるから
- ・卒業生のお話を聞いてますます入りたくなったから
- ・卒業生のお話を聞いたから
- ・モーター作りがとても楽しくでき自動車のことをより深く理解できると思ったから
- ・自動車のことをあんまり知らなくても授業を受けるうちに好きになったと言っていたから
- ・動画を見て心配は減りました
- ・卒業生の方々が元気よく今も仕事としているのを見て元気よくやれそうな気がしました
- ・さらに面白そうと思ったから
- ・動画を見て更にやる気が出た。自分でも楽しめそうと思ったから
- ・見る前同様に進学した後も様々な専門的な勉強が出来るのが楽しみだから
- ・とてもおも白い実験だと思った
- ・2人1組でわからないところもすぐに聞けるようなところがいいと思った
- ・身近なことからも自動車について体感できることがあると分かった
- ・入学が楽しみになった
- ・進路についても話していたから
- ・面白そうだと思った

<期待指数に関するコメントから>

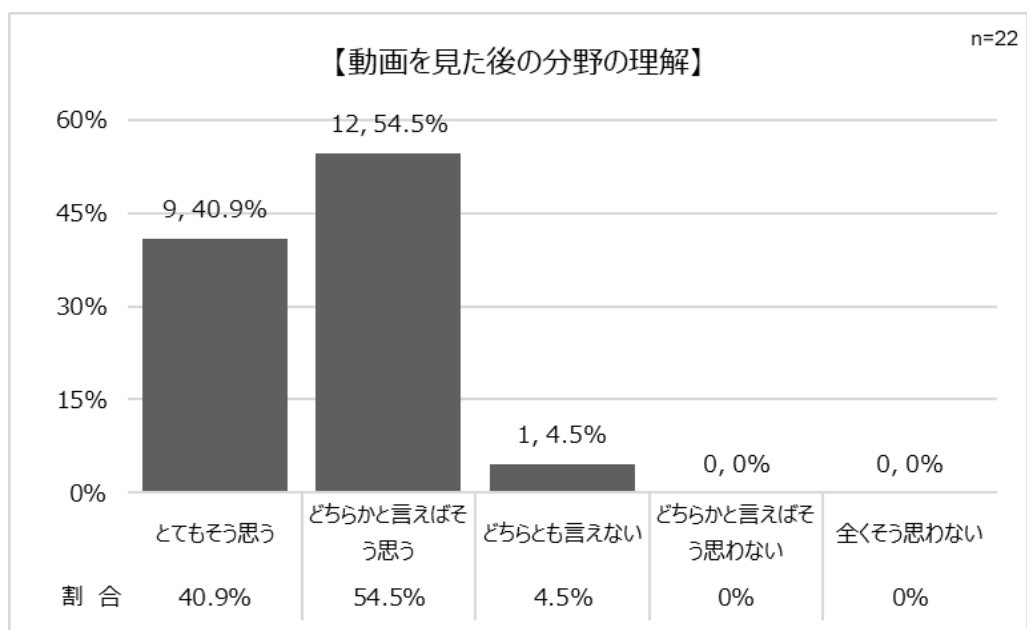
「動画を見て少し興味が出た」「卒業生のお話を聞いてますます入りたくなった」「動画を見て心配は減った」「動画を見てさらにやる気が出た」といった期待が高いコメントとが目立った。

⑤この動画を見て、分野（入学予定の学科）の学びについての理解は深まりましたか？

n=22

項目	回答数	割合
とてもそう思う	9	40.9%
どちらかと言えばそう思う	12	54.5%
どちらとも言えない	1	4.5%
どちらかと言えばそう思わない	0	0%
全くそう思わない	0	0%
	22	100%

動画を見た後の分野の理解度が深まったことについては、「とてもそう思う」「どちらかと言えばそう思う」で95.4%と多くを占めた結果であった。

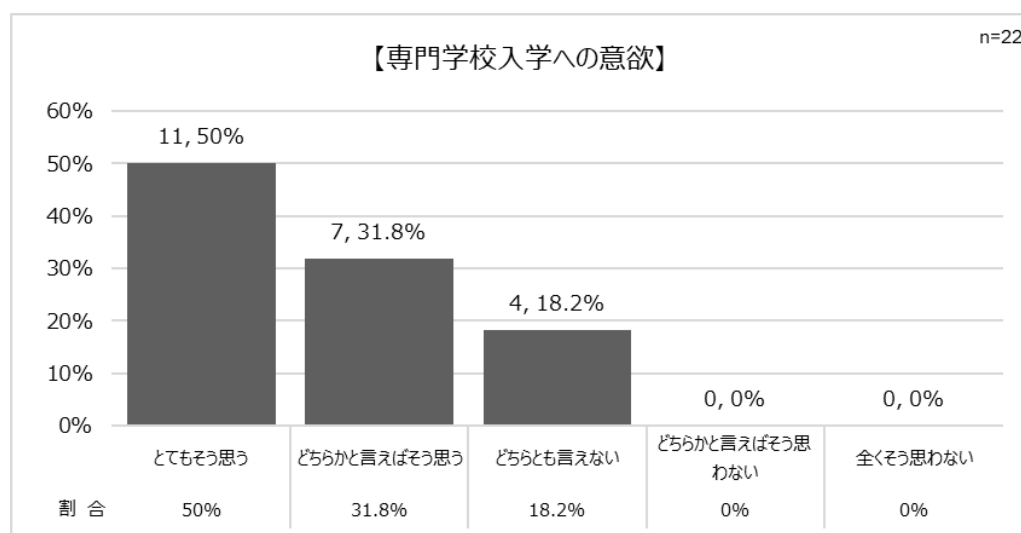


⑥この動画を見て、専門学校入学への意欲（やる気）について変化はありましたか？

n=22

項目	回答数	割合
とてもそう思う	11	50%
どちらかと言えばそう思う	7	31.8%
どちらとも言えない	4	18.2%
どちらかと言えばそう思わない	0	0%
全くそう思わない	0	0%
	22	100%

動画を見た後、入学の意欲の変化は、「とてもそう思う」「どちらかと言えばそう思う」で81.8%と多くを占めた結果であった。



⑦上記⑥で「とてもそう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答した方どのように変化したか、できるだけ具体的に教えてください。

- ・ 4月から専門学校に通うんだと想像できたから
- ・ 専門学校の理解が深まった
- ・ 現時点で自動車に詳しくなくても大丈夫なんだなと実感したから
- ・ 専門学校で学びについてイメージが浮かんで意欲が上がったから
- ・ 早く授業を受けてみたくなった
- ・ 貴校のことはよく分かったので心配なくやる気になりました
- ・ 銅線だけでもよく回る
- ・ 何をするのか知ったから

- ・ 更に知りたくなった
- ・ 将来の目標がはっきりしたから
- ・ 面白そうだったから
- ・ よりいいものを教われると思った
- ・ 先生と生徒のやり取りなどをみて楽しく学べそうだなと思いました
- ・ 元からとてもやる気はありますがより楽しみでやる気も出ました
- ・ どんな授業や行事があるのか楽しみになり、早く入学したいと感じました
- ・ 将来への期待が高まった
- ・ より進路について知れて考えが深まったから
- ・ やる気が上がった

<「とてもそう思う」「どちらかと言えばそう思う」のコメントから>

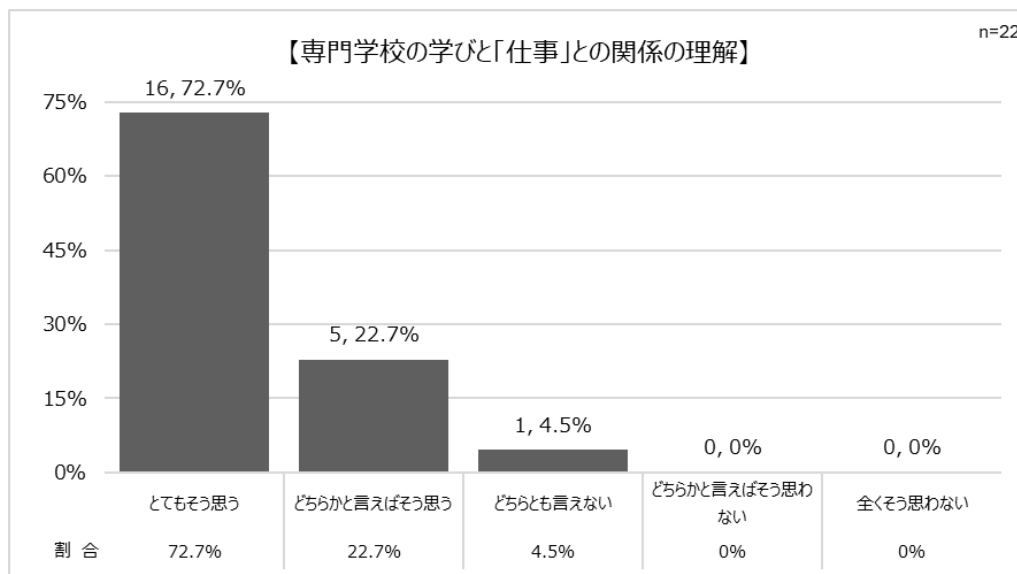
「専門学校の理解が深まった」「早く授業を受けてみたくなった」「将来の目標がはっきりした」「よりいいものが襲われる」といった高評価のコメントとが目立った。

⑧この動画を見て、専門学校での学びが「仕事」にどのように役立つかの理解は深まりましたか？

n=22

項目	回答数	割合
とてもそう思う	16	72.7%
どちらかと言えばそう思う	5	22.7%
どちらとも言えない	1	4.5%
どちらかと言えばそう思わない	0	0%
全くそう思わない	0	0%
	22	100%

動画を見た後、「仕事」に役立つことについては、「とてもそう思う」「どちらかと言えばそう思う」で95.4%と多くを占めた結果であった。

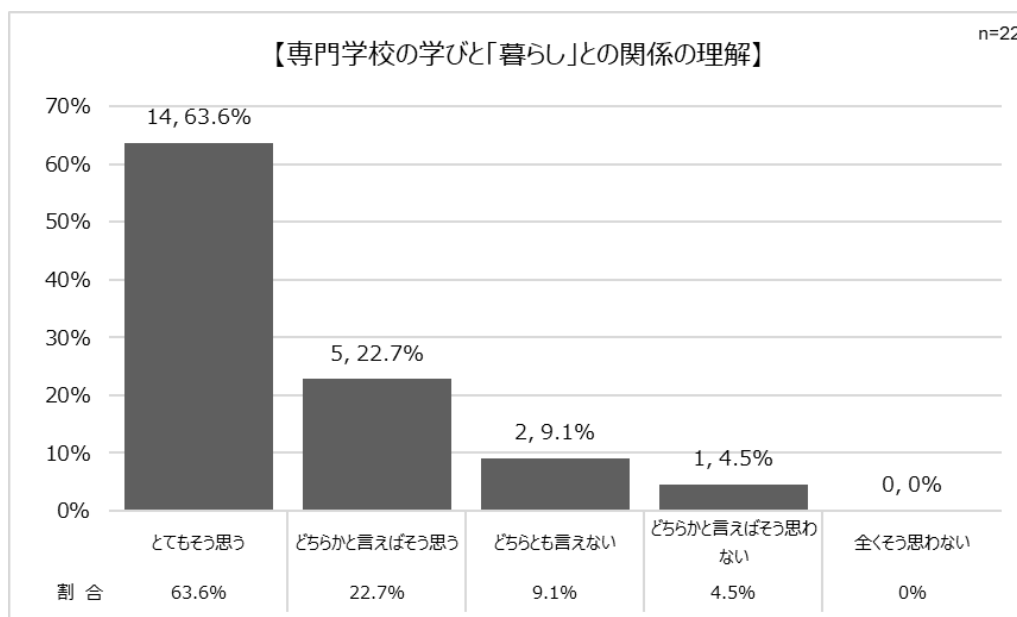


⑨この動画を見て、専門学校での学びが「暮らし」にどのように役立つかの理解は深まりましたか？

n=22

項目	回答数	割合
とてもそう思う	14	63.6%
どちらかと言えばそう思う	5	22.7%
どちらとも言えない	2	9.1%
どちらかと言えばそう思わない	1	4.5%
全くそう思わない	0	0%
	22	100%

動画を見た後、「暮らし」に役立つことについては、「とてもそう思う」「どちらかと言えばそう思う」で86.3%と多くを占めた結果であった。

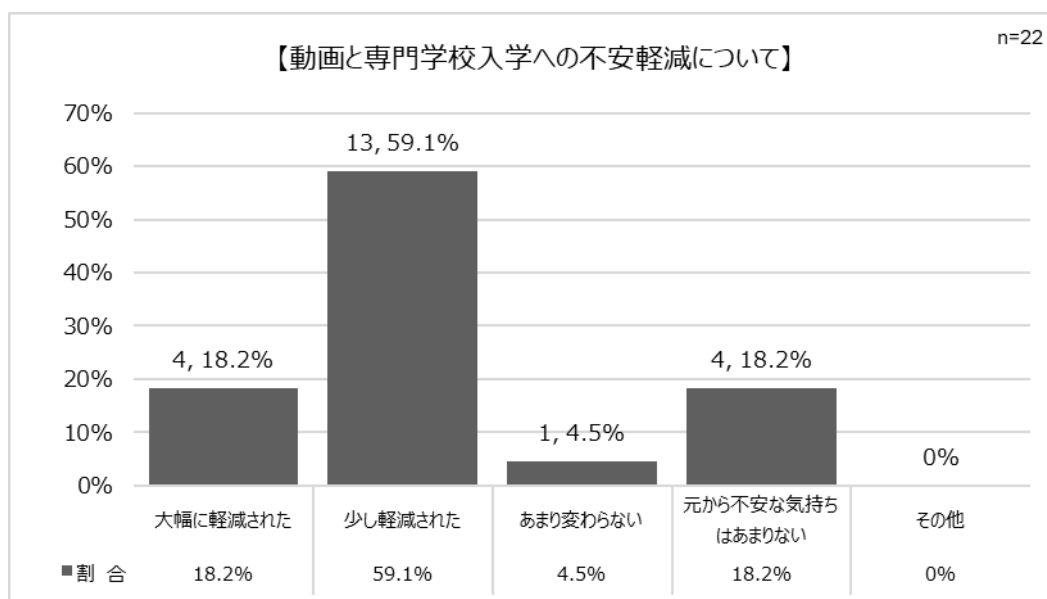


⑩この動画を見て、専門学校で学ぶことへの不安な気持ちは軽減されましたか？

n=22

項目	回答数	割合
大幅に軽減された	4	18.2%
少し軽減された	13	59.1%
あまり変わらない	1	4.5%
元から不安な気持ちはあまりない	4	18.2%
その他	0	0%
	22	100%

動画を見た後の専門学校で学ぶことに不安な気持ちがあることに関しては、興味関心が多いことから、不安的な考えが少ない回答傾向の結果であった。



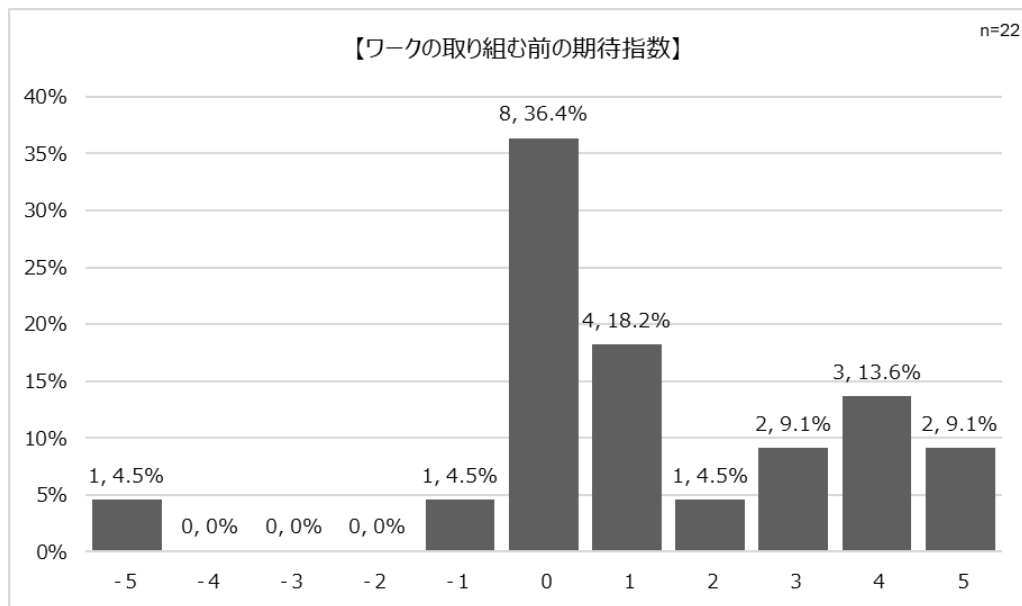
ここからは、ワークを通して感じたことの質問です。

- ⑪【ワークに取り組む前】の期待指数を教えてください。＊自分の気持ち（期待指数）を、「-5から+5」の11段階から選んでください。-5が最も低く、+5が最も高いとします。

n=22

期待指数	回答数	割合
-5	1	4.5%
-4	0	0%
-3	0	0%
-2	0	0%
-1	1	4.5%
0	8	36.4%
1	4	18.2%
2	1	4.5%
3	2	9.1%
4	3	13.6%
5	2	9.1%
22		100%

動画の時とは異なり、授業をするとすると、入学前の時期的なこともあり、少し気持ちに低くなる傾向であった。



⑫上記⑪の期待指数にした理由

- ・本当に何をするのか分からなかった
- ・正直面倒だった
- ・すでに学校の授業で同じ実験を行ったから
- ・特になし
- ・自分でモーターを作れるか不安だったから
- ・期待していなかったため
- ・参加出来ませんでした
- ・何をやるのかわからなくて不安だったから
- ・難しそうと思った
- ・できるか不安だった
- ・試すのが楽しみだった
- ・難しそうだなと思ったから
- ・どんな実験があるのか楽しみではありつつ、少し現実を突きつけられるんじゃないかという不安もありました。
- ・どういう形で始まるかわからなかったから。
- ・部品をどう使うか楽しみだった
- ・ほんとにこれでモーターが作れるのか。
- ・送られてきたものをどう使うのかまったくわからなかったから
- ・何をするかわからなかった

- ・ 普段やっているスターターモーターなどの仕組みが簡単に出来るのを知らなかったのも凄く楽しみでした
- ・ 何をするのか気になっていた

<期待指数に関するコメントから>

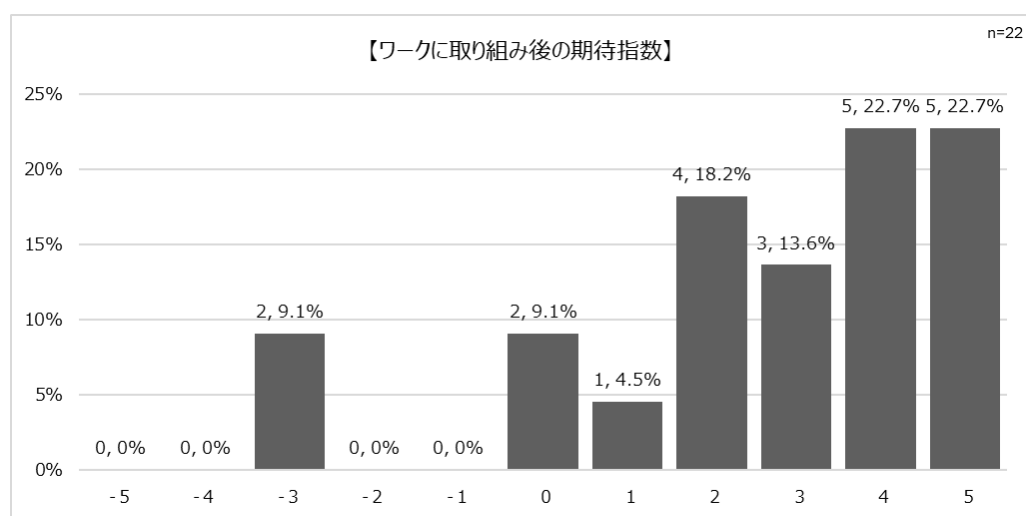
「何をするのか分からなかった」のコメントが多く、その他「難しそう」「参加できなかった」「送られてきたものをどのように使うのか分からなかった」といったコメントが目立った。動画に関する時よりも期待指数が低かった。

- ⑬【ワークに取り組んだ後】の期待指数を教えてください。*自分の気持ち（期待指数）を、「-5から+5」の11段階から選んでください。-5が最も低く、+5が最も高いとします。

n=22

期待指数	回答数	割合
-5	0	0%
-4	0	0%
-3	2	9.1%
-2	0	0%
-1	0	0%
0	2	9.1%
1	1	4.5%
2	4	18.2%
3	3	13.6%
4	5	22.7%
5	5	22.7%
	22	100%

ワークをする前は、何をするのか分からなかったことから、期待指数は低めであったが、何をすることが分かり、取り組んだことにより期待指数が上がった。



⑭上記⑬の期待指数にした理由

- ・思ったより不恰好なモーターになってしまったから
- ・エナメル線が折れてしまった
- ・参加出来ませんでした
- ・やはり難しかった
- ・思った以上に楽しかったです
- ・学校の授業では失敗したが、今回の授業では成功したから
- ・モーターの仕組みを理解できたから
- ・エナメル線が回ったため
- ・実技的なことを学べたから
- ・うまくできた
- ・計算などあまり得意では無いから
- ・簡易モーターの組み立てが楽しかったから。
- ・実際に作ってみて楽しかった
- ・ほんとに作れてちょっと楽しかったから。
- ・モーターの仕組みを少し理解することができたから
- ・わかりやすく説明していた
- ・自分で作って感動した
- ・楽しかった
- ・この1時間の授業で最初にあった不安が消えて楽しみが増えました！
- ・途中失敗しかけてましたが、最後は少しですがしっかりと回すことができたので身近なものでもこんなに分かりやすく出来ることを知ってビックリしました。
- ・授業が楽しみになった

<期待指数に関するコメントから>

「モーターの仕組みを理解できた」「実技的なことを学べた」「作ってみて楽しかった」「楽しみになった」といったコメントとが多く、期待指数も上がる結果となった。事前の伝え方を考慮するともっと期待指数が上がる可能性があると考えられる。

⑮全体を通して印象に残っていること

- ・銅線が思ったより回ること

- ・楽しい雰囲気が出来た
- ・うまく回ってよかった
- ・紹介動画は役に立ちました
- ・OBの方のお話に納得しました
- ・簡易的なモーターが身近なものでできる事
- ・園田先生の紹介動画に生徒に対する熱意を感じました
- ・自動車について深く知らなくても、専門学校で知識をつけることで業界で活躍できるのだと感じた
- ・私自身は自動車についてすごい詳しい訳ではなく、ドリ車やスポーツカーが好きだけなので、基礎から学べるか心配でした。ですが、動画を見て「自動車に詳しくなくても1から教えてくれるんだ」と思い、当校へのやる気が増しました。入学後も切磋琢磨努力していこうと思います
- ・説明が丁寧でした
- ・進路についても知れて、実技的なことも学べて、とてもいいなと思いました
- ・原理について詳しく説明していた
- ・動画を見て整備士の大切さなどを知れた
- ・ズームによるワークだったことも印象に残った。実際に先生の説明を聞きながらだから、わかりやすかった
- ・卒業生のお話は専門学校への理解が深まりました。ワークは自分で作る楽しさがありました
- ・先生が話しやすそうだった
- ・モーター作り授業の話
- ・わかりやすく説明していた。OBの話がわかりやすかった
- ・モーター作りが意外と簡単だったんです
- ・分かりやすかった
- ・今までの整備士の知識を学びながらこれからの電気自動車の新たな知識も学ぶというところ
- ・エナメル線の被覆を剥く作業の時に輪を保つのとその前に巻いた線が絡みかけたのですが真ん中まで出ている線を曲げて真ん中に輪を持ってくることが出来てしっかり回せたのが印象に残りました
- ・先生も楽しんでいる授業でよかった

<印象に残ったコメントから>

興味関心がある受講者が多かったが、中でも動画で卒業生の話が聞けたことは効果的という結果になったと思われる。また、自動車の知識がなくても活躍できる、進路についても知ることができたといった将来的なこと、ワークでモーターを作って授業の楽しさを知る機会となった授業であったと考えられる。

⑩その他伝えておきたいこと（今後の目標など、あればぜひ！！）

- ・入学したら、みんなと楽しく自動車整備の仕方について学んでいきたいです！
- ・精進します！
- ・2級整備士を取ることが目標です
- ・入学したらしっかり授業受けて、知識を身に着けたいと思います

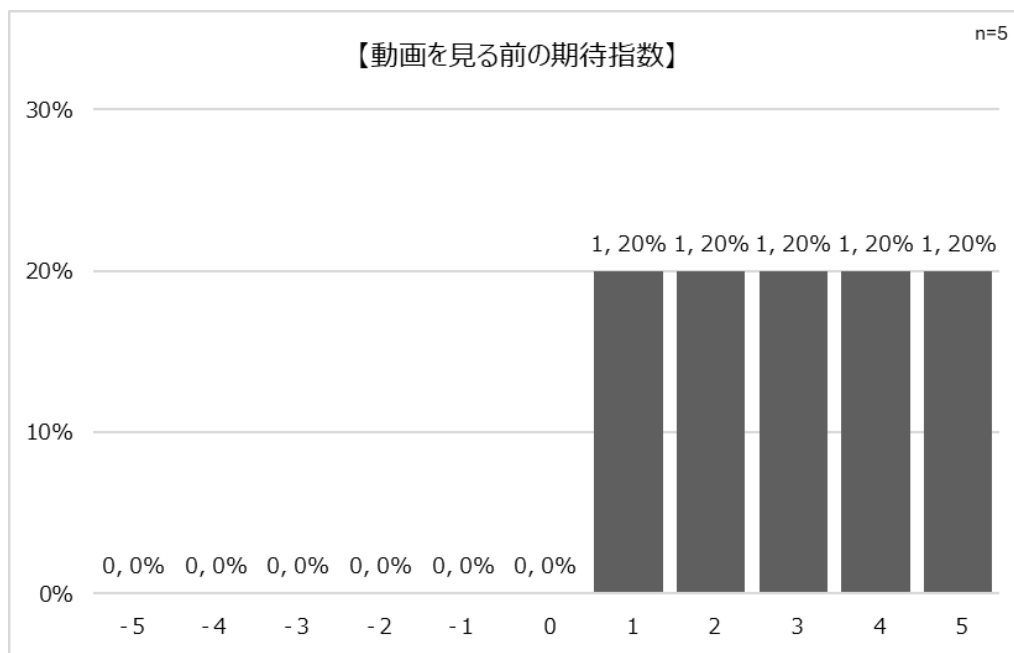
(2) 建築分野

- ①【動画をみる前】の選択分野についての期待指数（興味・やる気・授業への期待）を教えてください。＊自分の気持ち（期待指数）を、「-5から+5」の11段階から選んでください。-5が最も低く、+5が最も高いとします。

n=5

期待指数	回答数	割合
-5	0	0%
-4	0	0%
-3	0	0%
-2	0	0%
-1	0	0%
0	0	0%
1	1	20%
2	1	20%
3	1	20%
4	1	20%
5	1	20%
	5	100%

建築分野に進学する予定者は、興味があるからなのか期待値が少し高い傾向である。



②上記①の期待指数にした理由

- ・興味がある気持ち
- ・高校で得た知識を基に授業とかで活用できると思ったから。
- ・今後建築の分野を学習していくうえで、どんなことを学習していくのかなどということとはとても気になっていました。さらに、卒業生の方や、職員の方からお話を聞くというのは、日常ですることは難しいと思うので、とても貴重なお話を聞かせてもらえることに感謝します。
- ・建築を学びたい意識があるから
- ・自分が建築関係の仕事に就きたいと思うからとてもやる気もあるしどのような授業になっていくのか楽しみ

<期待指数に関するコメントから>

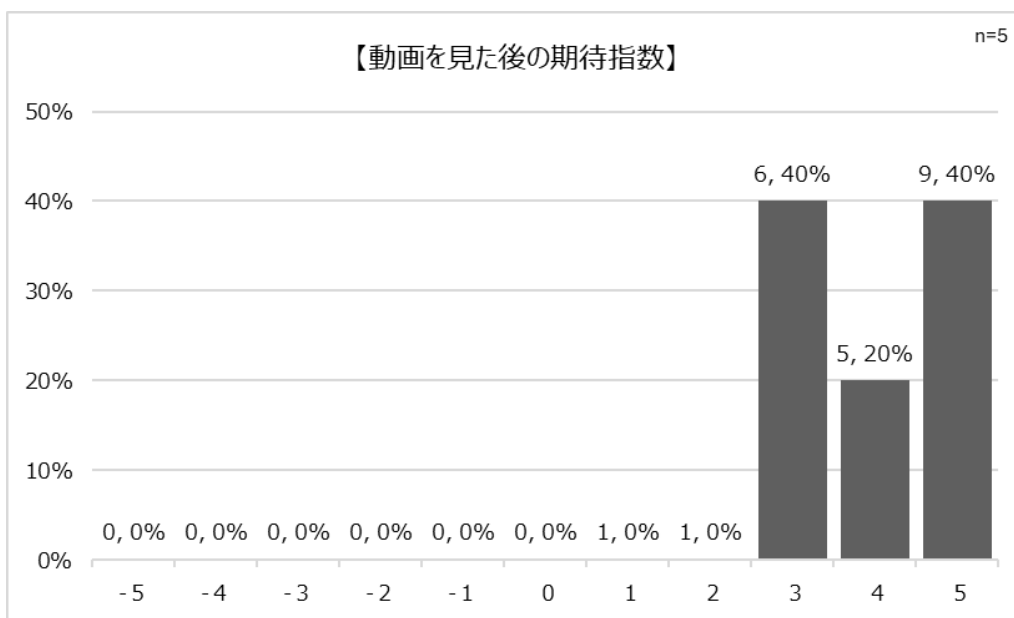
建築分野に進学する予定者は、漠然と進路を決めたのではなく、学びたいという気持ちを持っていることがわかるコメントであった。

- ③【動画をみた後】の期待指数を教えてください。*自分の気持ち(期待指数)を、「-5から+5」の11段階から選んでください。-5が最も低く、+5が最も高いとします。

n=5

期待指数	回答数	割合
-5	0	0%
-4	0	0%
-3	0	0%
-2	0	0%
-1	0	0%
0	0	0%
1	0	0%
2	0	0%
3	2	40%
4	1	20%
5	2	40%
5	5	100%

動画を見た後は、具体的なイメージができたのか、期待指数が上がった。



④上記③の期待指数にした理由

- ・楽しそうな授業の印象と自身がついていけるかの緊張
- ・授業だけではなく課題やプロジェクトと言った幅広い分野に対応でき社会に大きく直径すると思ったから
- ・実際に動画を見てみて、専門学校に入るメリットの再確認や、実際に学習をしたことをどのように使い何をしたのか、授業を通して何を学習することで仕事に活かせるかなどと想像以上に様々なことを聞かせてもらい、より一層学習していくことが楽しみになりました
- ・建築をしっかり学びたくなったから

- ・製図実習の授業で法律をもとに沢山デザイン作るのを沢山挑戦したいと思った。CGソフトを用いた授業に興味を持った

<期待指数に関するコメントから>

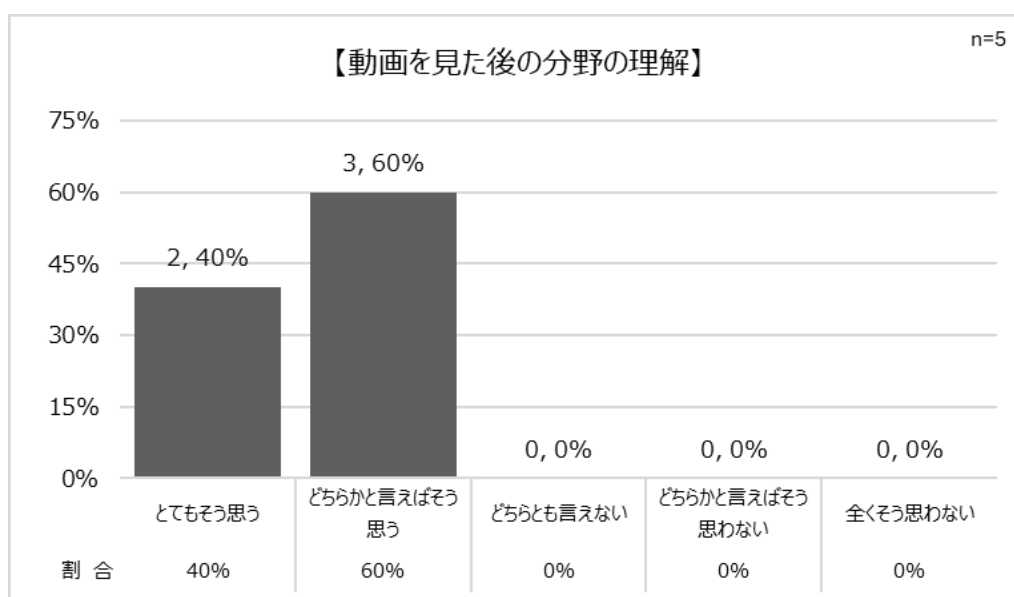
建築分野で働くことなど大きな枠組みの伝え方よりも、もうすぐ自分に訪れる専門学校で学ぶ生活に対して、具体的な授業を挙げ、それが仕事にも活きる卒業生のコメントは、建築分野の専門学校に進む学生にとって大きな影響を与える効果を生み出すと考えられる。

- ⑤この動画を見て、分野（入学予定の学科）の学びについての理解は深まりましたか？

n=5

項目	回答数	割合
とてもそう思う	2	40%
どちらかと言えばそう思う	3	60%
どちらとも言えない	0	0%
どちらかと言えばそう思わない	0	0%
全くそう思わない	0	0%
	5	100%

全員から建築分野(学科)の学びの理解が深まったとの回答であった。

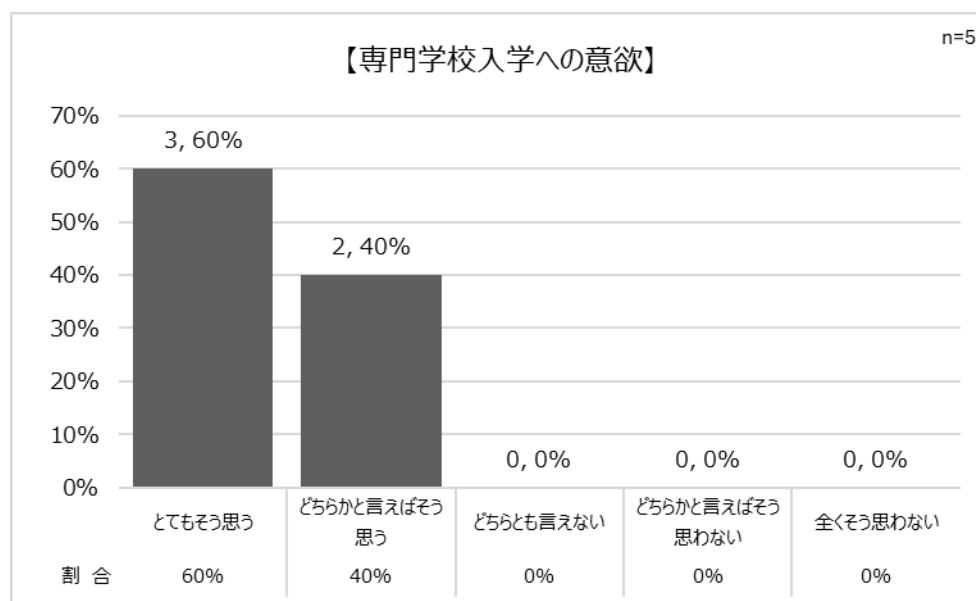


⑥この動画を見て、専門学校入学への意欲（やる気）について変化はありましたか？

n=5

項目	回答数	割合
とてもそう思う	3	60%
どちらかと言えばそう思う	2	40%
どちらとも言えない	0	0%
どちらかと言えばそう思わない	0	0%
全くそう思わない	0	0%
	5	100%

全員から専門学校入学意欲の変化があったと得られた回答であった。



⑦上記⑥で「とてもそう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答した方どのように変化したか、できるだけ具体的に教えてください。

- ・挑戦したいという意欲が湧いた
- ・見る前はただ単に知識を授業に活用すると思ったものの、見た後は社会に出た時にアピールポイントとして大きく直結すると思い、意欲に対する意識が変化したから。
- ・今回の事前学習をする前や動画を見る前までは、どんなことを学習していくのかということなどは調べた範囲ほどなら理解してはいましたが、動画を見て、より詳しく理解することができ意欲の向上に繋がったと思います

- ・この学校で学ぶ建築はしっかり充実しているから
- ・建築について沢山学びたいと思った

<「とてもそう思う」「どちらかと言えばそう思う」のコメントから>

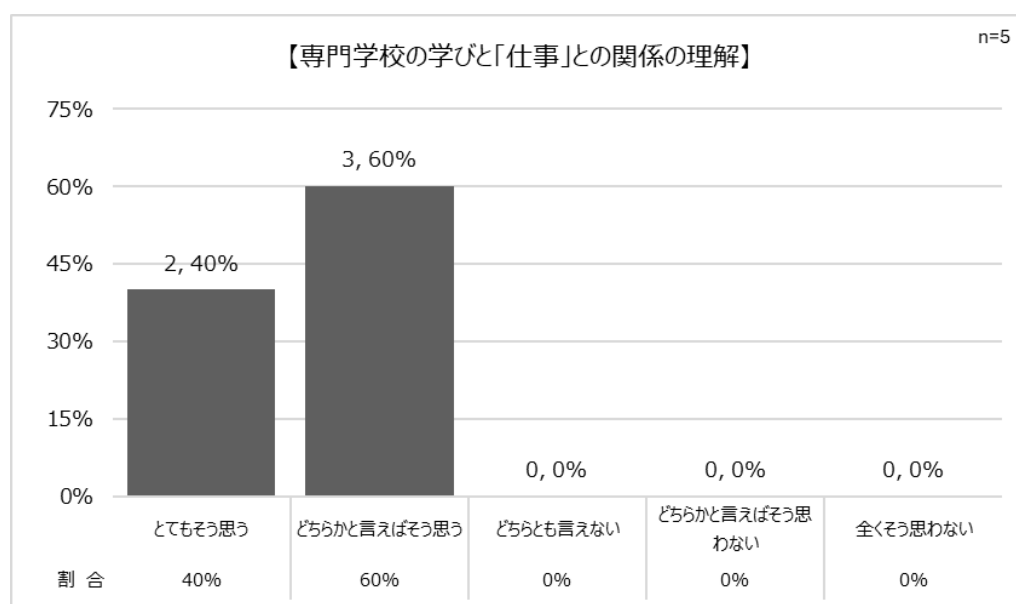
「調整したい意欲が湧いた」「社会に出てもアピールポイントに直結する」「卒業生の動画を見ることで、より意欲が湧いた」「建築について沢山学びたい」といった高評価のコメントとが目立った。

- ⑧この動画を見て、専門学校での学びが「仕事」にどのように役立つかの理解は深まりましたか？

n=5

項目	回答数	割合
とてもそう思う	2	40%
どちらかと言えばそう思う	3	60%
どちらとも言えない	0	0%
どちらかと言えばそう思わない	0	0%
全くそう思わない	0	0%
	5	100%

全員から専門学校の学びが「仕事」に役立つとの回答を得られた。

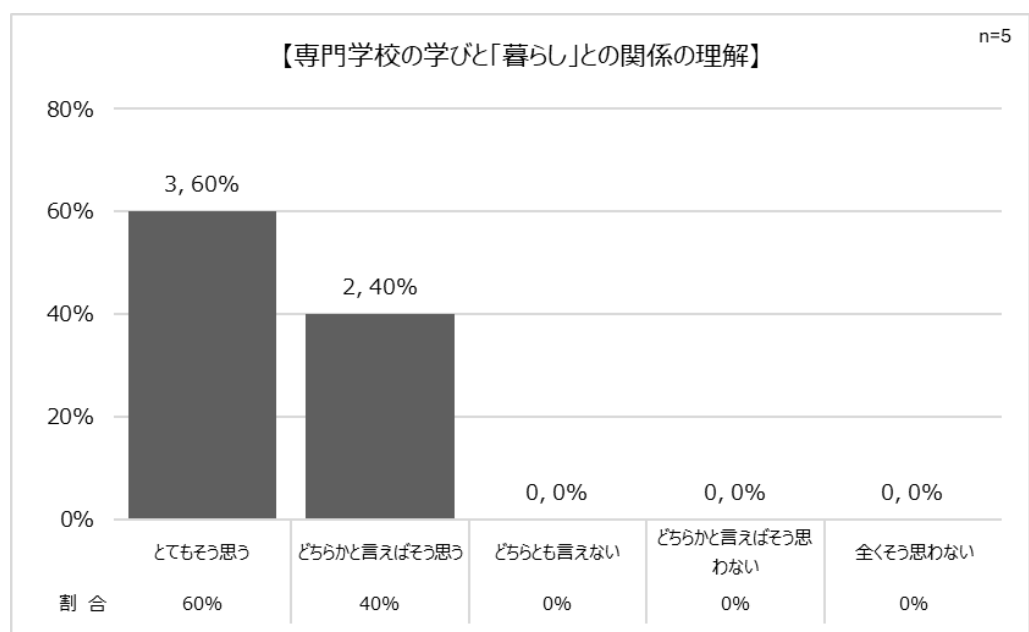


⑨この動画を見て、専門学校での学びが「暮らし」にどのように役立つかの理解は深まりましたか？

n=5

項目	回答数	割合
とてもそう思う	3	60%
どちらかと言えばそう思う	2	40%
どちらとも言えない	0	0%
どちらかと言えばそう思わない	0	0%
全くそう思わない	0	0%
	5	100%

全員から専門学校の学びが「暮らし」に役立つとの回答を得られた。

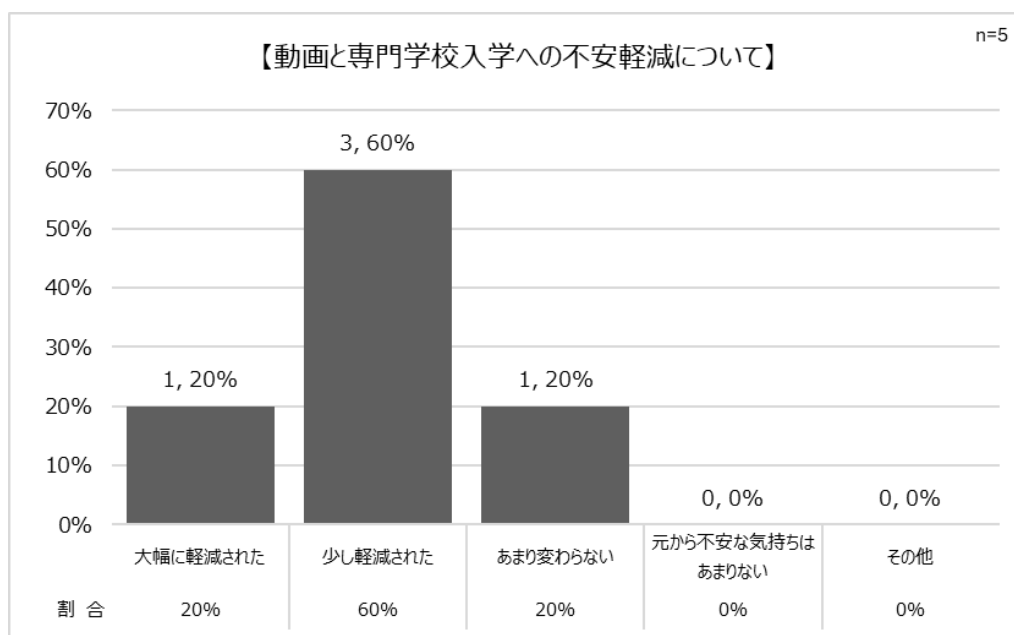


⑩この動画を見て、専門学校で学ぶことへの不安な気持ちは軽減されましたか？

n=5

項目	回答数	割合
大幅に軽減された	1	20%
少し軽減された	3	60%
あまり変わらない	1	20%
元から不安な気持ちはあまりない	0	0%
その他	0	0%
	5	100%

社会に出ても専門学校の学びが活かされることに対しての不安が軽減された回答結果と考える。



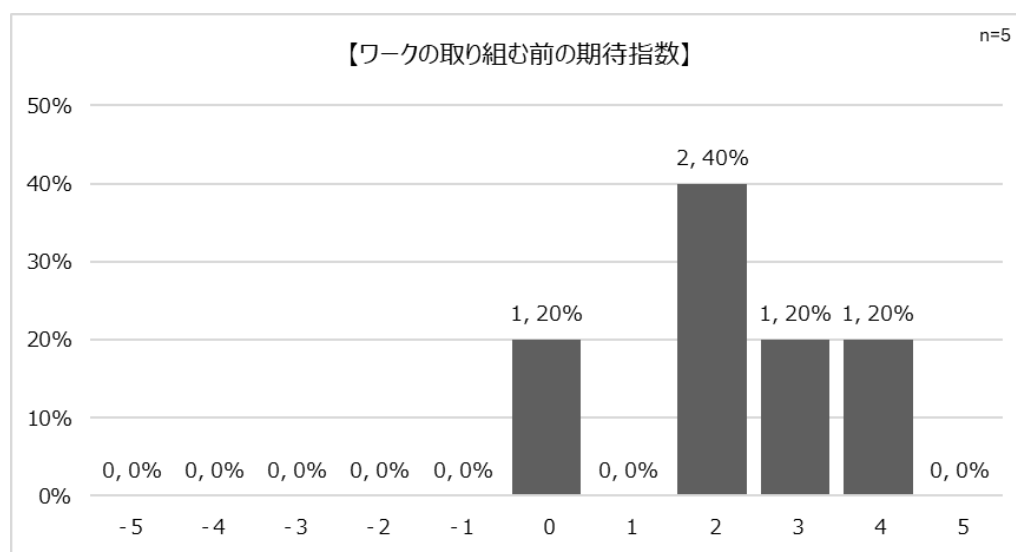
ここからは、ワークを通して感じたことの質問です。

- ⑪【ワークに取り組む前】の期待指数を教えてください。*自分の気持ち（期待指数）を、「-5から+5」の11段階から選んでください。-5が最も低く、+5が最も高いとします。

n=5

期待指数	回答数	割合
-5	0	0%
-4	0	0%
-3	0	0%
-2	0	0%
-1	0	0%
0	1	20%
1	0	0%
2	2	40%
3	1	20%
4	1	20%
5	0	0%
	5	100%

どのような内容か分からない状況からか、期待指数が低くなっている。



- ⑫上記⑪の期待指数にした理由

- ・どのようなものを学ぶのかまだ予想ができていない
- ・既に高校で習った範囲なのである程度は理解できていると思ったから
- ・このワークに取り組むことで今後の学習のイメージができると思い、とても楽しみにしていました
- ・ワークはどんな感じか気になったから

・これからどのようなことをやっていくのか不安があった

<期待指数に関するコメントから>

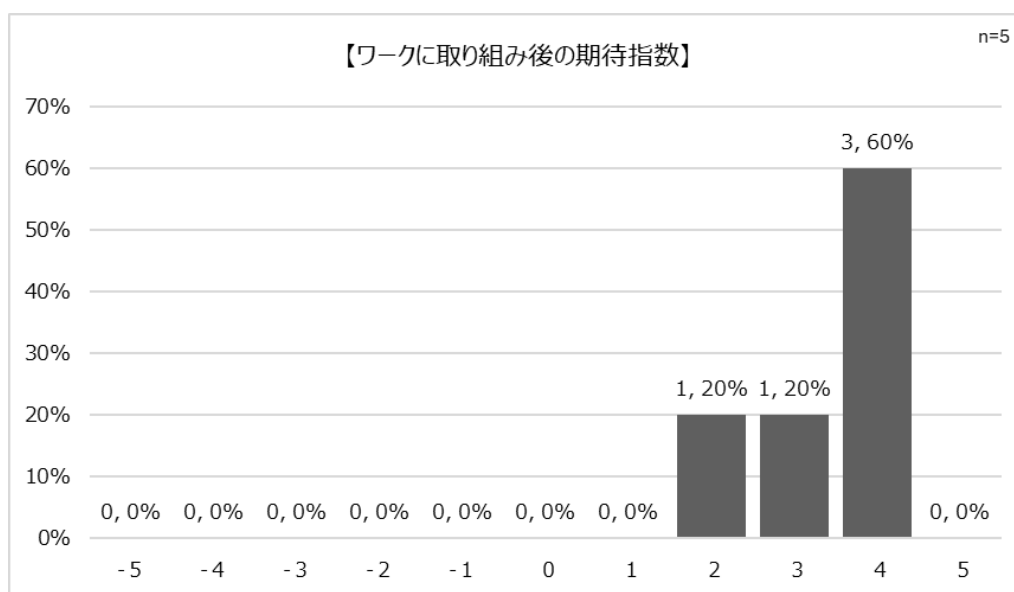
「どのようなものを学ぶのか予想ができていない」「どのようなことをしていきのか不安」といったコメントとが目立ったことから、期待指数が低い傾向であった。動画に関する時よりも期待指数が低かった。

- ⑬【ワークに取り組んだ後】の期待指数を教えてください。*自分の気持ち（期待指数）を、「-5から+5」の11段階から選んでください。-5が最も低く、+5が最も高いとします。

n=5

期待指数	回答数	割合
-5	0	0%
-4	0	0%
-3	0	0%
-2	0	0%
-1	0	0%
0	0	0%
1	0	0%
2	1	20%
3	1	20%
4	3	60%
5	0	0%
	5	100%

ワークの内容が分かり、取り組んだことで期待指数が上がった。



⑭上記⑬の期待指数にした理由

- ・理解が深まったことと建築の幅広い複雑な内容
- ・理解できている所があったので得た知識を元に活用できたらいいなと思ったから
- ・実際にワークを解いてみて、何となくのイメージをすることができたんじゃないかと思います。この後本格的な学習をしていくのでより一層気を引き締めていきます
- ・ちょっとむずかった
- ・これから社会に出てからの基礎をやっていくことや建築とはどのようなことかが少し理解できた

＜期待指数に関するコメントから＞

「理解が深まったが建築の幅広さ」「理解できる所もあった」「ワークをすることで何となくイメージができた」「建築がどのようなことか少し理解できた」といったコメントから期待指数が上がった。事前の伝え方に課題が残る。

⑮全体を通して印象に残っていること

- ・階段を調べた時、ここの箇所も名前があることに驚いた
- ・細かく法令で定められていて建築業界のありがたみに尊敬した
- ・色々と学ぶことがあるなど圧倒された
- ・全体を通して建築の凄さに改めて気づいた
- ・また少し建築について興味深くなった
- ・当校卒業生と講師からのメッセージ
- ・寸法を測定したこと
- ・動画の編集がかっこよかったこと
- ・今回ワークに取り組み、動画を見ていきましたが、とても参考になることが多く、入学後にどのようなことをするのかや、入学後の学習でどのようなことに活かすことができるのか、学習を通し、何を身につけていけばいいかなど多くのことを知ることができました。特に、動画でお話を聞かせていただいたことは強く印象に残っています。授業を通し、将来にどのような形で活かすことができるのかを知れたことにとっても感謝しています
- ・建築をしっかりと学べるのが印象に残っていて、どのことを学べるのか動画を見てかなりわかってきた

・言葉遣いは大切。なるべく漢字を使う。数学は大切。家を作るにあたって使う人気持ちも踏まえて設計するのが大事

<印象に残ったコメントから>

興味関心がある受講者が多かったが、その中でも動画で卒業生の話が聞いたことは効果的という結果になったと思われる。法律のこと、入学を学習を通し、何を身に付けていけばいいかといったことを専門学校入学前に知ることができる機会があったことは、入学後非常に大きなアドバンテージになると思われる。専門学校で学ぶことの意義が伝えられた動画で、それを活かしたワークであったと考えられる。

⑩その他伝えておきたいこと（今後の目標など、あればぜひ！！）

なし

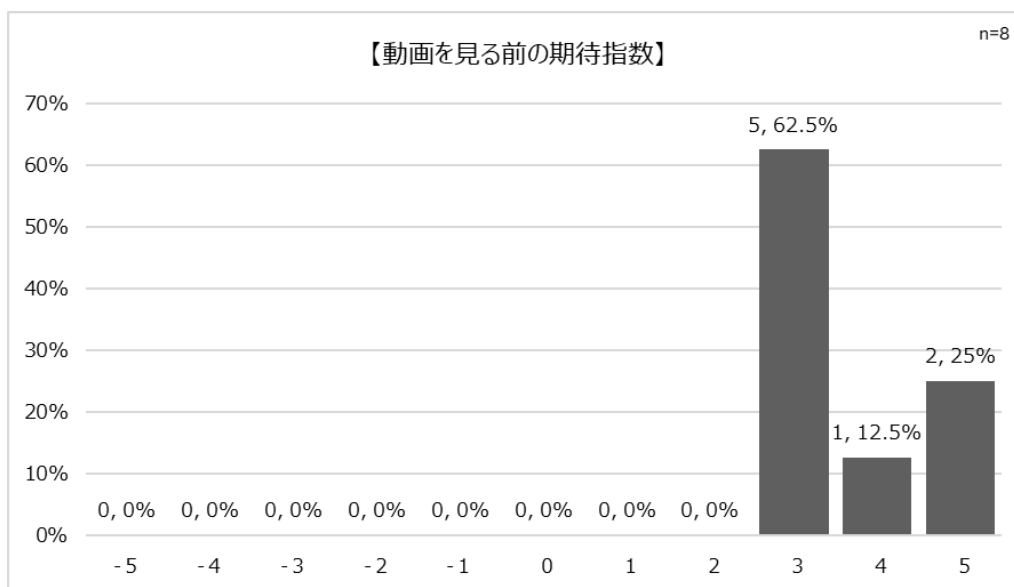
(3) インテリア分野

- ①【動画をみる前】の選択分野についての期待指数（興味・やる気・授業への期待）を教えてください。＊自分の気持ち（期待指数）を、「-5から+5」の11段階から選んでください。-5が最も低く、+5が最も高いとします。

n=8

期待指数	回答数	割合
-5	0	0%
-4	0	0%
-3	0	0%
-2	0	0%
-1	0	0%
0	0	0%
1	0	0%
2	0	0%
3	5	62.5%
4	1	12.5%
5	2	25%
	8	100%

動画を見る前からワクワクしているからか、期待指数は高めであった。



②上記①の期待指数にした理由

- ・授業で学んでいて楽しいと思っていたから
- ・どんな授業をするのかワクワクしているから
- ・授業についていけるか心配だった。どんな授業内容なのか詳しく分からない
- ・将来に繋がる勉強が沢山できると思いました
- ・自分が好きなものだから学んでいきたいけど、好きなだけではやっていけないし、その業界の知識をしっかりとつけられるかという点で少し不安があるから
- ・色々な資格に挑戦出来たりテストが細かくあり環境が凄く良いので学ぶのは楽しみだが、授業でどんなことをするのかわからず不安だったから
- ・中学生の頃から興味のある分野だから
- ・どんな授業を受けるのが楽しみです

<期待指数に関するコメントから>

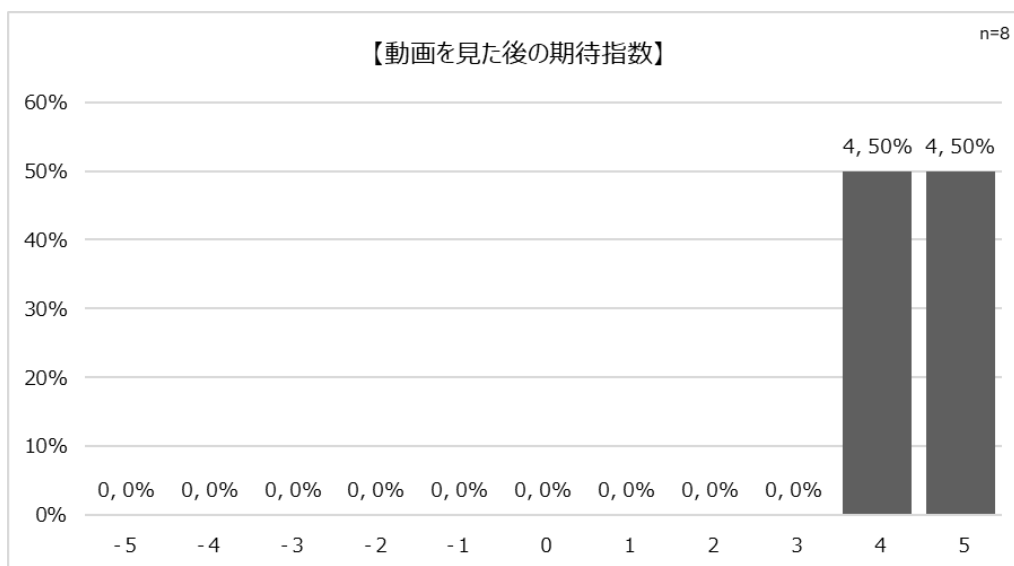
事前に授業で学んでいた受講者がいたが、全員が「興味がある」「楽しみと」いったワクワクしている感じでした。

- ③【動画をみた後】の期待指数を教えてください。*自分の気持ち(期待指数)を、「-5から+5」の11段階から選んでください。-5が最も低く、+5が最も高いとします。

n=8

期待指数	回答数	割合
-5	0	0%
-4	0	0%
-3	0	0%
-2	0	0%
-1	0	0%
0	0	0%
1	0	0%
2	0	0%
3	0	0%
4	4	50%
5	4	50%
	8	100%

動画を見た後は、期待指数が大幅に上がった。



④上記③の期待指数にした理由

- ・前よりも多くの事が分かってもっと知りたいと思えた
- ・校外学習に行って詳しく学べ、追求できると思ったから
- ・今後自分が受ける授業について詳しく知ることができ、将来にどう活かせるのか知ることができた。
- ・普通の学校では出来ないような、見て触れるという体験ができることに感動しました
- ・実際に授業でどんなことを学ぶのか科長の言葉から知ることができて、進学後の活動が楽しみになったから
- ・キッチンの授業や実際にインテリアを見たり触れたりという授業を通して

仕事で役立つ知識をつけられるのを知りイメージが少しついたから

- ・ 早く授業を受けてみたいと思った
- ・ 今後の授業などの内容を聞きとてもより楽しみにになりました

＜期待指数に関するコメントから＞

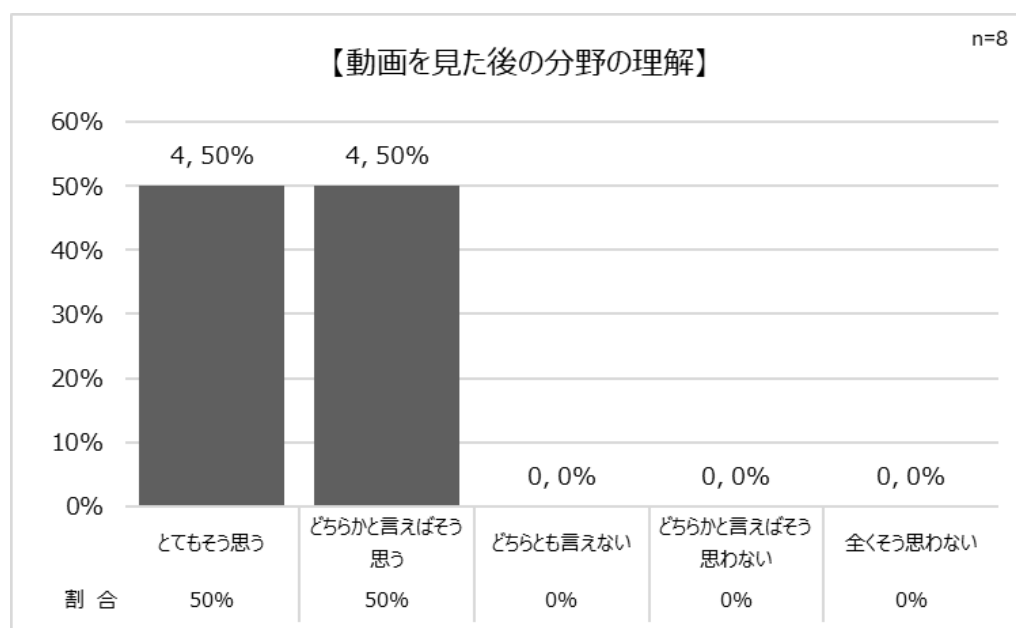
卒業生と講師動画で、仕事にも役立つ校外学習があり、そこでより詳しく、本物を見たり触れたりできる体験ができるといった専門学校の授業内容に触れていることで期待指数が上がっていた。動画の効果は大きいと考える。

⑤この動画を見て、分野（入学予定の学科）の学びについての理解は深まりましたか？

n=8

項目	回答数	割合
とてもそう思う	4	50%
どちらかと言えばそう思う	4	50%
どちらとも言えない	0	0%
どちらかと言えばそう思わない	0	0%
全くそう思わない	0	0%
	8	100%

全員が動画を見た後の分野の理解度が深まったと回答。

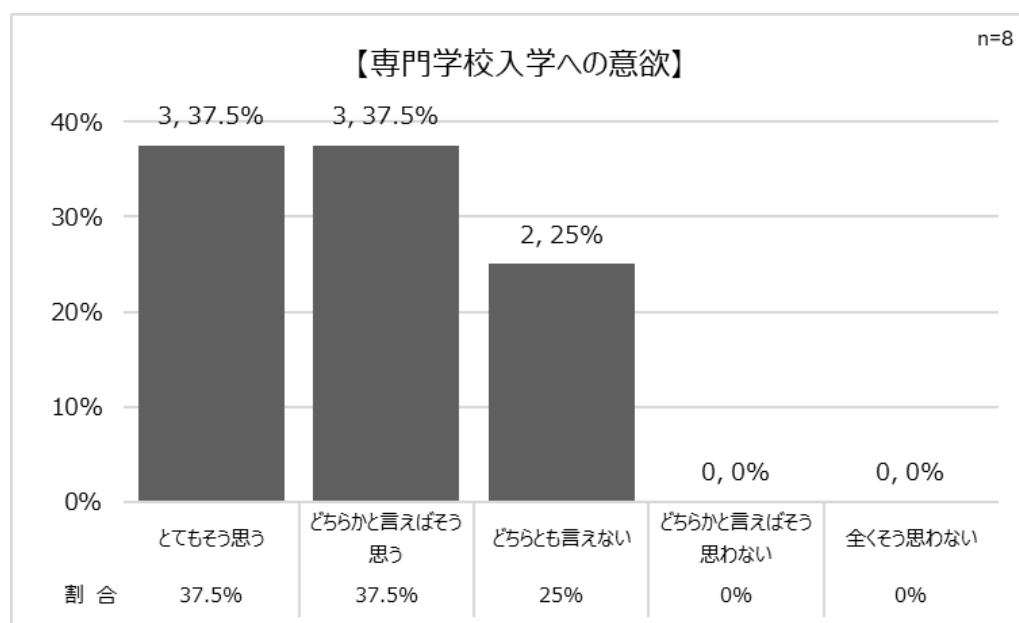


⑥この動画を見て、専門学校入学への意欲（やる気）について変化はありましたか？

n=8

項目	回答数	割合
とてもそう思う	3	37.5%
どちらかと言えばそう思う	3	37.5%
どちらとも言えない	2	25%
どちらかと言えばそう思わない	0	0%
全くそう思わない	0	0%
	8	100%

もともと興味がある受講生が多いことから動画による後押し効果が出ていると思われる。



⑦上記⑥で「とてもそう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答した方どのように変化したか、できるだけ具体的に教えてください。

- ・学ぶ事がより分かって楽しみになった
- ・いろいろ所へ校外学習に行って自分の知らない分野も学べると思ったから
- ・自分が好きなインテリアを詳しく勉強出来る楽しみが増え、授業に対する好奇心が湧いた
- ・座学をするだけでなく、実際に見て触れることでその素材を深く学べるという授業のやり方をより魅力的に感じました
- ・どんな感じなのか不安な部分が少し減り頑張ろうという気が強くなった

- ・最初から意欲はあるので変わらなかった
- ・実際に仕事をしている人と受ける授業があると知り早く授業を受けたいと思いました。

＜「とてもそう思う」「どちらかと言えばそう思う」のコメントから＞

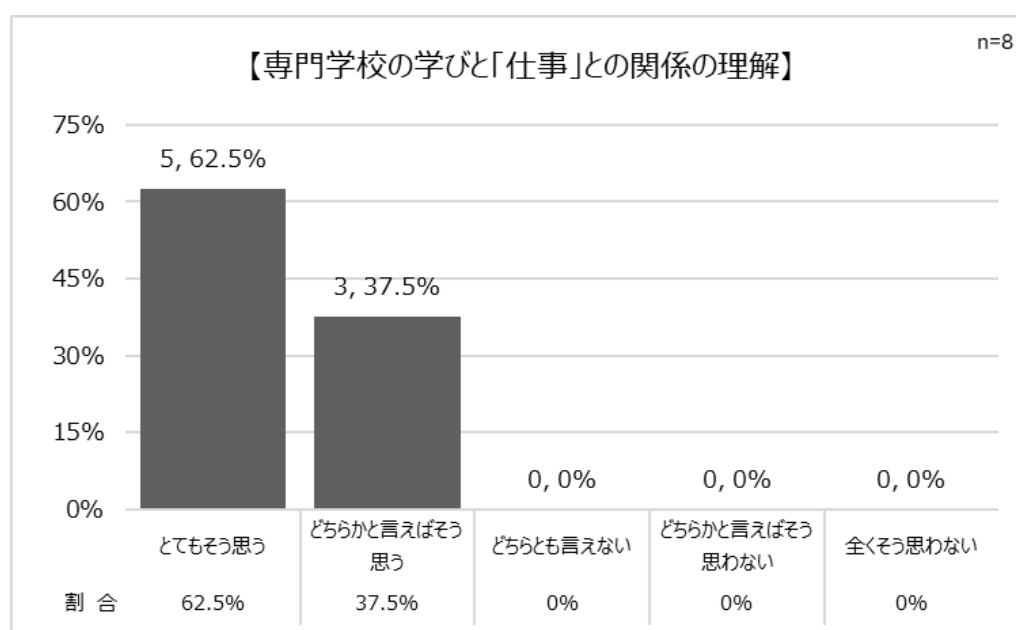
「学ぶ事がより分かって楽しみになった」「授業に対する好奇心が湧いた」「座学をするだけでなく、実際に見て触れられること」「最初から意欲はあるので変わらなかった」といった高評価のコメントが目立った。

⑧この動画を見て、専門学校での学びが「仕事」にどのように役立つかの理解は深まりましたか？

n=8

項目	回答数	割合
とてもそう思う	5	62.5%
どちらかと言えばそう思う	3	37.5%
どちらとも言えない	0	0%
どちらかと言えばそう思わない	0	0%
全くそう思わない	0	0%
	8	100%

全員が専門学校の学びは「仕事」に役立つことの理解が深まったと回答。

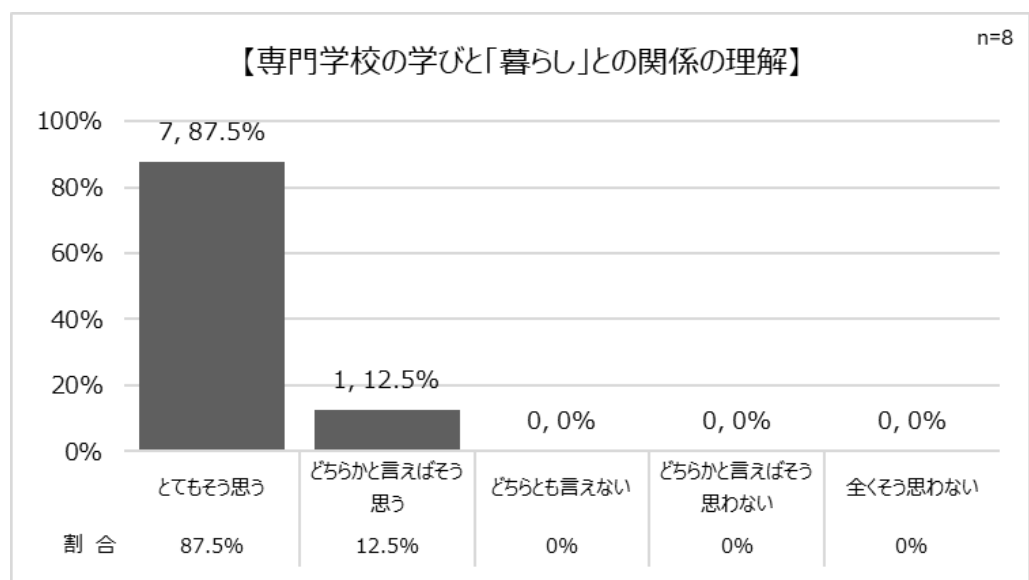


⑨この動画を見て、専門学校での学びが「暮らし」にどのように役立つかの理解は深まりましたか？

n=8

項目	回答数	割合
とてもそう思う	7	87.5%
どちらかと言えばそう思う	1	12.5%
どちらとも言えない	0	0%
どちらかと言えばそう思わない	0	0%
全くそう思わない	0	0%
	8	100%

全員が専門学校の学びは「暮らし」に役立つことの理解が深まったと回答。

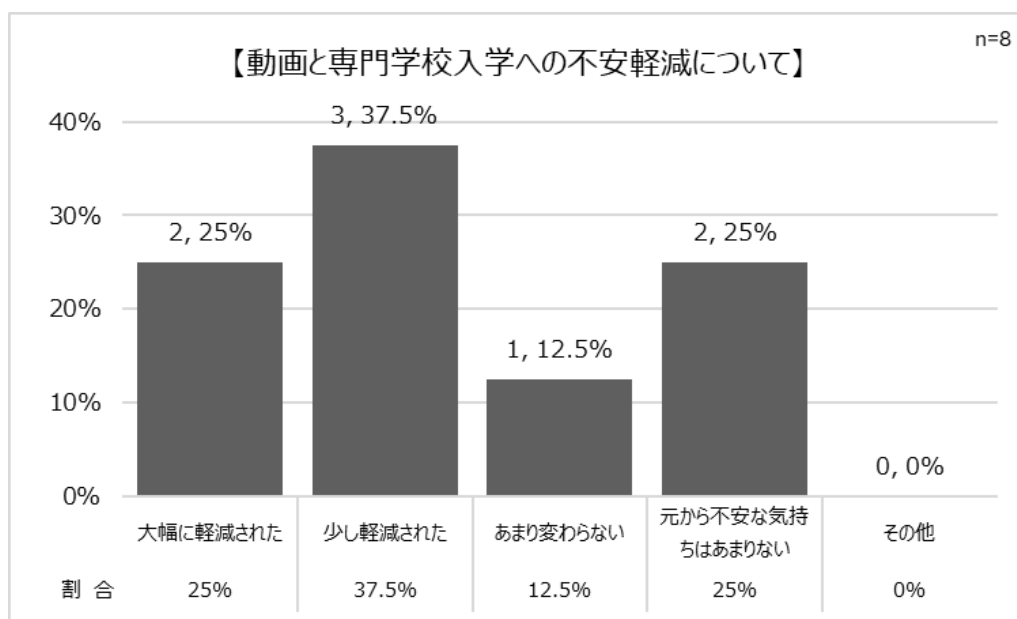


⑩この動画を見て、専門学校で学ぶことへの不安な気持ちは軽減されましたか？

n=8

項目	回答数	割合
大幅に軽減された	2	25%
少し軽減された	3	37.5%
あまり変わらない	1	12.5%
元から不安な気持ちはあまりない	2	25%
その他	0	0%
	8	100%

不安な気持ちは軽減、もしくは不安がないという効果が表れた回答であった。



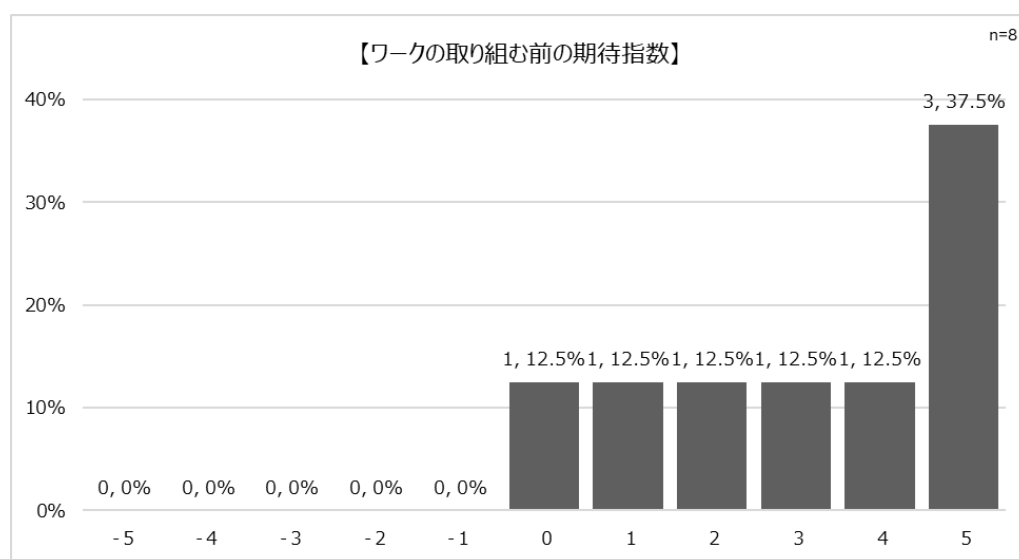
ここからは、ワークを通して感じたことの質問です。

- ⑪【ワークに取り組む前】の期待指数を教えてください。*自分の気持ち（期待指数）を、「-5から+5」の11段階から選んでください。-5が最も低く、+5が最も高いとします。

n=8

期待指数	回答数	割合
-5	0	0%
-4	0	0%
-3	0	0%
-2	0	0%
-1	0	0%
0	1	12.5%
1	1	12.5%
2	1	12.5%
3	1	12.5%
4	1	12.5%
5	3	37.5%
	8	100%

高校生の学びとは違い、専門的な所に足を踏み入れたことが現れた結果であった。



- ⑫上記⑪の期待指数にした理由

- ・具体的によく知らなかった
- ・レポートなどまとめるのが苦手だから
- ・まだまだ自分の知らない家具をお店に観に行くことの楽しみとそれを詳しく知ってレポートすることが楽しみだった
- ・ワークのレポート用紙に書き込む事を実際に近くのホームセンターに行っ

- て、見て触れることでその家具のデザインや色に興味をより強く持てたこと
- ・進学先から与えられた初めての課題に取り組むことが楽しみだから
 - ・お気に入りのインテリアが思いつかず、課題を進める時や今後が少し不安になったけど、見つけられるのを楽しみにしていたから
 - ・初めて専門的な課題が出されたので緊張した
 - ・今後のイメージを身につけられると思っているから

<期待指数に関するコメントから>

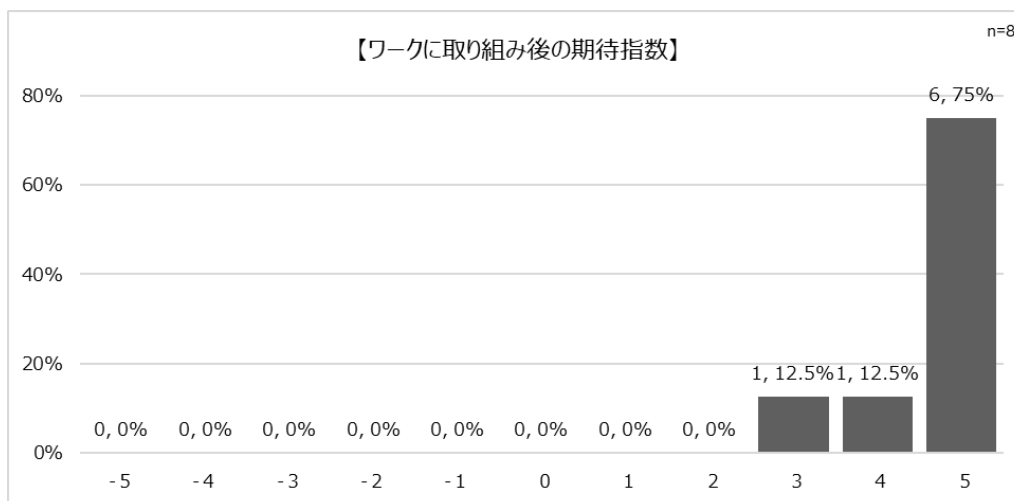
初めての専門的な課題による不安などはあるものの、楽しめると捉えて取り組もうとする姿勢の受講者が多い回答傾向であったと思われる。

- ⑬【ワークに取り組んだ後】の期待指数を教えてください。*自分の気持ち（期待指数）を、「-5から+5」の11段階から選んでください。-5が最も低く、+5が最も高いとします。

n=8

期待指数	回答数	割合
-5	0	0%
-4	0	0%
-3	0	0%
-2	0	0%
-1	0	0%
0	0	0%
1	0	0%
2	0	0%
3	1	12.5%
4	1	12.5%
5	6	75%
	8	100%

不安な気持ちが軽減、もしくは不安がないという効果が表れた回答であった。



⑭

上記⑬の期待指数にした理由

- ・ワークを行った後楽しい！と思えた。
- ・あらかじめ項目がありハードルが下がった自分の好きな家具を調べてまとめるのが楽しかった
- ・実際にお店に足を運んで自分の目で確かめることの重要性を理解できたと共に、自分にはまだまだ知らない家具が沢山あることを確認できた
- ・このワークに取り組むことで、よりその『照明』という一見何気ない家具に見えても、様々な色や形があることを知ることができました
- ・この機会に初めて自分でインテリアショップに行くことができ嬉しかったから。また、自分がどうしてそのインテリアが好きなのか、考えるのが楽しかったから
- ・自分の好きなインテリアを見つけられ、とても楽しかったから
- ・自分の興味あることの調べ学習だったので楽しかった
- ・説明会で聞いたことがあり、実際にやってみて今後のイメージをつけることができた

<期待指数に関するコメントから>

ワークを通して、自ら足を運んで自分の目で確かめる重要性を知ることや初めてのインテリアショップ体験、好きなインテリアを見つけられたことといった楽しく課題に取り組めたことが高評価につながった。

⑮全体を通して印象に残っていること

- ・校外学習の大切さ。つまらない授業も絶対将来役に立つ

- ・家具屋さんに行った時にたくさんの家具を見られたのが楽しかった木の名前とかまだよくわかっていないんだと知れた
- ・自分の目で確かめることは大変大事なことの1つだと今回の研修前の課題で知ることができた。今回の課題を通して入学後にもっと多くの時間をインテリアに使えることが楽しみになりました
- ・中々することの無い実際の家具を見に行き触れてみる事。動画が分かりやすく、これからの入学者に分かりやすく説明してくれるところ。
- ・原宿のおしゃれなインテリアショップに行けた。インテリアを見ながらどこが魅力なのか、どこが好きかなどを考えられた。個性的なデザインのインテリアとその説明を見てもっとインテリアに興味を持った。色々な店のインテリアを意識して見るようになった
- ・インテリアショップの照明の使い方
- ・選んだインテリアのスケッチをする時椅子の曲線や木の模様などの形を意識するようになった”
- ・インテリアは家を構成する大事なもの。物、デザイン、色など様々なインテリアエレメントがある。インテリアで快適な生活に近づけられる
- ・スケッチ
- ・実際に椅子の美術館に行き様々デザイナーの椅子をみて椅子行っても様々なデザインのものがあり面白かった

<印象に残ったコメントから>

卒業生の動画コメントでつまらない授業が社会に出ると役に立つということを知ることができた。また、自らの目で確かめる大切さ、インテリアショップに行くことでインテリアの魅力を考えることができた、椅子だけでも様々なデザインがありその面白さを知った。インテリア分野に進む受講生にとって専門学校入学前で学ぶ機会を体験できたことは有意義であると考えている。より一層具体的なイメージを高校生に伝えるため、授業を一つに絞り、それが社会に出る都役に立つといった卒業生と講師の動画効果はアンケート結果からも有意義であると考えている。

⑩その他伝えておきたいこと（今後の目標など、あればぜひ！！）

なし

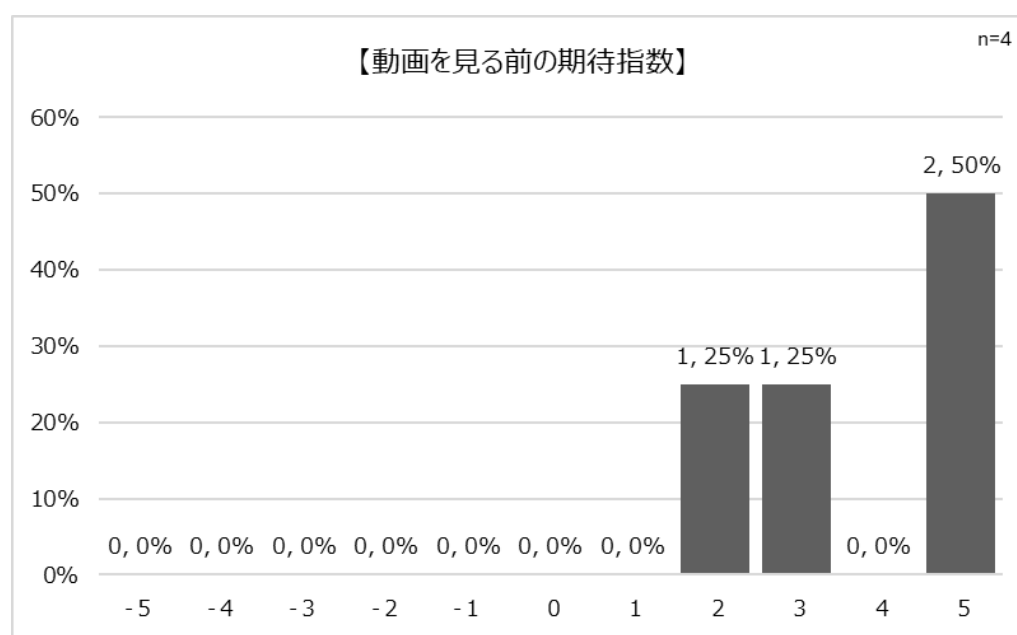
(4) 情報 (IT/IoT) 分野

- ①【動画を見る前】の選択分野に関する期待指数 (興味・やる気・授業への期待) を教えてください。*自分の気持ち (期待指数) を、「-5から+5」の11段階から選んでください。-5が最も低く、+5が最も高いとします。

n=4

期待指数	回答数	割合
-5	0	0%
-4	0	0%
-3	0	0%
-2	0	0%
-1	0	0%
0	0	0%
1	0	0%
2	1	25%
3	1	25%
4	0	0%
5	2	50%
	4	100%

期待値が高い傾向が表れている。



- ②上記①の期待指数にした理由

- ・プログラミングにかなり興味を持っていたからです
- ・IoTがどのように活用されているかを少し知ることができるのだと期待を膨らませていた

- ・わくわくした気持ちでした
- ・楽しそうな授業が紹介されていたから

＜期待指数に関するコメントから＞

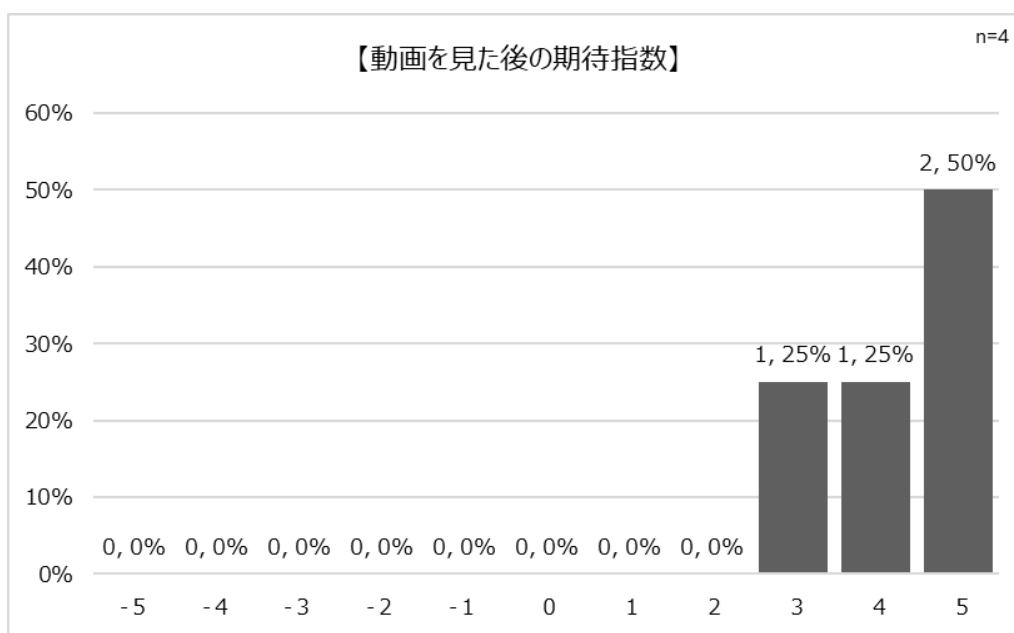
「興味がある」「期待を膨らませている」「わくわくした気持ち」「楽しそうな授業」といったことを感じていたことが期待指数に現れていた。

③【動画をみた後】の期待指数を教えてください。＊自分の気持ち（期待指数）を、「-5から+5」の11段階から選んでください。-5が最も低く、+5が最も高いとします。

n=4

期待指数	回答数	割合
-5	0	0%
-4	0	0%
-3	0	0%
-2	0	0%
-1	0	0%
0	0	0%
1	0	0%
2	0	0%
3	1	25%
4	1	25%
5	2	50%
	4	100%

動画を見た後、期待指数が上がった。



④上記③の期待指数にした理由

- ・教授の方が詳しく説明されていてやってみたいと思ったからです
- ・今現在IoT業界で働いている人が学校で学んだことがどのように活用されてどう役に立ったのか、わかりやすく説明されていて、とても勉強になった
- ・入学後の自分がイメージできた
- ・自分のやりたいことが出来そうでワクワクしたから

<期待指数に関するコメントから>

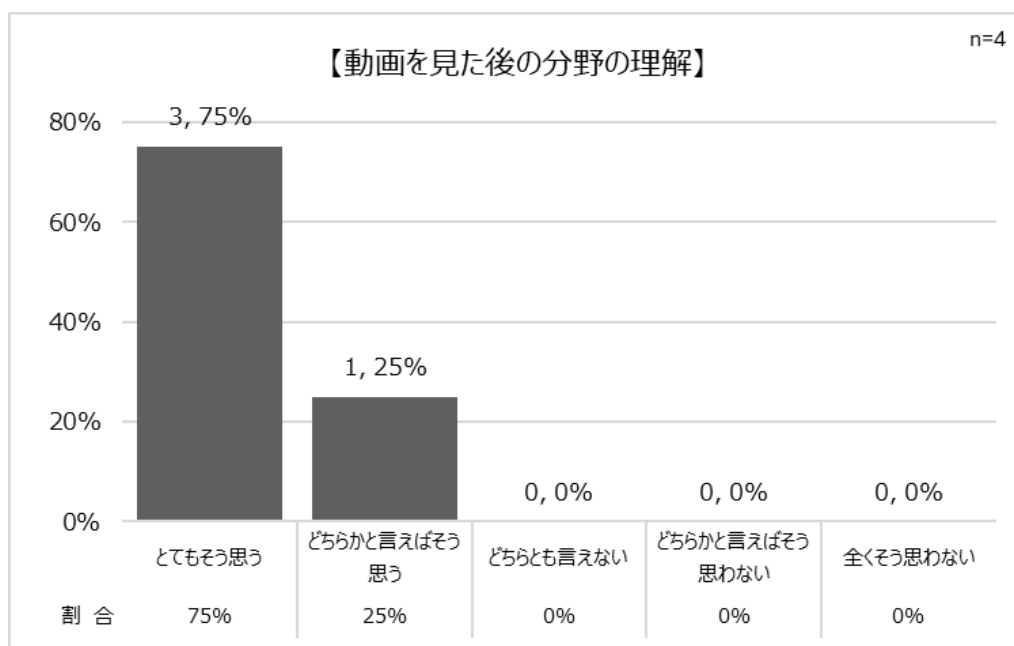
「興味がある」「期待を膨らませている」「わくわくした気持ち」「楽しそうな授業」といったことを感じていたことが期待指数に現れていた。

⑤この動画を見て、分野（入学予定の学科）の学びについての理解は深まりましたか？

n=4

項目	回答数	割合
とてもそう思う	3	75%
どちらかと言えばそう思う	1	25%
どちらとも言えない	0	0%
どちらかと言えばそう思わない	0	0%
全くそう思わない	0	0%
	4	100%

動画を見た後、全員が分野の学びについての理解が深まったとの回答であった。

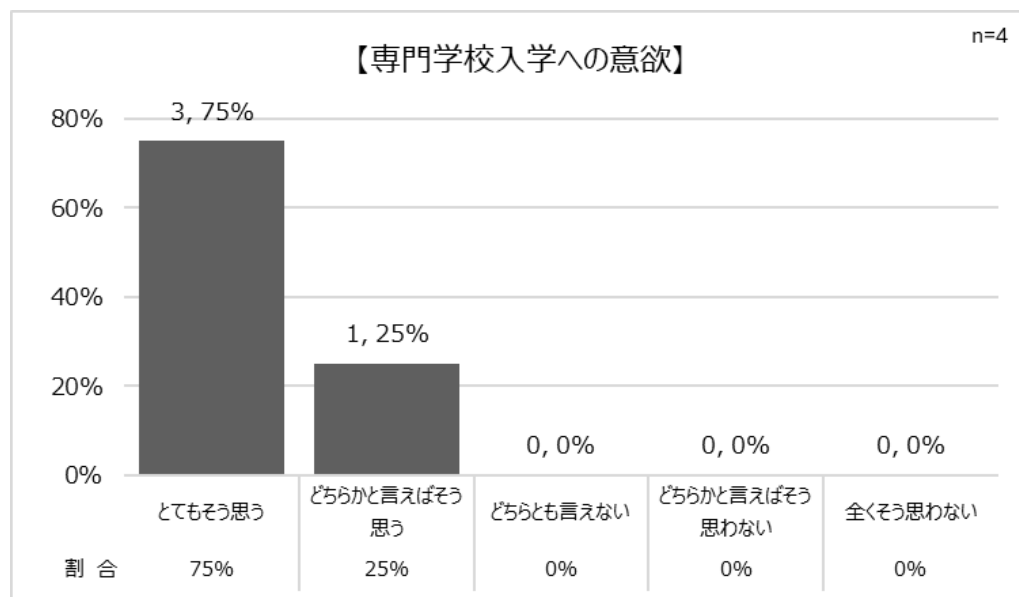


⑥この動画を見て、専門学校入学への意欲(やる気)について変化はありましたか？

n=4

項目	回答数	割合
とてもそう思う	3	75%
どちらかと言えばそう思う	1	25%
どちらとも言えない	0	0%
どちらかと言えばそう思わない	0	0%
全くそう思わない	0	0%
	4	100%

動画を見た後、全員が専門学校入学への意欲の変化があったとの回答であった。



⑦上記⑥で「とてもそう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答した方どのように変化したか、できるだけ具体的に教えてください。

- ・入学に対する期待感がかなり上がりました
- ・自ら仕事にしたいと思っていた分野ではあるけれど、具体的にI o Tなどをあまり理解していないというのもあり、これからどういったことを学べるのか、どのような内容か、といったところで今回の動画ではその一部を垣間見ることができ、私はこれからこういったことを段階を得て学んでいくのだと実感でき、少し意欲が高まりました。
- ・卒業生のメッセージが的確で、僕が授業で求めている内容そのままでした
- ・実感がわいたから

<「とてもそう思う」「どちらかと言えばそう思う」のコメントから>

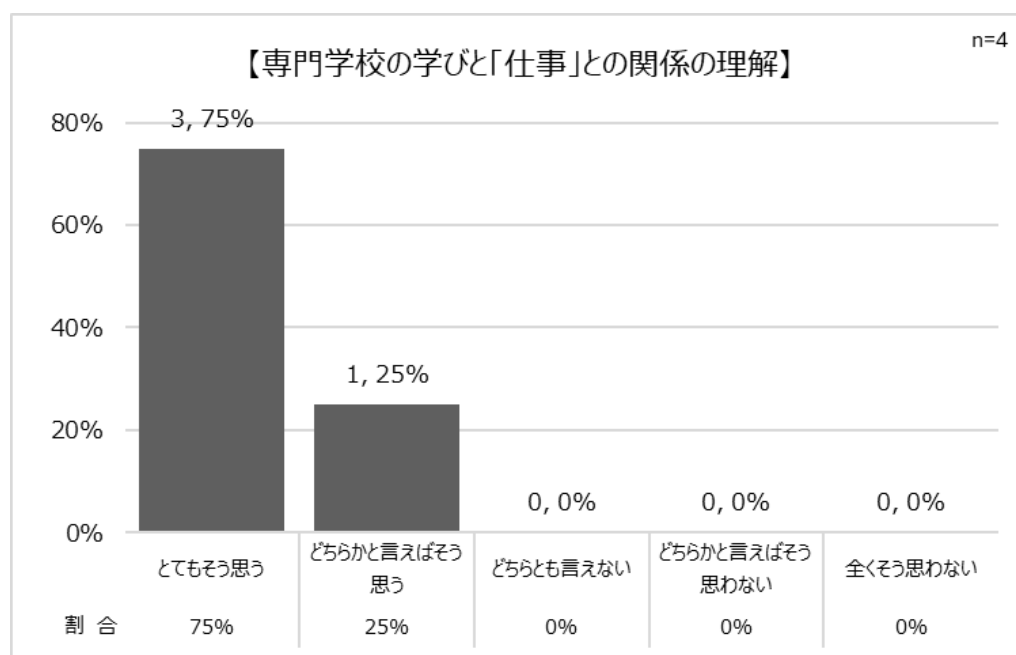
「期待感がかなり上がった」「少し意欲が高まった」「卒業生のメッセージが的確で、僕が授業で求めている内容」「実感がわいた」といった高評価のコメントとが目立った。

- ⑧この動画を見て、専門学校での学びが「仕事」にどのように役立つかの理解は深まりましたか？

n = 4

項目	回答数	割合
とてもそう思う	3	75%
どちらかと言えばそう思う	1	25%
どちらとも言えない	0	0%
どちらかと言えばそう思わない	0	0%
全くそう思わない	0	0%
	4	100%

動画を見た後、全員が専門学校での学びが「仕事」に役立つかの理解が深まったと回答。

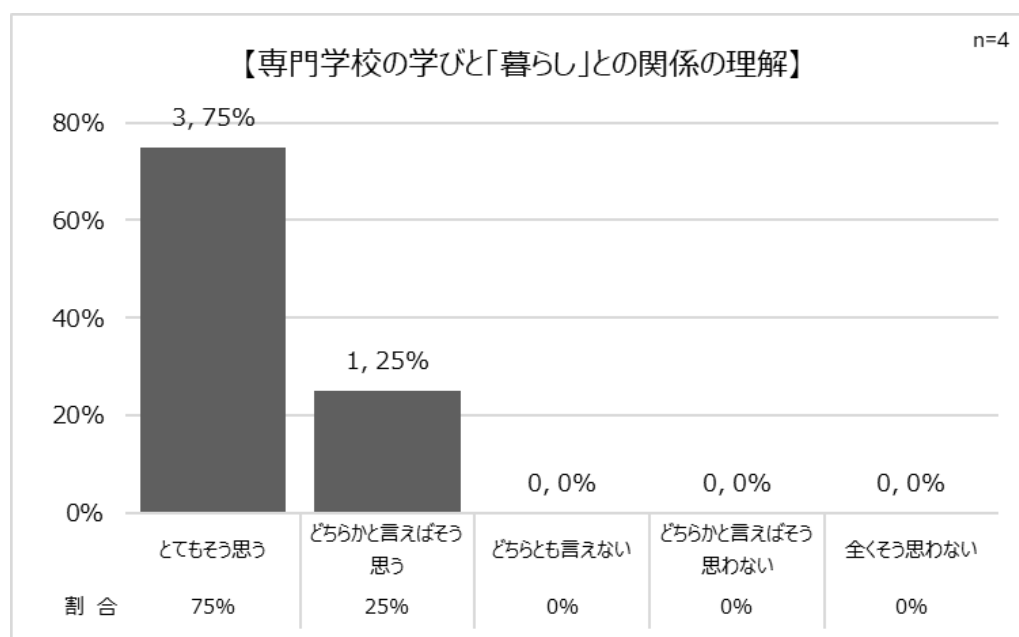


⑨この動画を見て、専門学校での学びが「暮らし」にどのように役立つかの理解は深まりましたか？

n = 4

項目	回答数	割合
とてもそう思う	3	75%
どちらかと言えばそう思う	1	25%
どちらとも言えない	0	0%
どちらかと言えばそう思わない	0	0%
全くそう思わない	0	0%
	4	100%

動画を見た後、全員が専門学校での学びが「暮らし」に役立つかの理解が深まったと回答。

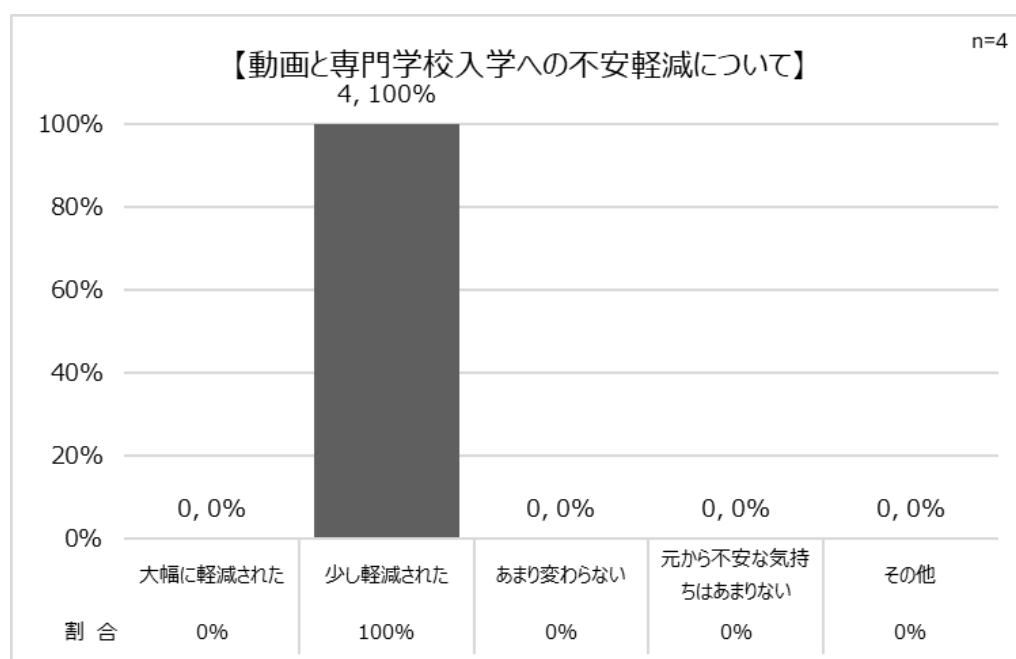


⑩この動画を見て、専門学校で学ぶことへの不安な気持ちは軽減されましたか？

n = 4

項目	回答数	割合
大幅に軽減された	0	0%
少し軽減された	4	100%
あまり変わらない	0	0%
元から不安な気持ちはあまりない	0	0%
その他	0	0%
	4	100%

動画を見た後、全員が専門学校で学ぶ不安な気持ちは軽減されたとの回答であった。



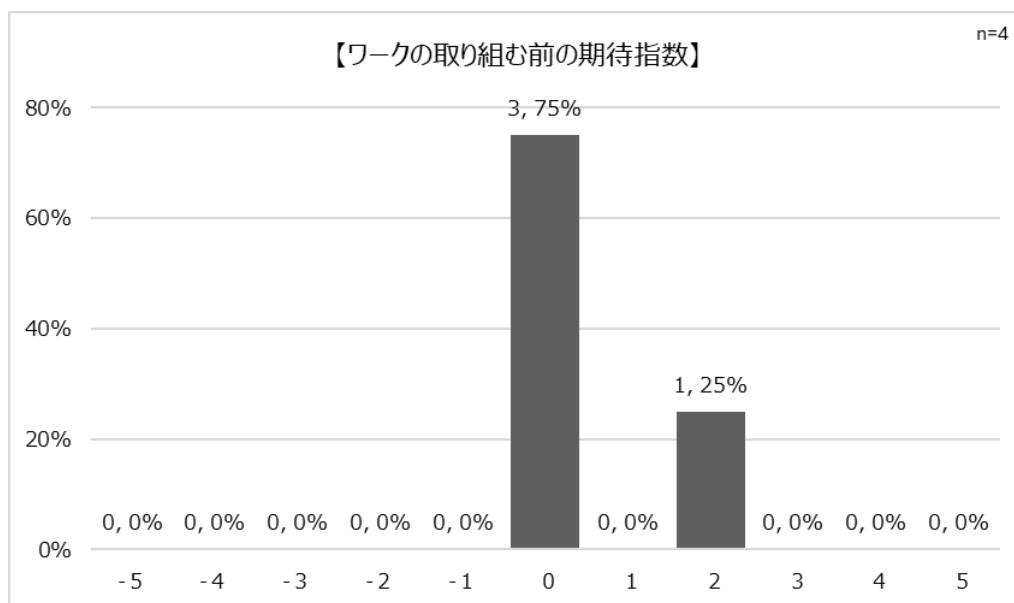
ここからは、ワークを通して感じたことの質問です。

- ⑪【ワークに取り組む前】の期待指数を教えてください。＊自分の気持ち（期待指数）を、「-5から+5」の11段階から選んでください。-5が最も低く、+5が最も高いとします。

n = 4

期待指数	回答数	割合
-5	0	0%
-4	0	0%
-3	0	0%
-2	0	0%
-1	0	0%
0	3	75%
1	0	0%
2	1	25%
3	0	0%
4	0	0%
5	0	0%
4		100%

ワークへの取り組みに対しての不安がある回答傾向であった。



⑫上記⑪の期待指数にした理由

- ・何について考えるか楽しみにしていたからです
- ・レポートを書くということを考えたら気が沈んだ
- ・どのようにワークを進めればいいのか自信がなかった
- ・新たなものを自分で思い付けるかどうかが不安だったから

<期待指数に関するコメントから>

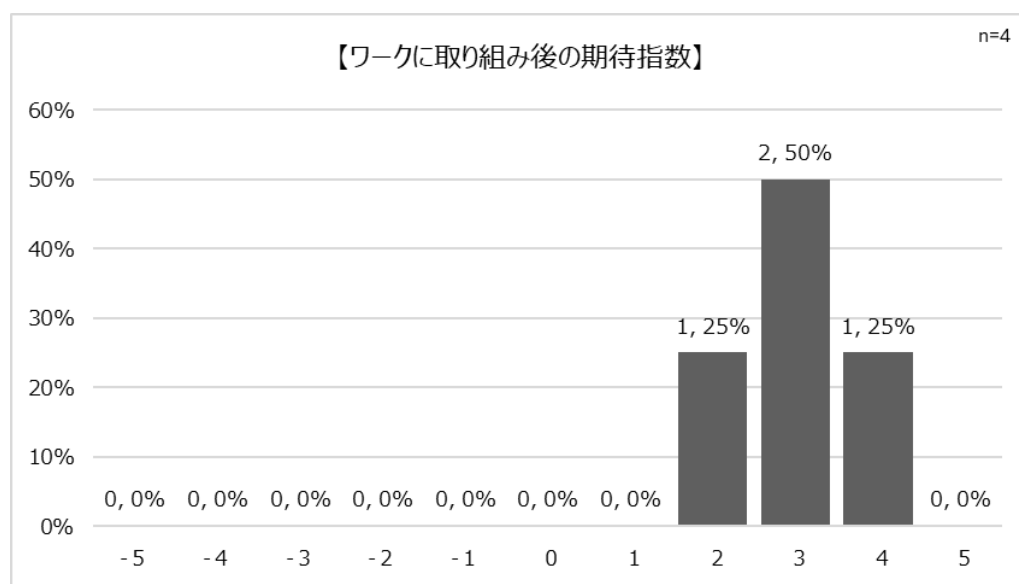
何について考えるか楽しみが少数で、ワークに関する不安が多数を占めた回答結果であった。伝え方への課題が残る結果となった。

- ⑬【ワークに取り組んだ後】の期待指数を教えてください。＊自分の気持ち（期待指数）を、「-5から+5」の11段階から選んでください。-5が最も低く、+5が最も高いとします。

n=4

期待指数	回答数	割合
-5	0	0%
-4	0	0%
-3	0	0%
-2	0	0%
-1	0	0%
0	0	0%
1	0	0%
2	1	25%
3	2	50%
4	1	25%
5	0	0%
	4	100%

ワークに取り組むことで、不安な所が解消された回答結果であった。



- ⑭上記⑬の期待指数にした理由

- ・調べるうちに様々なアイデアが思い浮かんだからです
- ・ワークを行ってみると、思っていた以上に私が生活を送る中で、I o Tが活用されていることが多く、私がこれから学ぶもののなかで、この日常にたくさんあるI o Tを少なからず手がけることができると考えると、中々レポートなどに書き記すことも悪くないと感じた

- ・文章に書き起こすことによって僕の作りたいものが、鮮明になりました。学校や企業に入ってもこのようなもの作ることの練習になりました
- ・自分なりに満足のいくようなシステムの提案をできたような気がするから

<期待指数に関するコメントから>

様々なアイデアが思い浮かぶ、レポートの重要性、システム提案といったこととできることが増えることで不安解消につながり、期待指数が上がった。

⑮全体を通して印象に残っていること

- ・I o Tについての説明課題の試行錯誤
- ・I o Tいろんなところで活用されている。I o T活用によって生活便利に。I o T業界人々支えている
- ・一番は入学後のイメージができてわくわくしました。課題は企業の最低限の提案書を作る練習になると思いました
- ・動画を見て楽しそうだったこと。I o T化のY o u T u b eチャンネルが更新されていたとても面白い装置があったこと。世の中の大半は自動が出来てしまいそうなこと。生活を効率化したいと思ったこと

<印象に残ったコメントから>

受講生が専門学校入学後のイメージができたこと、I o Tについて色々なことが分かったこと、生活を便利にするI o T技術といったことが、動画やワークから知る機会となった。専門学校の学びが社会に出ても役立つことを一つの授業に絞って卒業生と講師が発信し、それに関連したワークをすることで、専門学校を知る効果は上がると考えられる。

⑯その他伝えておきたいこと（今後の目標など、あればぜひ！！）

なし

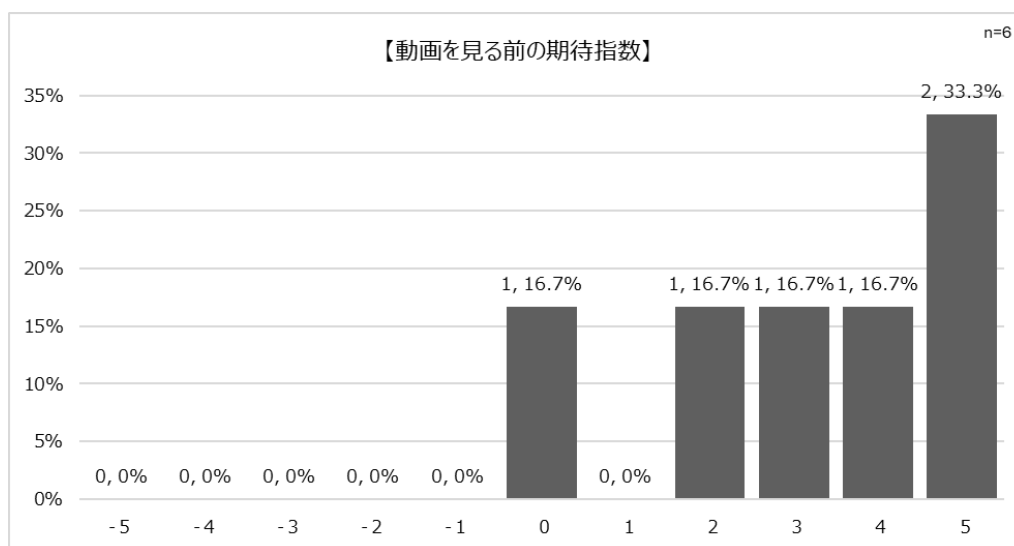
(5) I T / D X（データサイエンス）分野

- ①【動画をみる前】の選択分野についての期待指数（興味・やる気・授業への期待）を教えてください。＊自分の気持ち（期待指数）を、「-5から+5」の11段階から選んでください。-5が最も低く、+5が最も高いとします。

n=6

期待指数	回答数	割合
-5	0	0%
-4	0	0%
-3	0	0%
-2	0	0%
-1	0	0%
0	1	16.7%
1	0	0%
2	1	16.7%
3	1	16.7%
4	1	16.7%
5	2	33.3%
	6	100%

不安要素はあるものの、期待値は高めで表れている。



②上記①の期待指数にした理由

- ・何もわからない、思ってたから
- ・推しについて色々深く考えたことなかったから
- ・どんな授業なのかイメージがあまりできていなかったから
- ・自分が仕事にしたい分野だから
- ・自分が好きなことだから
- ・高校で学んだことよりもとても良い知識や学習ができているから

<期待指数に関するコメントから>

「何もわからない」「どんな授業なのかイメージできていない」「自分が仕事にしたい分野」「良い知識や学習ができる」といった不安的な部分とこの分野

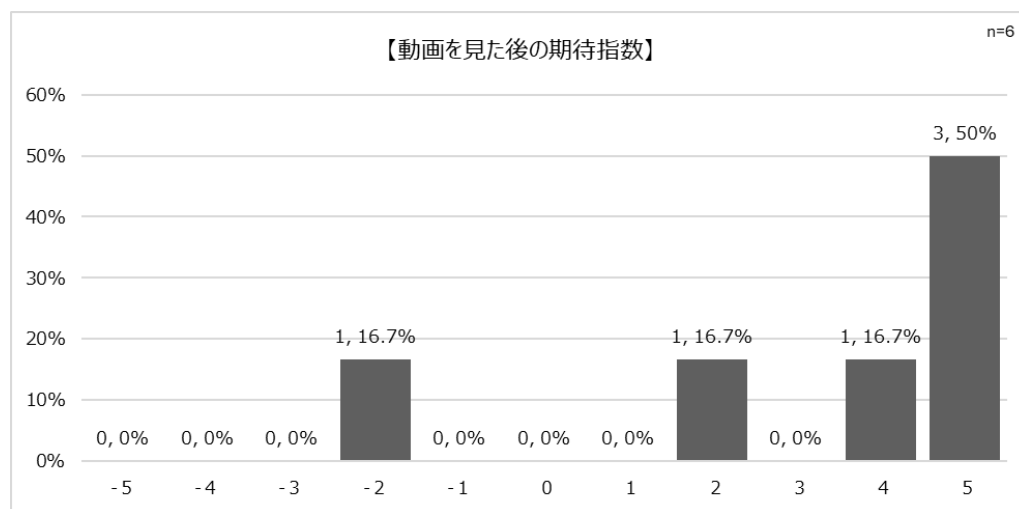
に進みたい、勉強したいといったことが期待指数に現れていた。

- ③【動画をみた後】の期待指数を教えてください。*自分の気持ち(期待指数)を、「-5から+5」の11段階から選んでください。-5が最も低く、+5が最も高いとします。

n=6

期待指数	回答数	割合
-5	0	0%
-4	0	0%
-3	0	0%
-2	1	16.7%
-1	0	0%
0	0	0%
1	0	0%
2	1	16.7%
3	0	0%
4	1	16.7%
5	3	50%
	6	100%

受講者の捉え方が大きく分かれた結果が表れている。



- ④上記③の期待指数にした理由

- ・自分が出来そうな事などがわからないから
- ・色々推しを調べて色々な形で実践してみるのが楽しそうだなと思ったから
- ・少し授業のイメージが膨らんだから
- ・会社で実際に行うグループワークを事前に体験できる授業があると知ったから
- ・自分が思っている以上だったから

・動画を見た後も変わらずとても良い知識、学習が出来ると考えているから

<期待指数に関するコメントから>

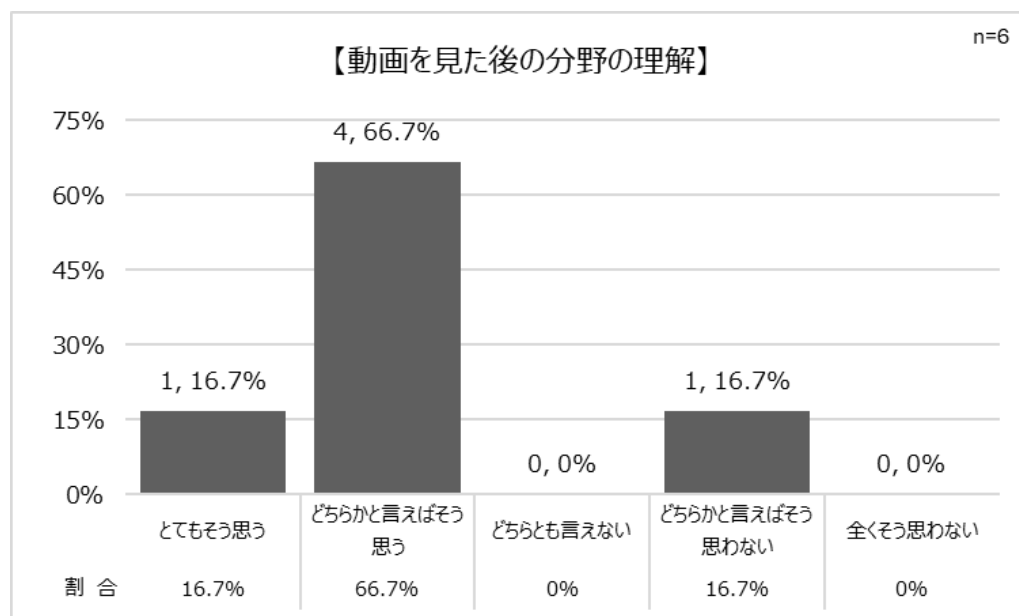
「自分が出来そうな事などがわからない」「色々推しを調べて色々な形で実践してみるのが楽しそう」「少し授業のイメージが膨らんだ」「会社で実際に行うグループワークを事前に体験できる授業がある」といった不安的な部分とこの分野に進みたい、学びたいといったことが明確に期待指数に表れた結果であった。

⑤この動画を見て、分野（入学予定の学科）の学びについての理解は深まりましたか？

n=6

項目	回答数	割合
とてもそう思う	1	16.7%
どちらかと言えばそう思う	4	66.7%
どちらとも言えない	0	0%
どちらかと言えばそう思わない	1	16.7%
全くそう思わない	0	0%
	6	100%

分野の学びについての理解の深まりの捉え方は、受講者毎に大きく分かれています。

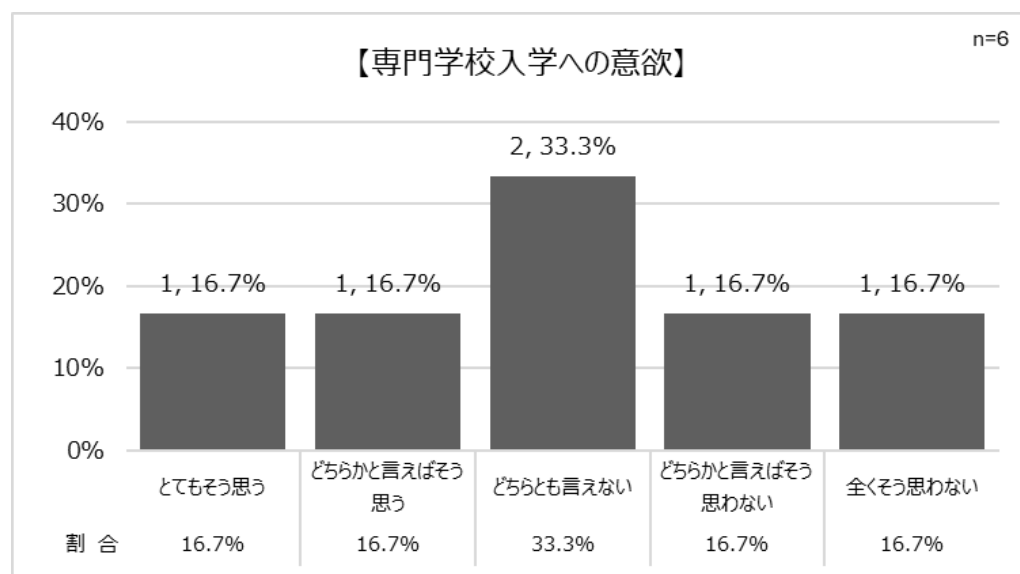


⑥この動画を見て、専門学校入学への意欲（やる気）について変化はありましたか？

n=6

項目	回答数	割合
とてもそう思う	1	16.7%
どちらかと言えばそう思う	1	16.7%
どちらとも言えない	2	33.3%
どちらかと言えばそう思わない	1	16.7%
全くそう思わない	1	16.7%
	6	100%

専門学校入学への意欲についての変化の捉え方は、受講者毎に大きく分かれています。



⑦上記⑥で「とてもそう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答した方どのように変化したか、できるだけ具体的に教えてください。

- ・動画を見たことで学校のイメージが膨らみ、卒業生からのメッセージを聞いたから
- ・動画で言っていた推し授業の、K a g g l e というものがとても社会に出て役立つというが分かり、より理解が深まったから

<「とてもそう思う」「どちらかと言えばそう思う」のコメントから>

「動画を見たことで学校のイメージが膨らみ、卒業生からのメッセージを聞いたから」「推し授業の、K a g g l e というものがとても社会に出て役立つ

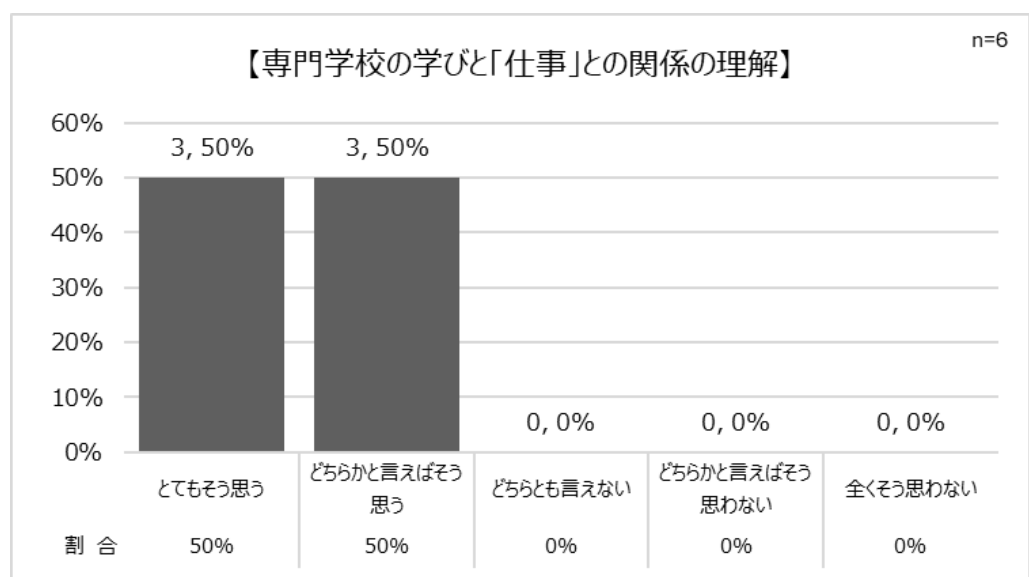
というが分かり、より理解が深まった」といった高評価の受講生とそうではない受講生で分かれている。

⑧この動画を見て、専門学校での学びが「仕事」にどのように役立つかの理解は深まりましたか？

n=6

項 目	回 答 数	割 合
とてもそう思う	3	50%
どちらかと言え ばそう思う	3	50%
どちらとも言え ない	0	0%
どちらかと言え ばそう思わない	0	0%
全くそう思わな い	0	0%
	6	100%

全員が専門学校での学びは「仕事」に役立つ理解が深まったと回答。

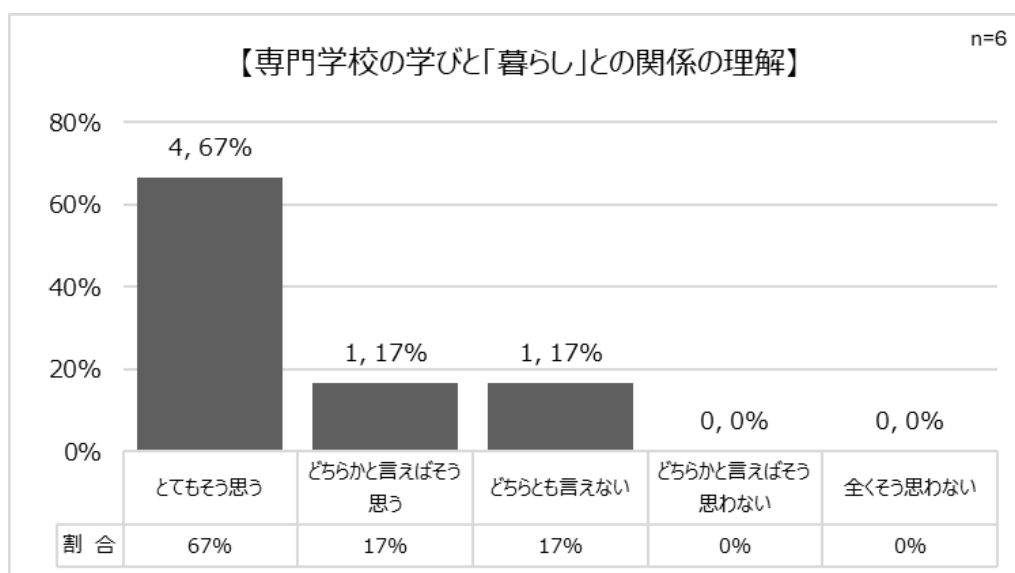


⑨この動画を見て、専門学校での学びが「暮らし」にどのように役立つかの理解は深まりましたか？

n=6

項目	回答数	割合
とてもそう思う	4	67%
どちらかと言えばそう思う	1	17%
どちらとも言えない	1	17%
どちらかと言えばそう思わない	0	0%
全くそう思わない	0	0%
	6	100%

大半が専門学校での学びは「暮らし」に役立つ理解が深まったと回答。



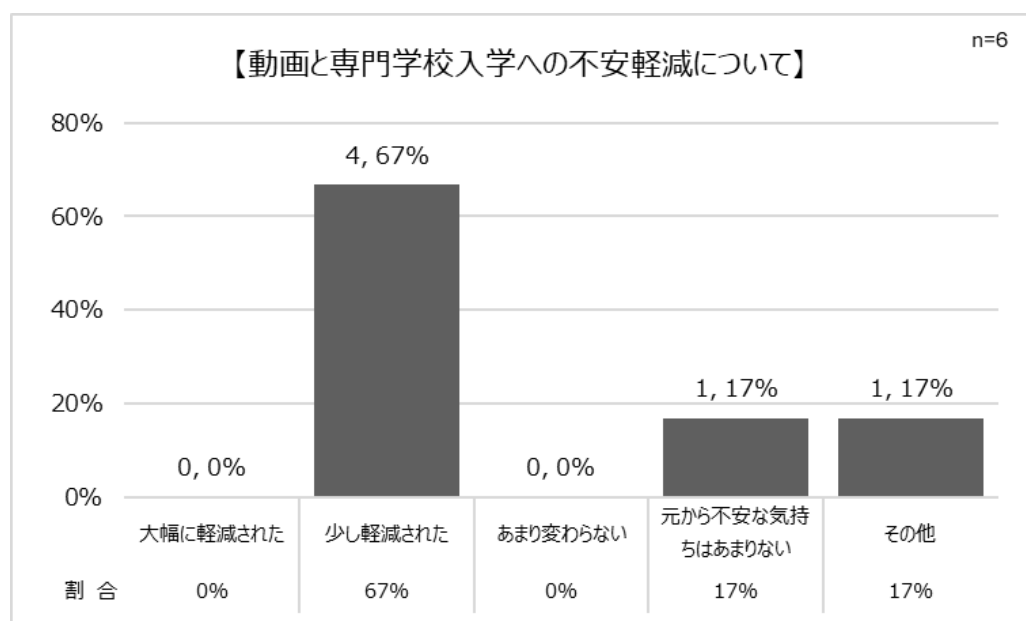
⑩この動画を見て、専門学校で学ぶことへの不安な気持ちは軽減されましたか？

n=6

項目	回答数	割合
大幅に軽減された	0	0%
少し軽減された	4	67%
あまり変わらない	0	0%
元から不安な気持ちはあまりない	1	17%
その他	1	17%
	6	100%

少し増えた

大半は専門学校で学ぶことへの不安な気持ちは軽減、もしくはあまりないと回答。



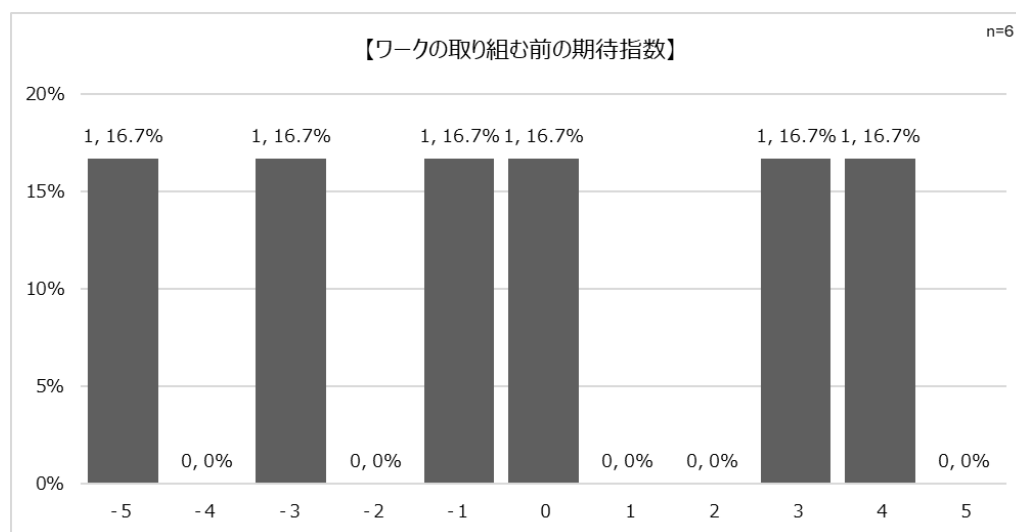
ここからは、ワークを通して感じたことの質問です。

- ⑪【ワークに取り組む前】の期待指数を教えてください。*自分の気持ち（期待指数）を、「-5から+5」の11段階から選んでください。-5が最も低く、+5が最も高いとします。

n=6

期待指数	回答数	割合
-5	1	16.7%
-4	0	0%
-3	1	16.7%
-2	0	0%
-1	1	16.7%
0	1	16.7%
1	0	0%
2	0	0%
3	1	16.7%
4	1	16.7%
5	0	0%
	6	100%

苦手や不安といった傾向が多かった。



- ⑫上記⑪の期待指数にした理由

- ・自分にできるかわからなかったから
- ・今までちゃんとした推しがいなかったからどう取り組めばいいかわからなかったから
- ・自分の推しというテーマだったから
- ・専門学校からの初めてのワークだったのでとても意欲があったから
- ・ワークの取り組みが少し苦手だから

- ・ワークに対してあまり期待や不安などがなかったため

<期待指数に関するコメントから>

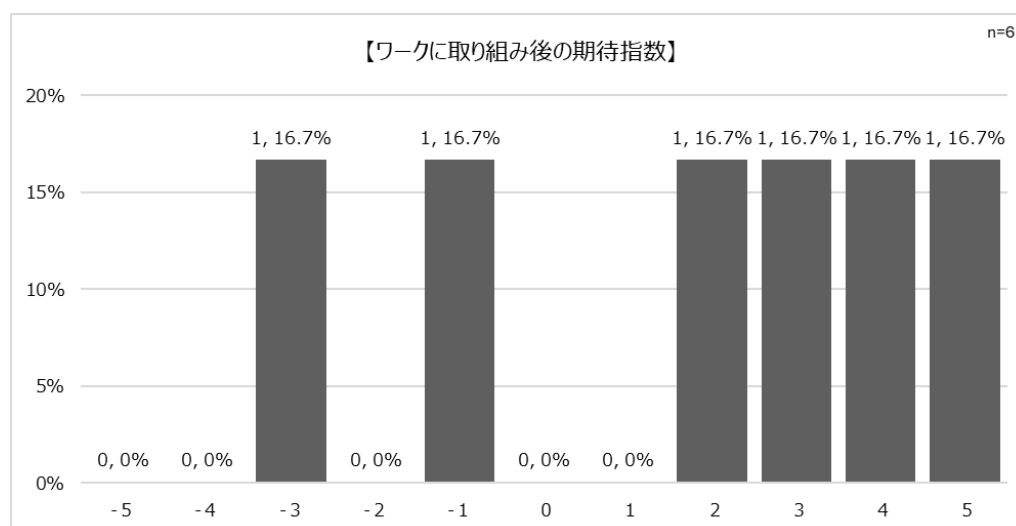
「自分にできるかわからない」「取り組み方がわからない」「テーマ自体の問題」「ワークの取り組みが苦手」といったコメントが目立った。ワークの伝え方が課題である。

- ⑬【ワークに取り組んだ後】の期待指数を教えてください。*自分の気持ち（期待指数）を、「-5から+5」の11段階から選んでください。-5が最も低く、+5が最も高いとします。

n=6

期待指数	回答数	割合
-5	0	0%
-4	0	0%
-3	1	16.7%
-2	0	0%
-1	1	16.7%
0	0	0%
1	0	0%
2	1	16.7%
3	1	16.7%
4	1	16.7%
5	1	16.7%
	6	100%

実際に取り組むことで、達成感があった受講者が増えた結果と思われる。



- ⑭上記⑬の期待指数にした理由

- ・可能な事は沢山書いたから

- ・実際に身近なもので考えて決めて調べた結果とても楽しかったから
- ・自分の推しについて分析することによってさらに推しのことについて知れたから
- ・データの分析をするのがとても楽しかったから
- ・推しがないのでとても悩んだ
- ・あまり情報処理科の事前課題として行う理由が理解できなかったため

<期待指数に関するコメントから>

「可能な事は沢山書いた」「身近なもので考えて決めて調べた結果とても楽しかった」「データの分析をするのがとても楽しかった」といった達成感を得た楽しかったというコメントと「推しがないのでとても悩んだ」「情報処理科の事前課題として行う理由が理解できなかった」といった達成感が味わえなかったことが明確に期待指数に表れた結果であった。

⑮全体を通して印象に残っていること

- ・推しに対してのみならず、ゲーム開発チームに対しても必要だから意見や要望出来たこと
- ・実際に考えるととてもインターネットで調べると情報が複雑でどう調べたらいいかわからないこともあったのでなるべくリアルタイムで情報を取り入れて蓄積していくことが大切だなと感じた。
- ・データをグラフにしてみたことでどのように数字が伸びているのか、目に見えてわかったこと。分析したことをまとめて手紙にするのも、ただまとめるのと違って、手紙にするという新しい考えで楽しい課題だった
- ・授業で学んだことをただ覚えるだけではなく、それを実践し仕事に活かせるような授業があることがとても印象に残りました。推しの分析というものをやったことがなかったのでとても面白かった
- ・専門学校の授業 レポート課題
- ・1、2年生で合同で行う学習がある

<印象に残ったコメントから>

「なるべくリアルタイムで情報を取り入れて蓄積していくことが大切」「授業で学んだことをただ覚えるだけではなく、それを実践し仕事に活かせるような授業があること」「推しの分析というものをやったことがなかったのでとて

も面白かった」といった専門学校の授業は様々な形があるといった専門学校入学後のイメージができたことの印象が強かったようである。

⑩その他伝えておきたいこと（今後の目標など、あればぜひ！！）

なし

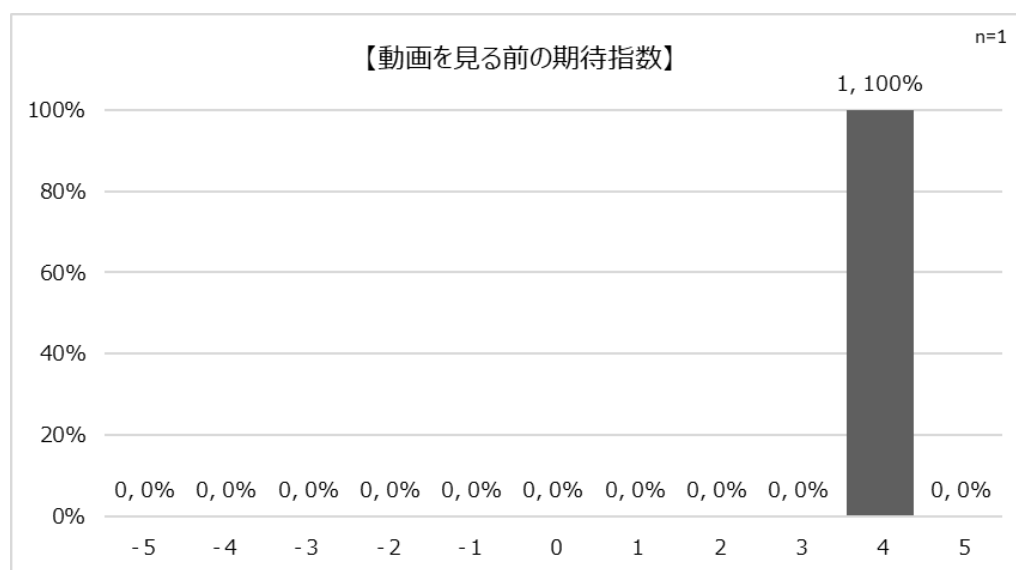
（6）環境分野

- ①【動画をみる前】の選択分野に関する期待指数（興味・やる気・授業への期待）を教えてください。＊自分の気持ち（期待指数）を、「-5から+5」の11段階から選んでください。-5が最も低く、+5が最も高いとします。

n=1

期待指数	回答数	割合
-5	0	0%
-4	0	0%
-3	0	0%
-2	0	0%
-1	0	0%
0	0	0%
1	0	0%
2	0	0%
3	0	0%
4	1	100%
5	0	0%
1		100%

興味があることで高い期待指数になっている。



②上記①の期待指数にした理由

・興味などが元々あったため

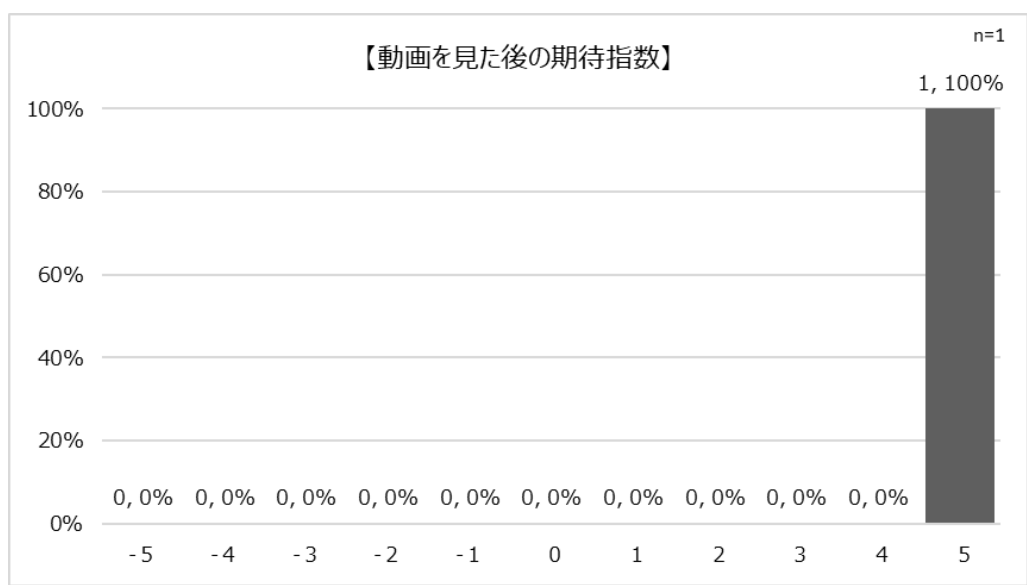
<期待指数に関するコメントから>

興味があることで期待指数が上がっている。

③【動画をみた後】の期待指数を教えてください。*自分の気持ち(期待指数)を、「-5から+5」の11段階から選んでください。-5が最も低く、+5が最も高いとします。

n=1		
期待指数	回答数	割合
-5	0	0%
-4	0	0%
-3	0	0%
-2	0	0%
-1	0	0%
0	0	0%
1	0	0%
2	0	0%
3	0	0%
4	0	0%
5	1	100%
	1	100%

動画を見ることでさらに期待指数が上がった。



④上記③の期待指数にした理由

・動画を見てさらに興味が出た。

<期待指数に関するコメントから>

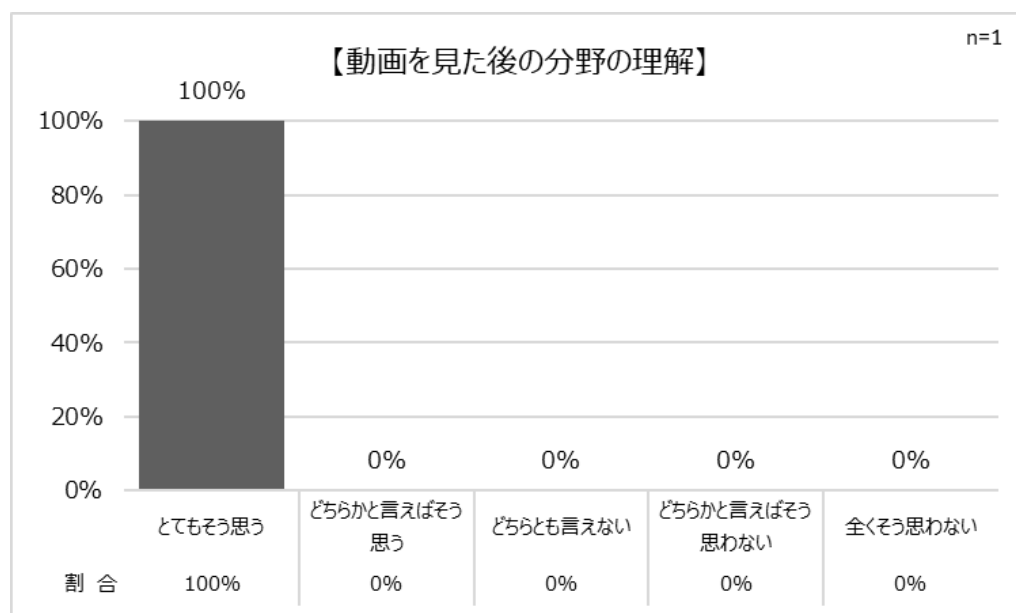
動画を見ることで具体的なイメージを持つことができ、さらに期待指数が上がった結果となった。

- ⑤この動画を見て、分野（入学予定の学科）の学びについての理解は深まりましたか？

n=1

項目	回答数	割合
とてもそう思う	1	100%
どちらかと言え ばそう思う	0	0%
どちらとも言え ない	0	0%
どちらかと言え ばそう思わない	0	0%
全くそう思わな い	0	0%
	1	100%

動画を見ることで、分野の学びについての理解が深まった。

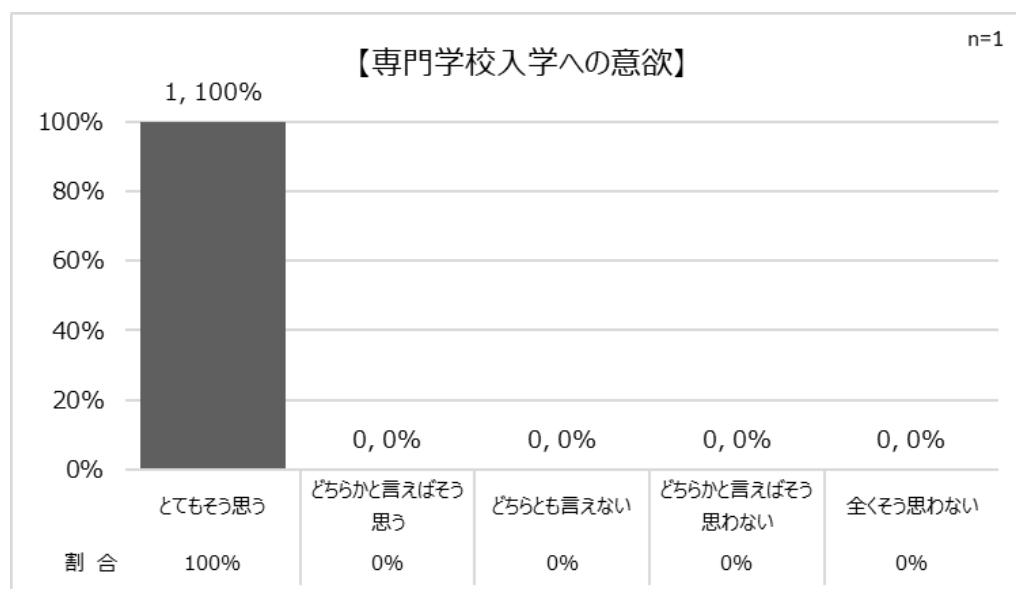


⑥この動画を見て、専門学校入学への意欲（やる気）について変化はありましたか？

n=1

項目	回答数	割合
とてもそう思う	1	100%
どちらかと言えばそう思う	0	0%
どちらとも言えない	0	0%
どちらかと言えばそう思わない	0	0%
全くそう思わない	0	0%
	1	100%

動画を見ることで、専門学校入学への意欲の変化があった。



⑦上記⑥で「とてもそう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答した方どのように変化したか、できるだけ具体的に教えてください。

- ・2年間どのように学べるかの期待が上がった

<「とてもそう思う」「どちらかと言えばそう思う」のコメントから>

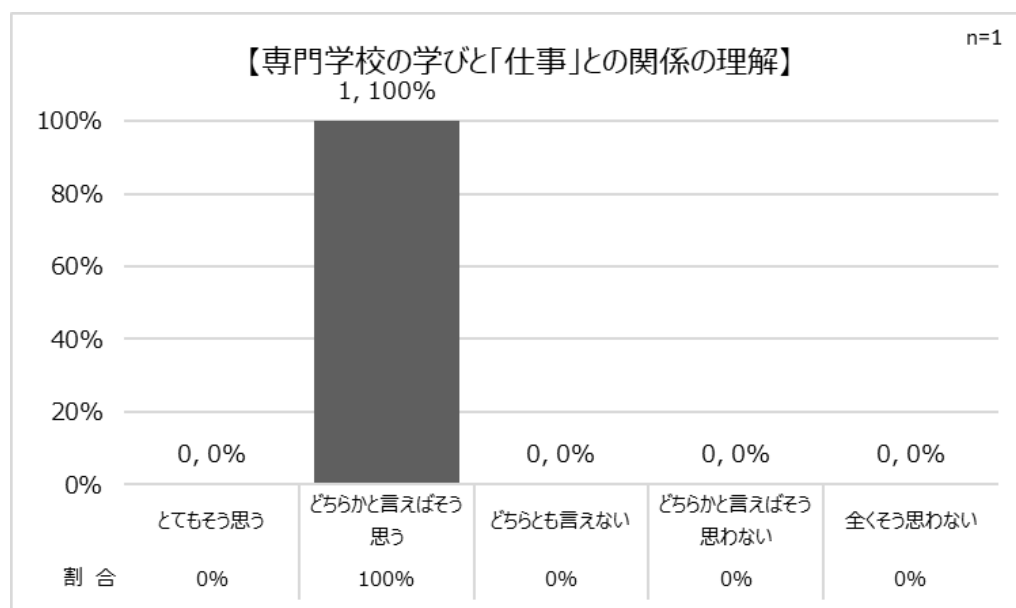
専門学校で学ぶことに楽しさが出てきたという回答結果であった。

⑧この動画を見て、専門学校での学びが「仕事」にどのように役立つかの理解は深まりましたか？

n=1

項目	回答数	割合
とてもそう思う	0	0%
どちらかと言えばそう思う	1	100%
どちらとも言えない	0	0%
どちらかと言えばそう思わない	0	0%
全くそう思わない	0	0%
	1	100%

専門学校での学びが「仕事」に役立つ理解が深まった。

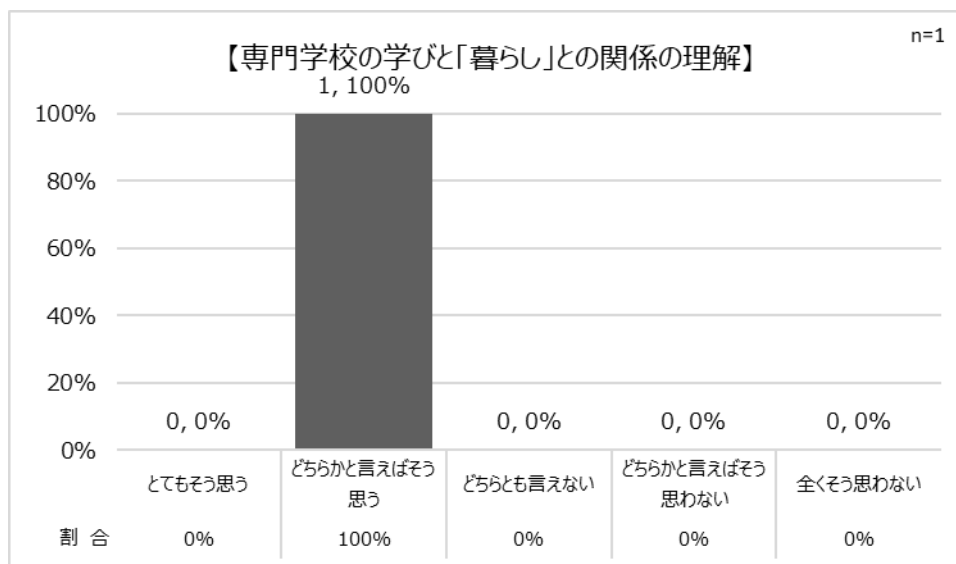


⑨この動画を見て、専門学校での学びが「暮らし」にどのように役立つかの理解は深まりましたか？

n=1

項目	回答数	割合
とてもそう思う	0	0%
どちらかと言えばそう思う	1	100%
どちらとも言えない	0	0%
どちらかと言えばそう思わない	0	0%
全くそう思わない	0	0%
1		100%

専門学校での学びが「暮らし」に役立つ理解が深まった。

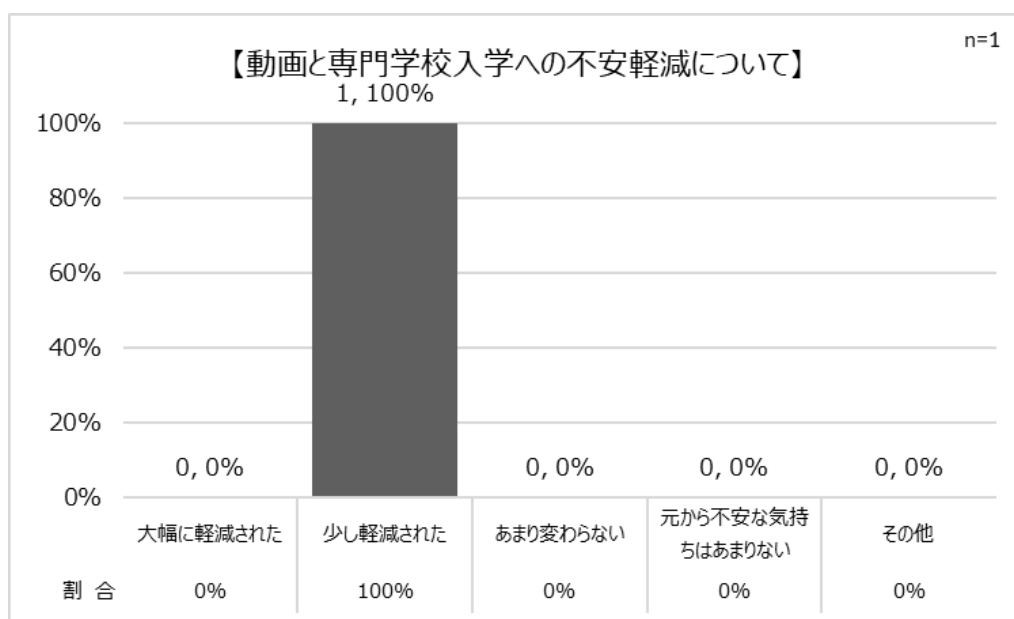


⑩この動画を見て、専門学校で学ぶことへの不安な気持ちは軽減されましたか？

n=1

項目	回答数	割合
大幅に軽減された	0	0%
少し軽減された	1	100%
あまり変わらない	0	0%
元から不安な気持ちはあまりない	0	0%
その他	0	0%
	1	100%

専門学校で学ぶことへの不安な気持ちは軽減された。

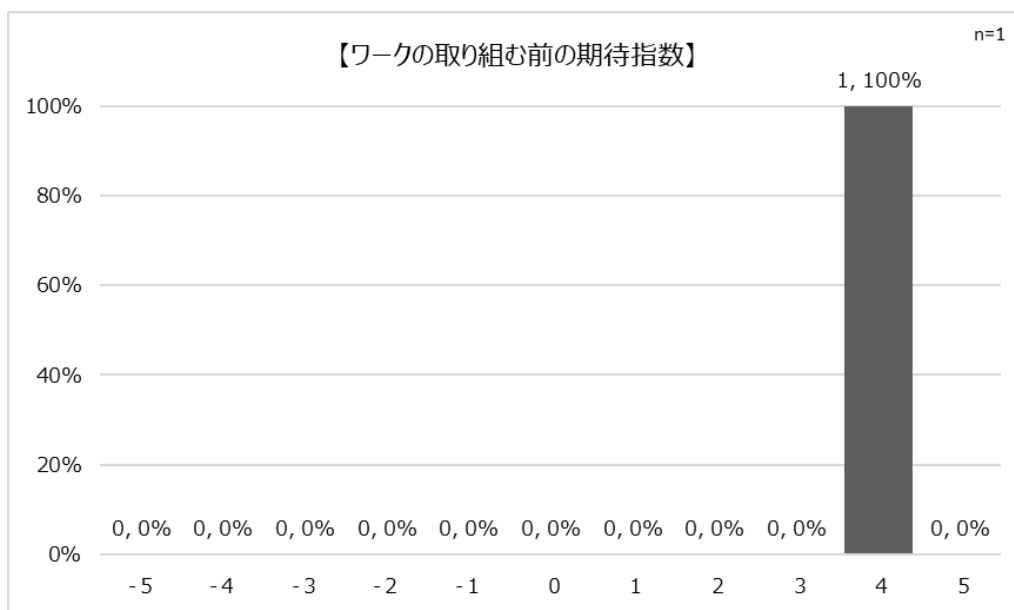


ここからは、ワークを通して感じたことの質問です。

- ⑪【ワークに取り組む前】の期待指数を教えてください。*自分の気持ち（期待指数）を、「-5から+5」の11段階から選んでください。-5が最も低く、+5が最も高いとします。

n=1		
期待指数	回答数	割合
-5	0	0%
-4	0	0%
-3	0	0%
-2	0	0%
-1	0	0%
0	0	0%
1	0	0%
2	0	0%
3	0	0%
4	1	100%
5	0	0%
	1	100%

ワークへの取り組みの興味が表れた。



- ⑫上記⑪の期待指数にした理由

・レポートの探索が面白そうだった

<期待指数に関するコメントから>

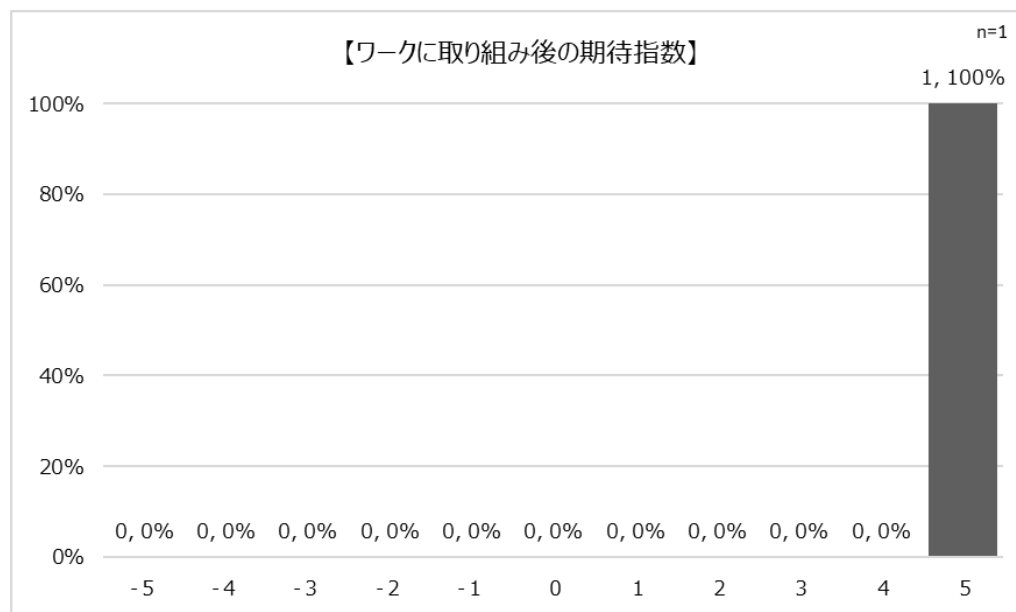
実際に自ら調べることへの探求心が期待指数に表れている。

- ⑬【ワークに取り組んだ後】の期待指数を教えてください。*自分の気持ち（期待指数）を、「-5から+5」の11段階から選んでください。-5が最も低く、+5が最も高いとします。

n=1

期待指数	回答数	割合
-5	0	0%
-4	0	0%
-3	0	0%
-2	0	0%
-1	0	0%
0	0	0%
1	0	0%
2	0	0%
3	0	0%
4	0	0%
5	1	100%
	1	100%

ワークの楽しさが表れた。



- ⑭上記⑬の期待指数にした理由

・楽しんで探索ができたため

<期待指数に関するコメントから>

実際に自ら調べることへの満足度が期待指数に表れている。

⑮全体を通して印象に残っていること

・普段あまり気にしないところに目を向けられた。静岡市の遊水池に行って探索をしたが、市がさまざまな保全活動などを行っていることが印象に残った。渡り鳥など、かなりの数の鳥が生息していた。

<印象に残ったコメントから>

興味がある分野にさらに探求心を与える様々なことに目を向けるきっかけ作りの機会となる実証授業であったと思える。動画は、専門学校の授業は仕事とのつながりがあることを認識する機会を与える効果として考えられる。

⑯その他伝えておきたいこと（今後の目標など、あればぜひ！！）

なし

(7) 6分野全体

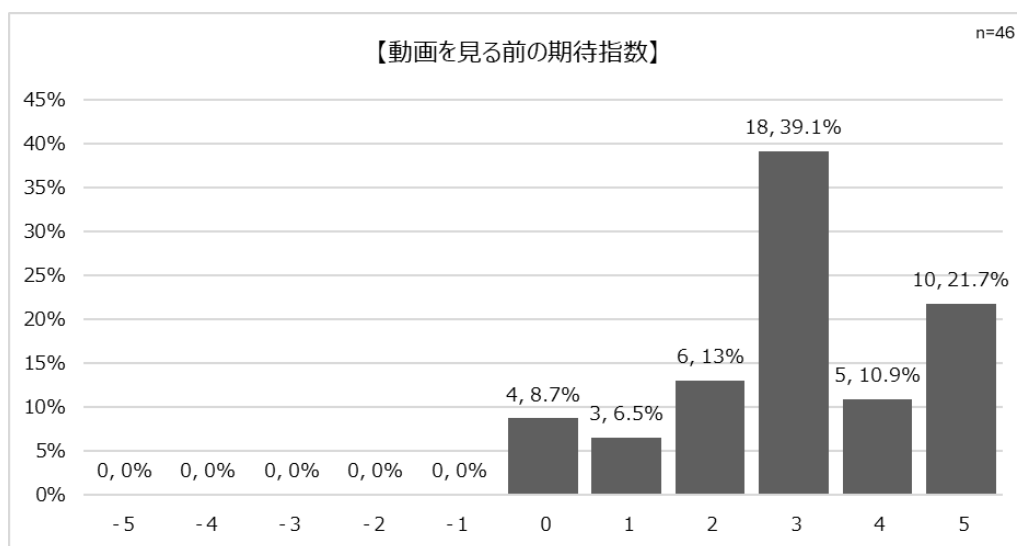
6分野全体を一つとして表とグラフのアンケート結果から傾向を導き出してみた。

- ①【動画をみる前】の選択分野についての期待指数（興味・やる気・授業への期待）を教えてください。＊自分の気持ち（期待指数）を、「-5から+5」の11段階から選んでください。-5が最も低く、+5が最も高いとします。

n=46

期待指数	回答数	割合
-5	0	0%
-4	0	0%
-3	0	0%
-2	0	0%
-1	0	0%
0	4	8.7%
1	3	6.5%
2	6	13%
3	18	39.1%
4	5	10.9%
5	10	21.7%
	46	100%

全体的に、期待指数3以上が71.8%と高い傾向にある。進路が決まっていることの表れともいえる。

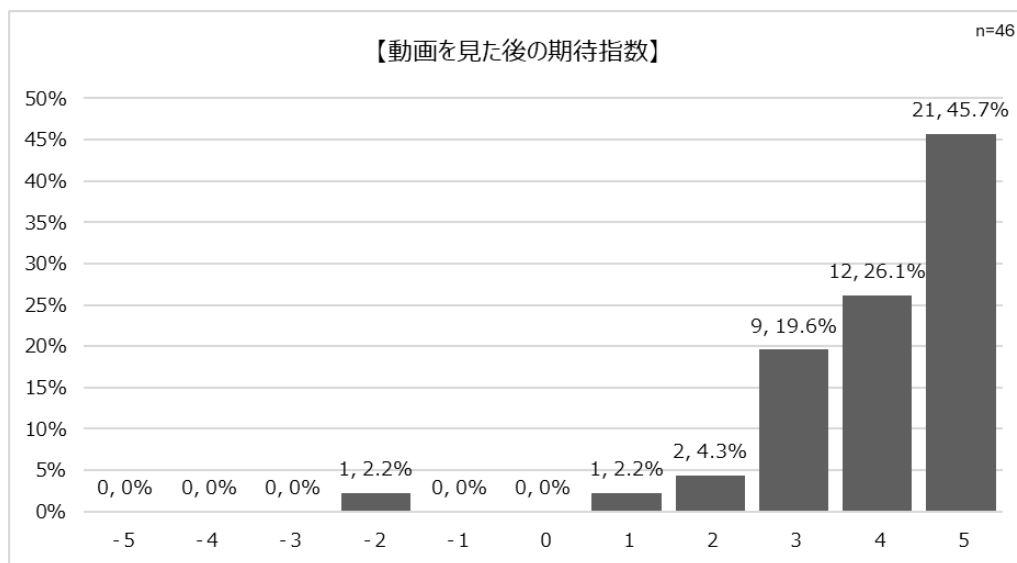


- ③【動画をみた後】の期待指数を教えてください。*自分の気持ち(期待指数)を、「-5から+5」の11段階から選んでください。-5が最も低く、+5が最も高いとします。

n=46

期待指数	回答数	割合
-5	0	0%
-4	0	0%
-3	0	0%
-2	1	2.2%
-1	0	0%
0	0	0%
1	1	2.2%
2	2	4.3%
3	9	19.6%
4	12	26.1%
5	21	45.7%
	46	100%

動画を見た後では、期待指数3以上が91.4%と高い傾向にある。卒業生と講師の動画の効果が高評価であったと考えられる。

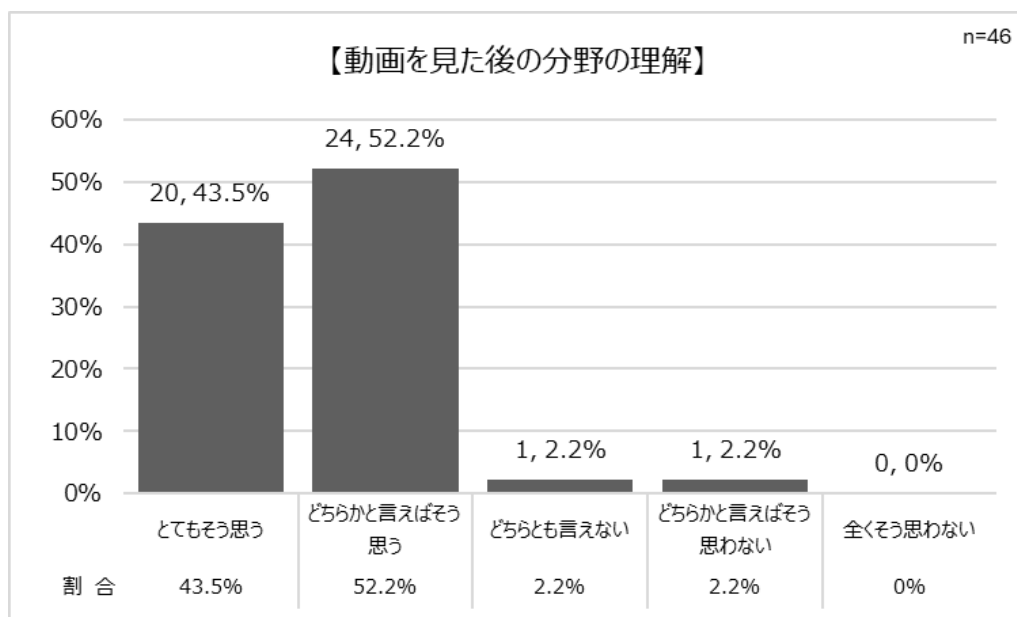


⑤この動画を見て、分野（入学予定の学科）の学びについての理解は深まりましたか？

n=46

項目	回答数	割合
とても思う	20	43.5%
どちらかと言えば思う	24	52.2%
どちらとも言えない	1	2.2%
どちらかと言えばそう思わない	1	2.2%
全くそう思わない	0	0%
	46	100%

動画を見て、分野（入学予定の学科）の学びについての理解は深まったとの回答が95.7%と高水準であった。

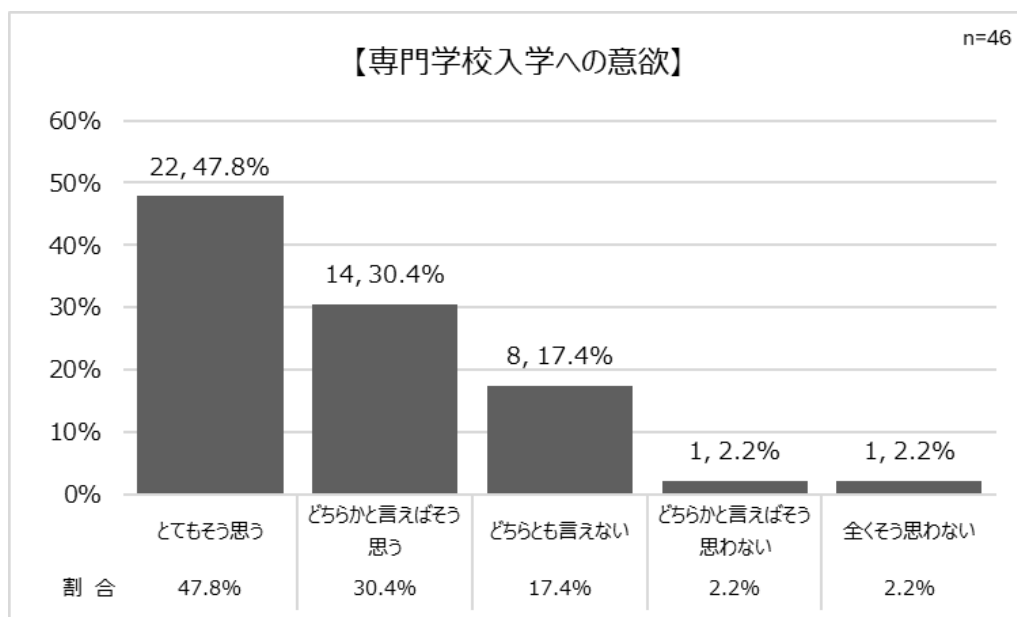


⑥この動画を見て、専門学校入学への意欲（やる気）について変化はありましたか？

n=46

項目	回答数	割合
とてもそう思う	22	47.8%
どちらかと言えばそう思う	14	30.4%
どちらとも言えない	8	17.4%
どちらかと言えばそう思わない	1	2.2%
全くそう思わない	1	2.2%
	46	100%

動画を見て、専門学校入学への意欲（やる気）の変化の回答は78.2%と比較的高水準であった。

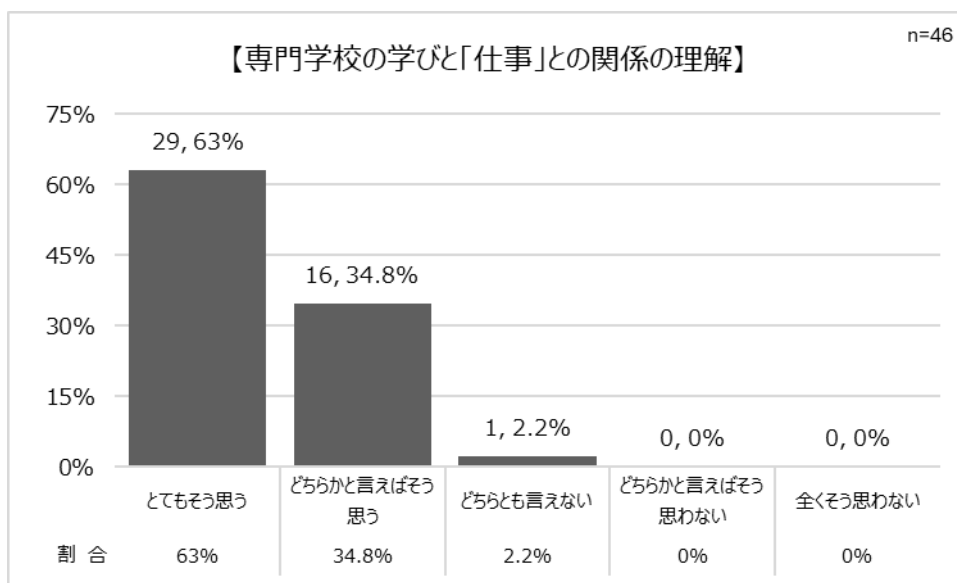


⑧この動画を見て、専門学校での学びが「仕事」にどのように役立つかの理解は深まりましたか？

n=46

項目	回答数	割合
とてもそう思う	29	63%
どちらかと言えばそう思う	16	34.8%
どちらとも言えない	1	2.2%
どちらかと言えばそう思わない	0	0%
全くそう思わない	0	0%
	46	100%

動画を見て、専門学校での学びが「仕事」にどのように役立つかの理解の深まりの回答は97.8%と高水準であった。

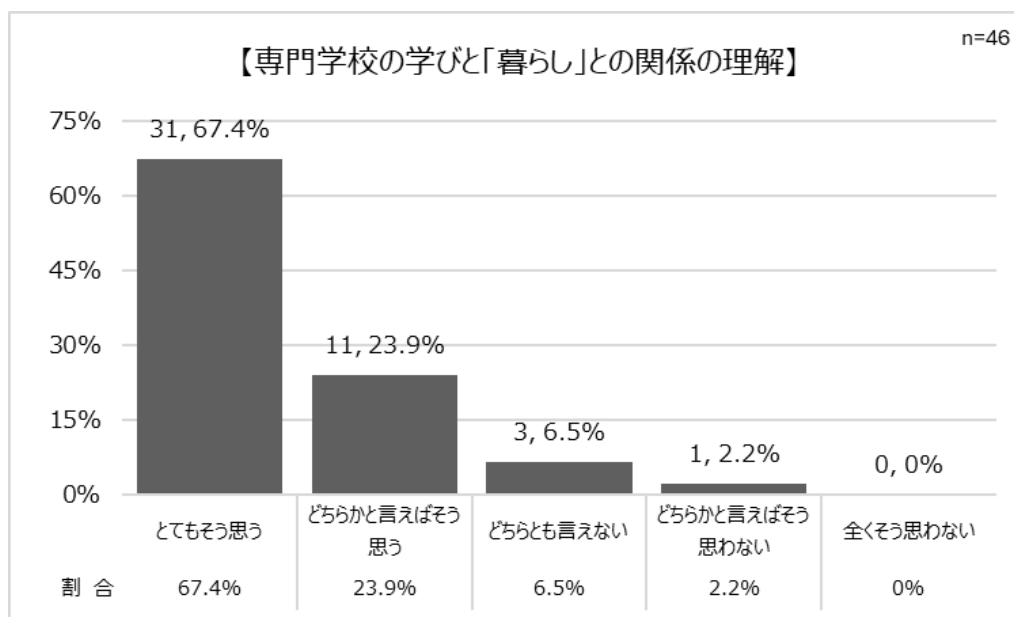


⑨この動画を見て、専門学校での学びが「暮らし」にどのように役立つかの理解は深まりましたか？

n=46

項目	回答数	割合
とてもそう思う	31	67.4%
どちらかと言えばそう思う	11	23.9%
どちらとも言えない	3	6.5%
どちらかと言えばそう思わない	1	2.2%
全くそう思わない	0	0%
	46	100%

動画を見て、専門学校での学びが「暮らし」にどのように役立つかの理解の深まりの回答は91.3%と高水準であった。

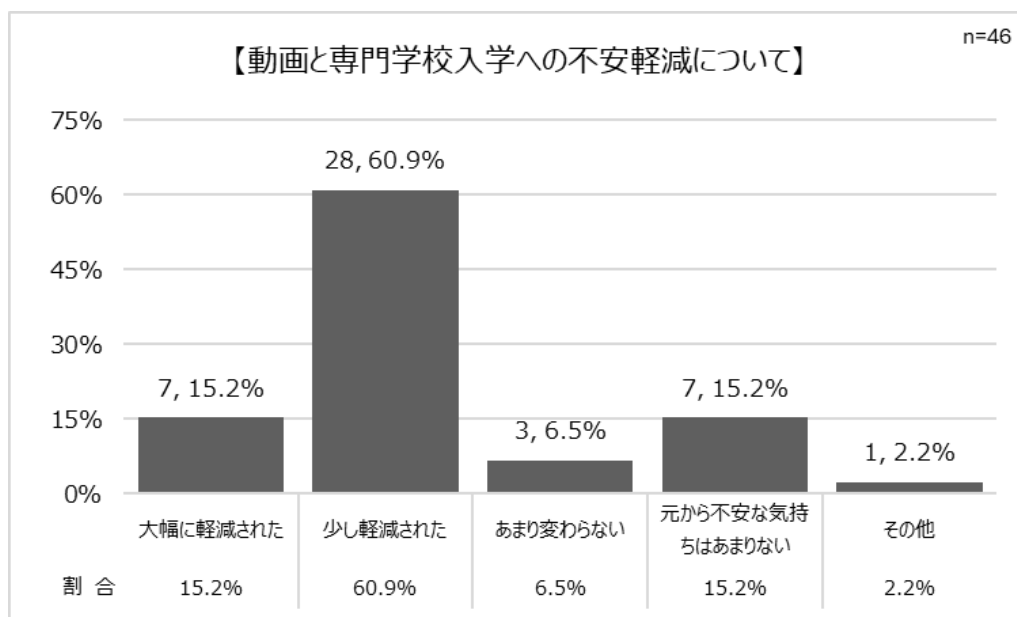


⑩この動画を見て、専門学校で学ぶことへの不安な気持ちは軽減されましたか？

n=46

項目	回答数	割合
大幅に軽減された	7	15.2%
少し軽減された	28	60.9%
あまり変わらない	3	6.5%
元から不安な気持ちはあまりない	7	15.2%
その他	1	2.2%
	46	100%

動画を見て、専門学校で学ぶことへの不安な気持ちの軽減についての回答は76.1%と比較的高水準であった。



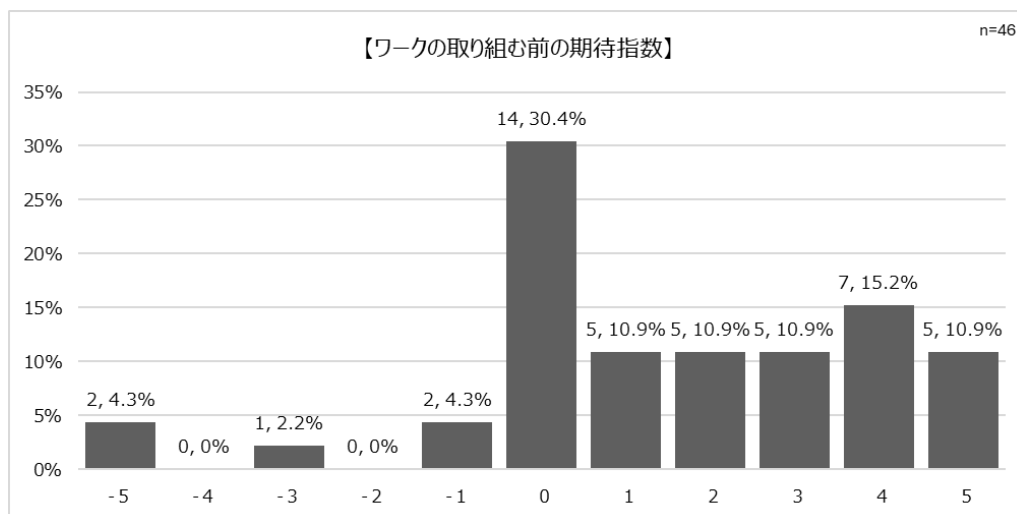
ここからは、ワークを通して感じたことの質問です。

- ⑪【ワークに取り組む前】の期待指数を教えてください。＊自分の気持ち（期待指数）を、「-5から+5」の11段階から選んでください。-5が最も低く、+5が最も高いとします。

n=46

期待指数	回答数	割合
-5	2	4.3%
-4	0	0%
-3	1	2.2%
-2	0	0%
-1	2	4.3%
0	14	30.4%
1	5	10.9%
2	5	10.9%
3	5	10.9%
4	7	15.2%
5	5	10.9%
合計	46	100%

動画と違い、伝え方にも課題はあるものの、実際に自らワークに取り組むことに不安要素が多いことが表れていることがわかる。



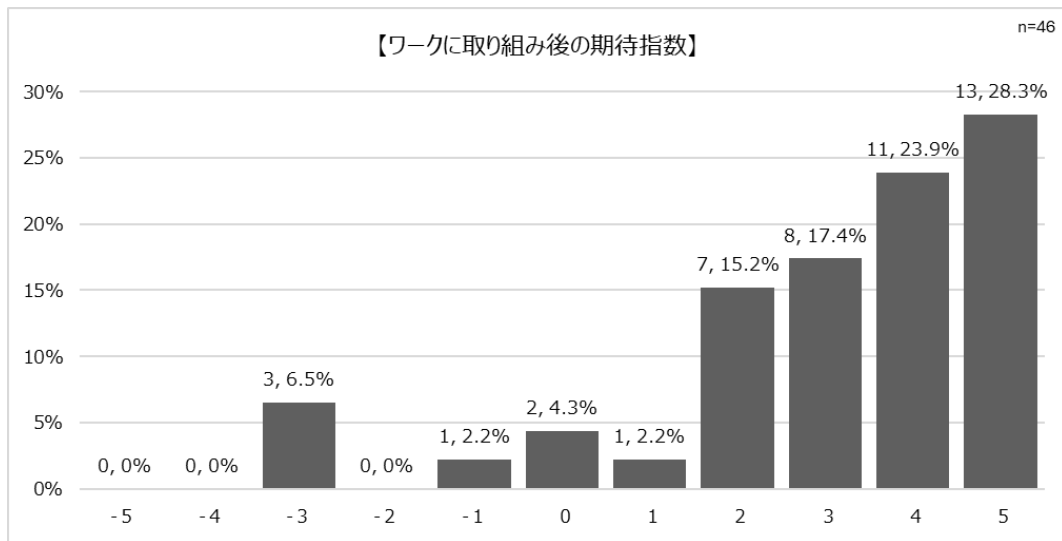
- ⑬ 【ワークに取り組んだ後】の期待指数を教えてください。*自分の気持ち（期待指数）を、「-5から+5」の11段階から選んでください。-5が最も低く、+5が最も高いとします。

n=46

期待指数	回答数	割合
-5	0	0%
-4	0	0%
-3	3	6.5%
-2	0	0%
-1	1	2.2%
0	2	4.3%
1	1	2.2%
2	7	15.2%
3	8	17.4%
4	11	23.9%
5	13	28.3%

46 100%

ワークに取り組んだ後では、全体的に期待指数は上がっているものの、期待指数3以上を見ると、69.6%と動画を見た後と比較すると低い結果となっている。不安要素が脱ぎ切れていないことが表れている。



《MEMO》

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

第3章

本年度のまとめと次年度へ向けて

第3章 本年度のまとめと次年度へ向けて

1. 本年度の取り組み結果

(1) 企業・高等学校ヒアリング結果

ヒアリングでは、本事業の取り組みに関して企業と高等学校へ意見を求めた。

【実施期間】

- ・令和6年10月15日～令和7年2月12日

【実施先担当部署等】

- ・企業：人事関係・採用担当者等
- ・高等学校：校長、進路指導担当、学科主任クラス等

【手法】

- ・直接訪問、オンライン等

【企業ヒアリング項目】

①採用状況、②5年一貫教育プログラムについての感想：6分野を体験できる授業形態についてなど、③分野の魅力を伝える動機づけとしてのメタバースなど最新技術紹介を含めた取り組み、④授業内容について（高校1年生：ワクワク感、分野に興味・関心を抱かせることを目的に体験授業を中心、高校2年生：職業の具体的なイメージや期待感を醸成できる内容等）、⑤教育プログラムに取り入れてほしい内容（高校1年生、2年生、3年生）、⑥貴社に入社したいと考えている学生に、これだけは身につけてほしいこと（コミュニケーション等ではなく、技術・スキル面について）、⑦これからの専門学校教育に求めること（主に技術・スキル面について）

【高等学校ヒアリング項目】

①進学、進路の状況や課題など、②5年一貫教育プログラムについての感想：6分野を体験できる授業形態についてなど、③分野の魅力を伝える動機づけとしてのメタバースなどの技術紹介を含めた取り組みについてご意見をお願いします、④実施しました授業内容についてご意見をお願いします（高校1年生：ワクワク感、分野に興味・関心を抱かせることを目的に体験授業を中心、高校2年生：職業の具体的なイメージや期待感を醸成できる内容等）、⑤貴校で同様の高専連携授業を実施す

となった場合、課題（ハードル）となる点を教えてください、⑥教育プログラムに取り入れてほしい内容（高校1年生、高校2年生、高校3年生）、⑦貴校に通う生徒に、これだけは身につけてほしいこと（コミュニケーション等ではなく、技術・スキル面について）、⑧専門学校教育に求めること（技術・スキル面についてなど）

【実施件数】

分 野	連絡件数	実施件数	実施割合 (%)
(企業) 自動車整備	12	1件	8.3%
(企業) 建築	16	2件	12.5%
(企業) インテリア	11	1件	9.1%
(企業) 情報 (IT・IoT)	20	3件	15%
(企業) IT/DX (AI系)	20	2件	10%
(企業) 環境	12	1件	8.3%
(高等学校) 工業/普通科	30	7件	23.3%
合計	121	17件	14%

【各分野の評価】

各分野の企業と高等学校の評価は以下の通りであった。

■ (企業) 自動車整備分野

高校生のときの就職意識作りは重要で、1年生からの取り組みは効果的で、メタバースといった最新技術を体験することは、興味を持たせる手法は有効との評価であった。

また、2年生では具体的な体験を通じて未来像と現実を結びつけ、3年生は専門性を身につける機会を段階的に設けている作り方には好感を得られている。

自動車整備士資格や電気の基礎知識を身につけることは成長に繋がる大切なものであると同時に、様々な体験を積むことも重要であることから専門学校の取

り組みは学生にとって大きな意義があるとの評価が得られた回答傾向であった。

■（企業）建築分野

これまで専門学校卒を採用していなかった企業が本事業を知ることで採用をはじめた変化が見られたことは、企業サイドにとっても考え方を考えるきっかけになる取り組みと思われる。また、最新技術紹介でメタバースを使った取り組みは参加者の興味を引く効果があるとの評価であった。

高校2年生向けの橋づくりの授業では、限られた条件下でモノづくりの楽しさを体験でき、法律や安全性の重要性を学ぶ内容が有益で、高校3年生には、社会人となった専門学校の卒業生からのインタビュー動画を通じて、法律の大切さや必要な知識を楽しく伝える授業が魅力的になっており、よりリアルな学びができる取り組みであるという評価が得られた回答傾向であった。

■（企業）インテリア分野

メタバース空間は、高校生1年生にとってはすんなり入れるとともに、興味関心を与えるきっかけづくりに有意義で、動画も面白く、楽しさを与える作り方であると評価を得られている。高校2年生は、自身で楽しい空間を創造することで、お客様に喜ばれる内容や商売の考え方を学び、実際に見る・触れることの大切さを理解するといった内容となっていることが評価されている。このように、本事業の取り組みは高評価であるが、学生に資格取得させることが大前提という回答傾向は否めない。

■（企業）情報（IT/IoT）分野

本事業で取り組んでいることは、多様な学びの機会を提供していることの評価ではある。ただ、国際的な視野を広げる開発の要望の声もある。また、学生たちは小さい頃からインプットすることばかりで、アウトプットの場が少ないことから、アウトプットの場を工夫して人格形成や役割認識、課題要素というところにつなげてほしいとの声もあった。

基礎からステップを踏んで段階的に上がっていく作りになっていることに評価を得られている。正しい情報かどうかを調べる力や考えることをやめない人材育成が求められている。

■（企業）IT/DX（データサイエンス）分野

本事業の取り組み内容は全般的に方向性含め評価を得られている。評価を得ら

れているからこそ色々な分野の体験ができるコンテンツを増やし、充実化を図ることが求められている。企業が求める人材では、専門用語や業界用語、業界の知識といった基礎知識と基礎力をしっかり身に付けることが求められている。

■（企業）環境分野

色々な分野の体験ができるといった本事業の取り組みは評価が得られている。

■（高等学校）工業/普通科

興味関心の向上として、1年生から外部での受講は、進路選択の幅を広げる良い機会であり、他分野の知識を深めることができる。実践的な学びとしても、リアルな体験（例：バイク、車の試乗）を通じて進路の具体像をイメージできる、専門的な授業による実社会とのつながりを強化できる内容となっている。

また、学年別の取り組みについても、1年生では、多様な分野の紹介、具体的なキャリア体験。2年生では、業界理解を深める見学や体験。3年生ではOBインタビュー動画教材といった取り組みについても評価が得られている。

一方で、協力することに関しては、来校参加の生徒確約が難しく、個別対応が求められること、授業日程や教員の手配が課題でそれが学校の負担となる。

専門学校に求めることについては、専門的なスキルを身に付ける。専門学校に進学した後の将来像の提示、専門学校を知らない学生や親、進路指導の先生がいるのでそれをどのように納得させることができるのかといった回答結果であった。

（2）推し授業教材開発

① 6分野のコマシラバスを作成

② 6分野のコマシラバスに沿って卒業生インタビュー動画教材を制作

6分野毎に、専門学校卒業生が社会に出て本当に役に立った授業を専門学校入学予定者の高校3年生（専門学校0年生と位置づけ）に向けた推し授業動画制作。

年齢の近い専門学校卒業生が伝えることにより、授業と会社での実務に直結していることを知り、入学前の不安要素を和らげる効果と学習意欲向上効果を狙う。

（3）実証授業の実施

自動車分野、建築分野、インテリア分野、情報（IT/IoT）分野、IT/DX（データサイエンス）分野、環境分野の専門学校卒業生の推し授業の動画を視聴し、

それに伴ったテーマを設定し、実証実験授業を実施した。課題を提出することでクリアとした。

【実施分野と受講人数】

分 野	受講人数
自動車整備	22
建築	5
インテリア	8
情報（IT/IoT）	4
IT/DX（データサイエンス）	6
環境	1
合計	46

【印象に残ったコメントからの考察（受講者アンケート結果より）】

■自動車整備分野

興味関心がある受講者が多かったが、その中でも動画で卒業生の話が聞けたことは効果的という結果になったと思われる。また、自動車の知識がなくても活躍できる、進路についても知ることができたといった将来的なこと、ワークでモーターを作って授業の楽しさを知る機会となった授業であったと考えられる

■建築分野

興味関心がある受講者が多かったが、その中でも動画で卒業生の話が聞けたことは効果的という結果になったと思われる。法律のこと、入学後学習を通し、何を身に付けていけばいいかといったことを専門学校入学前に知ることができる機会があったことは、入学後非常に大きなアドバンテージになると思われる。専門学校で学ぶことの意義が伝えられた動画で、それを活かしたワークであったと考えられる。

■インテリア分野

卒業生の動画コメントでつまらない授業が社会に出ると役に立つということを知ることができた。また、自らの目で確かめる大切さ、インテリアショップに行くことでインテリアの魅力を考えることができた、椅子だけでも様々なデザインがありその面白さを知った。インテリア分野に進む受講生にとって専門学校入学前で学ぶ機会を体験できたことは有意義であると考えられる。より一層具体的なイ

メッセージを高校生に伝えるため、授業を一つに絞り、それが社会に出る時に役に立つといった卒業生と講師の動画効果はアンケート結果からも有意義であると考える。

■情報（IT/IoT）分野

受講生が専門学校入学後のイメージができたこと、IoTについて色々なことが分かったこと、生活を便利にするIoT技術といったことが、動画やワークから知る機会となった。専門学校の学びが社会に出ても役立つことを一つの授業に絞って卒業生と講師が発信し、それに関連したワークをすることで、専門学校を知る効果は上がると考えられる。

■IT/DX（データサイエンス分野）

「なるべくリアルタイムで情報を取り入れて蓄積していくことが大切」「授業で学んだことをただ覚えるだけではなく、それを実践し仕事に活かせるような授業があること」「推しの分析というものをやったことがなかったのでとても面白かった」といった専門学校の授業は様々な形があるといった専門学校入学後のイメージができたことの影響が強かったようである。

■環境分野

興味がある分野にさらに探求心を与える様々なことに目を向けるきっかけ作りの機会となる実証授業であったと思える。動画は、専門学校の授業は仕事とのつながりがあることを認識する機会を与える効果として考えられる。

2. 本年度のまとめ

本年度の事業計画に掲げていた取り組みは達成できた。その中でも専門学校卒業生からのメッセージの入った推し授業動画はアンケート結果からも好評で、入学前の高校3年生（専門学校0年生）にとっては、学ぶことへの疑問が軽減されて学習意欲が高まったと思われる。各分野のワークにも意欲的に学生自ら意欲的に取り組んでいた。

この成功の要因として、①学校生活や学科のことといった大きな枠を説明するのではなく、実際に学生自身に関わること、授業と仕事との結びつき、授業の中でも特に役に立つ授業というテーマに絞り込んでプログラム開発をおこなったこと、②高校生にとって歳の近い専門学校卒業生からメッセージをもらい、さらにその解説

を講師がすることで授業の狙いと社会に出てのアドバンテージの学びがあることを伝えたこと、などが専門学校入学前の高校3年生（専門学校0年生）に響いたからだと考えられる。

3. 次年度の取り組み

次年度（令和7年度）は下記の取り組みを行う計画である。

① 専門学校生が高校1～2年生に教える授業開発

…専門学校生が授業のテーマと教え方を考え、高校1～2年生に教える

② 動画教材開発

…テーマのポイントを動画にして補助教材として開発。例えば、説明や解説をする際に、言葉では上手く伝えることができない場合などに使用するもの 等

③ テキスト開発

…専門学校生が高校1～2年生に教えるテキスト教材の開発 等

④ 企業・高等学校へのヒアリング調査

…令和4年度から6年度の取り組みに関する内容と、次年度の専門学校生が高校生に教える教育プログラムに対してヒアリングを行う

⑤ PR動画の制作

…事業概要を含め、次年度開発・実証した内容を含んだPR動画の制作

《MEMO》

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

第4章

参考資料 会議録

＜ 会 議 録 ＞

事業名	令和6年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」専門学校と高等学校の有機的連携プログラムの開発・実証 工業系分野における高専連携の5年一貫教育プログラム開発・実証事業
会議名	第1回企画推進委員会会議①
開催日時	令和6年6月26日（水） 15:00～17:00
場 所	ホスト：専門学校東京工科自動車大学校
出席者	<p>【オンライン会議】</p> <p>委員： 佐藤康夫、古藤一弘、釦持利治、小林健人、安部泰起、浪川 舞、岡村慎一（新幹線内視聴参加）、白井雅哲、井坂昭司、高山寿一郎、金井伸也、今野祐二、藤原瑞卿（計13名）</p> <p>事務局： 影山裕介（事務局責任者）、二ノ宮健志、都留菜々子（計3名） （合計16名）</p>
【 議 事 内 容 】	
<p>【 目 的 】</p> <p>本事業の振り返りと令和6年度取り組み内容の共通認識を行うことを目的とした会議を開催した。</p>	
<p>【 次 第 】</p> <p>1_ 15:00 開 会</p> <p>2_ 15:05 委員自己紹介</p> <p>3_ 15:15 議 事</p> <p>(1) 事業趣旨・目的、連携機関、実施体制と各機関の役割</p> <p>(2) 当該教育プログラムが必要な背景</p> <p>(3) 開発する高・専一貫の教育プログラムの概要</p> <p>(4) 令和5年度企業ヒアリング結果</p> <p>(5) 令和5年度成果物：イメージ動画（6職業分野）</p> <p>(6) 令和5年度成果物：メタバース空間</p> <p>(7) 令和5年度実証実験</p> <p>(8) 令和6年度取り組み</p> <p>(9) 令和6年度スケジュール（案）</p> <p>4_ 16:50 その他（連絡事項等）</p> <p>5_ 17:00 閉 会</p> <p>＜配布資料＞</p>	

【資料1】議事次第

【資料2】事業概要（PPTX）

【内 容】

以下、次第に沿って会議が進められた

1. 開 会

【影山事務局責任者】小山学園の影山です。本年度4年目となります。皆さま、お忙しい中会議ご出席いただきまして誠にありがとうございます。本会議では、振り返りと本年度の取り組みにつきまして、皆さまと共有していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

【佐藤事業責任者】東京工科大学の校長をしています佐藤と申します。日頃より、皆さまには文科省委託事業において、多大なるご協力をいただき、大変感謝しております。また、今年度もよろしくお願いいたします。6月の初めに、参議院の本会議において、専門学校改正案が成立しました。専門学校の位置づけが変わります。単位制や専攻科についての考え方、大学同等の第三者評価を受けていく考え方です。いずれも高等教育委機関として大学と同等な形にしていくという考え方で作られた法律です。より社会的な位置づけが高まることとなります。地域の方々により応えていく教育機関になります。この高専連携事業の取り組みは社会的な位置づけとして重要な形であり、その立場になったこととなります。ますますより質の高い事業として取り組んでいきたいと考えていますので、引き続き、よろしくお願いいたします。

【影山事務局責任者】本事業は高校と専門学校を連携した一貫教育プログラムの企画開発です。高校1年生から専門学校2年生までの5年間の一貫した教育プログラム開発を行っていく事業です。世の中に必要とされている技術者を育成していく一つのパッケージやコンテンツを開発していく、若者には技術職を目指す動機づけや目的意識、知識・スキルを身に付けるといったところを高校、企業、専門学校で連携しながら、より良いものを作り上げていく事業です。6年事業という長期間で今年がその折り返しとなります。我々自身も年々知見を積み上げながら進めていきたいと考えています。

各WGございますが、全体の進捗状況報告につきましては、この企画推進委員会会議で行っていきたくと考えています。今年度、専門学校、高等学校、行政団体、各企業の皆さまにつきましては、6分野で取り組んでいますので、知見をいただきながら進めていきますが、基本的には、昨年度以前のものを引き続いていくこととなりますが、外部の委員の方々にはアドバイスをいただきながら進めていきたいと考えていますので、よろしくお願いいたします。等

2. 委員自己紹介

【影山事務局責任者】改めまして影山です。よろしくお願いいたします。

【都留事務局】事務局の都留です。よろしくお願いいたします。

【二ノ宮事務局】 よろしくお願ひいたします。

【影山事務局責任者】 事務局には本日欠席ですが、鈴木というものが居ます。よろしくお願ひいたします。

【白井委員】 東京テクニカルカレッジ校長の白井です。継続で参加されている方も多いと思いますが、ちょうど折り返しということで後半3年間ございます。本年度もよろしくお願ひいたします。

【井坂委員】 東京テクニカルカレッジの井坂です。今年もよろしくお願ひいたします。情報処理という分野で参画させていただいています。昨年も実際に授業を行ったりしました。今年度も昨年度のことを生かしながらいっていきたくと思います。よろしくお願ひいたします。

【今野委員】 東京テクニカルカレッジ環境テクノロジー科の今野です。昨年は水をテーマとして、水質調査や水生昆虫による水の指標の内容で体験授業を行いました。環境は広いため、今話題の環境対策に国としての取り組みなどを高校生に伝えていければと考えています。

例えば、生物多様性ということについても知られているようで知られていない。国立公園や国定公園の保護地域が2030年度までにわが国では30%にするという民間企業や大学での取り組みが行われている。このような話も取り入れていくことができればと考えています。

【金井委員】 データサイエンス科の金井です。2年間ゲーム形式やデータサイエンス職業そのものを知るということでプログラムを開発してきました。今年度も皆さまのお知恵を借りながら頑張っていきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

【高山委員】 皆さまこんにちは、インテリア科で科長を務めています高山です。今年度もよろしくお願ひいたします。高校1年生の授業ではパソコンを使って個人で作業をさせる内容で行いました。生徒一人ひとりどのようなインテリアが好きなのかということで一枚のボードを作りました。高校2年生の授業では仕事は一人ではできないということで共同作業ということで、学校の教室をリノベーションするというテーマで、付箋にスケッチや用語・単語を書きながら大きな模造紙に付箋を貼っていき、教室をイメージすることを行いました。生徒は楽しくやっていたという感じがありました。今年もインテリアの楽しさを生徒に伝えていければと思ひています。よろしくお願ひいたします。

【藤原委員】 今年度4月からIoT・AI科科長の楊と申します。昨年は高専授業のはじめての経験をさせていただきました。生徒からの反応は非常良かったと思ひながら授業をしました。私自身も検討力が足りない部分があると感じました。足りない部分が多くありますので、ご協力をいただきながら取組んでいければと思ひています。よろしくお願ひいたします。

【釧持委員】 六郷工科高等学校校長の釧持と申します。よろしくお願ひいたします。

【古藤委員】 蔵前工科高等学校校長の古藤です。この事業でははじめての参加となり、期待していますし、楽しみにしています。よろしくお願ひいたします。

【影山事務局責任者】 今年度は高校3年生向け、言い方を変えると専門学校0年生向けに何か役に立つものを皆さまのご協力をいただきながら開発できればと考えています。高校3年生

が工業系の専門学校や大学に進学する場合の準備や構え、モチベーションといったものについて夏休み明けぐらいの時期では工業高校生はどのような感じでしょうか。

【釧持委員】就職関係の生徒は4月から求人が多く来ますので、会社選び、履歴書書き、面接練習といった採用に向けた就職モードになります。進学の場合は同じような時期に進学先を考えていく時期に入ります。2年生の時に各学校のオープンキャンパスなどに行っている生徒はこの時期にはほぼ行先は決まっています、10月頃に最終決定をする。といったようになっていきます。

【古藤委員】釧持委員と同じような流れです。就職希望の生徒たちは7月1日から求人が始まるので新しい求人票を見ながらそれに向けて学校でも夏休みに会社見学に行くなどの事前指導などのサポートをする。進学については、2年生の時期に可能な限りオープンキャンパス等に行くように伝えている。3年生については生徒自身がある程度絞り込んでいる。入学した後のところで躓かないようなものが必要と思う。その準備について教えてもらいたいと思います。

【影山事務局責任者】釧持委員と古藤委員のお話の通り、専門学校への進路の層は夏ぐらいまでには決まってくる。専門学校に入ってくる際に、いかにスムーズには入れるかといった視点も今年度盛り込んでいければと考えています。

【小林委員】NPOフュージョン長池の小林と申します。フィールドワークの指導等や多摩ニュータウンの都市公園管理をしています。公園管理をしながら自然環境の保全やまちづくりなどを行っています。最近、学生さん達が公園を活用した実習をしながら自然環境の守り方を体験して学ぶ機会が増えてきています。環境人材育成に公園を活用としたことが役に立ってきています。現場の方からのアプローチの協力ができればと思っています。今後とも、よろしくお願いします。

【浪川委員】合同会社Peer Questの浪川と申します。企業のDX人材やWebのソフトウェア開発などを行っています。最近DX人材の採用支援などを行っています。高校などの学校関係には詳しくはないのですが、DXやIT周りで何か知見を共有できることがあればと思います。よろしくお願いいたします。

【安部委員】東京商工会議所中野支部の安部と申します。4月1日から中野支部に着任しました。よろしくお願いいたします。

【影山事務局責任者】YICグループの岡村委員には、現在、新幹線の中ですが、接続して入っていただいています。発言は控えていただいて構いません。よろしくお願いいたします。皆さまから折々知見をいただければと思います。よろしくお願いいたします。昨年度までの振り返りと、今年度はどのような力点で進めていくのか事務局より説明していきます。等

3. 議 事

以下のように、これまでの振り返りと令和6年度の取り組みに関して事務局からの説明があった（配布資料：【資料2】事業概要（PPTX）参照）。

【二ノ宮事務局】改めましてよろしくお願いいたします。簡単ですが、昨年度実施したプロ

プログラムの振り返りから説明させていただきます。事業の背景からになります。こちらは自動車分野になりますが、社会の変化や技術者の変化といったところは各分野共通していると思います。若者の進路意識といったところを捉え、赤枠の部分の生徒・学生にとってキャリアの選択肢を広げ、意欲と技術力の向上を目指せる企画、業界にとっては技術者育成に寄与できる、高校にとっては探求学習の選択肢であったり、進路指導の材料として提供できるようなものを企画していくというもつで各分野協議をさせていただいています。

その上で、各WG個人単位で1～3回ほど会議を重ねて最終的には11月以降の実証実験につなげていたが、テーマや課題観において各分野の視点から協議をさせていただいていました。協議したものは、記載させていただいていますが、共通するものとして、赤く示しています。どの視点から見ても共通しているものは、体験を通して企業の熱を感じてほしいことであったり、本物に触れていくというキーワードが出てきたり、高校にとっては、先端技術に触れる機会・体験の機会が足りていないため、そのような機会を望む声がありました。仕事の現場、本物を知る機会がほしいというところ。我々専門学校においては、体験・体感を与える機会の場がいただけるのであればというところではございます。

このような共通ワードのもとでどのような事業展開をしていくか、各WGを通じて取組んでいます。昨年度のスライドになりますが、3年目となる取り組みは高校2年生に対してプログラム開発と実証を実施しています。その前の高校1年生向けでは、右も左も分からないため、その分野に対してワクワクしてもらおうと比較的バックグラウンドもない生徒たちにも体験を施していました。

高校2年生向けではリアルをテーマとして体験プログラムの開発を各WGで進めた形です。WGを進めていく中で、高校2年生はどのような立場かというところから知りつつ、中だるみするのではないか、夏から秋には進路の動機づけが必要になるのではという協議の中でこの赤枠の中で、二極化はあるものの、2年生後半から3年生の初めで進路決定をする世代であるところ、一方では夏から秋の時期は部活であったり、学校行事も忙しい時期であったため、実施の時期は冬の時期が適切であるということになりました。

最後はリアル・具体性がある内容が必要であるということで、企業連携を含めてWGで進めていました。実際に、意識づけ空間としてメタバース空間を作って各分野の動画を見もらったり、内容をみてもらったりして各生徒に授業する内容を決めてもらっています。6分野で実施していますが、その内容は資料記載の通りです。

自動車分野ではロビンエンジンの組み立て、建築分野では橋の強度実験、インテリア分野では教室のリノベーション、プログラミングにおいては、教室の温度の可視化、データサイエンスでは市場価値を可視化する、環境分野においては、水環境と水生生物の関係という各高校の協力をいただきながら実証プログラムを実施しています。

実施先は堀越高等学校、多摩工科高等学校、蔵前工科高等学校、練馬工科高等学校の4校で資料記載の通りです。11月から1月末までの期間で各高校に選択してはもらいましたが、6分野多岐にわたった内容で実施しました。実際の実証授業の風景になりますが、少しずつご覧いただければと思います。

< 会 議 録 >

実証授業の見学をしましたが、どの生徒も積極的に取り組んでいました。チームで組んだり、個人でワークしたりするといったことがありましたが、結構、盛り上がっていたということが率直な感想です。

全ての実証授業でアンケートを取っていますが、それをまとめたものがこちらになります。メタバース空間で映像を見る前と受講する前を最初にアンケートを取り、メタバース空間で動画を見た感想、その後実証授業を受けた感想という形で、それぞれの分野に関する興味・関心度具合を点数でつけてもらっています。

記載の通り、悪くはならず、全員得点が上がっている、つまり興味・関心度が上がっているという結果になっています。アンケート結果についてはコメントでもいただいています。が、抜粋してそれぞれ記載しています。

例えば、インテリア分野においては、将来の選択肢としてインテリアコーディネーターが浮かんた。建築分野では、講師の先生のすごさが分かった。環境分野では、ただ単に虫といっても区別すること、分からないことが分かった。知らないことを知ることができた。データサイエンスについても、授業前はただ単に分析と思っていたが、結果を出すまでの作業があることをつかめた。プログラミングについてもアプリを使って機械調整をするといったいろんな技術を体験するおもしろい。自動車分野では、機械に触れることが少ないところで、エンジンに触れて自動車整備士のイメージがつかめたなど基本的には前向きなコメントが多かったと思います。

一つ理想的な回答をしてもらっている生徒がいたので赤字にしていますが、「専門学校の授業に対して何をするのか分からなかったが、この授業を受けて選択肢として考える材料になりました」といったような専門学校視点や社会的視点、高校視点といった三方良しというコメントを書いてくれる生徒もいました。知らなかったことが分かった、選択肢が広がったといった前向きなコメントが多かったです。

アンケート数字のみになりますが、記載しています。動画視聴前の期待指数は、工業科高校の方がわずかに高くなっています。工業系の高校でプレゼンする機会が多かった分、普通科高校より知見があったと思われれます。動画を視聴すると、普通科高校の方が理解度は上がりました。授業前後の点数を比較すると普通科高校より工業科高校の伸びが多かった傾向がありました。普通科高校ではなかなか触れることがない分野もあったので、自分の中で変化が起きた、視野が広がったというデータとなっています。

高校1年生からはじまった実証分野であります。高校1年生では冒頭でも申しましたように、分野への興味・関心を広げるワクワクといったところになり、昨年の高校2年生には実際に、具体的に意識づけをしておくリアルというテーマで実証を行っています。

本年度は、高校3年生イコール専門学校0年生と位置付けたときに、専門学校あるいは専門分野に進む子たちに対し、どのような構えをしてもらおうかテーマを決めつつ、どのような実証を行うのか、プログラム開発を行うのかといったところをWGの皆さんで前向きに協議を重ねて考えていきたいと思っておりますのでよろしくお願ひします。等

< 意見・感想 >

【影山事務局責任者】昨年度の振り返りの説明でしたが、ご意見を伺いたいと思います。

【井坂委員】コンピュータ分野は難しい部分がある。カリキュラムをどのような内容にするのかという問題と高校に行ったときにその高校で実施できるか。という高校の環境によって変わるため、そこが大きなテーマになる。例えば、ネットワークがつながりづらい、ネットワークを使ってやりたいことが時間の中でやりきれなかったということが起きた。これらを踏まえて高校3年生のカリキュラムは考えていかなければならないと感じた。

【金井委員】高校2年生向け授業を行ったが、興味の度合いが受講者によってかなり違っていたり、知識レベルも違っていたという印象があった。同じ学校内でもそうであるが、学校ごとに比べてもかなりあったと感じた。

高校2年生で初めて受講する生徒には、データサイエンスとは何なのか、というところから始めるが、高校1年生・2年生と続けて受講する流れになるのであれば、そこは解消できると思う。職業そのものが世の中の的に認知度が低いこともあり、特に高校生にとってはなじみのない職業になるため、そこで魅力を感じてもらうにはどのようにするのか答えを出せずにいる。引き続き、高校生の意見やアンケートデータを分析しながら答えを見つけていきたいと思う。

【高山委員】高校2年生にグループを組ませて授業を行ったが、グループによってグループ内で個人が浮くなど、コミュニケーションの活発に差があった。盛り上がっているグループは中身に関しても面白い提案が出てきたと感じた。

ただ、教室のリノベーションというテーマで実施したが、自動販売機を入れる、食事が簡単に取れるといったところに向かうところが見受けられていたので、もう少しインテリア寄りにできるように、最初の説明の段階で誘導できるようにする必要があったという反省点はある。受講アンケートなどを再度見ながら修正することはできると思う。

【今野委員】環境は水質を測定したりしたが、簡易的な測定機を持っていたり、水生昆虫を拡大して観察してみてもどのように調べていくのかといったところに、生徒も非常に興味を持って行っていた。もともと興味がある生徒が聞いてくれていたというように感じた。

もう一步踏み込んでみると問題点としては、実験などもワンランク上がると安全面や場所の問題がある。外、野外で行うとなると生物のことを知りながら地域の住民とコミュニティーを持ちながら公園の利用を実際に行っていくといった現場の雰囲気を楽しむとなるとケガといった安全面になる。教室でもやれることはあるが、限られてくる。

もう少し興味があるところや楽しいところは外や深い実験を行うところにあると思うので、そこまで踏み込んでいくのかを考えていく必要がある。

【小林委員】環境を感じるのには外が一番と思う。高校生レベルであれば、とっつきやすさのある生き物や指標になるものがはっきりしているということになると思う。

ただ、やりようはあると思う。出前授業的なものや必ずしも遠くに行く必要はなく、どこでもできるというやり方はあると思う。キャンパスの近くの雑草からでも環境の目を養う練習になると実感しているところもあるので、そのあたりは工夫次第と思う。

【藤原委員】 I o T授業ではネットワークが命でもあるので、その部分が学校によって違っていた。セキュリティーの面があり、ネットワークを結ぶが、学校側の環境構築が大量のデータダウンロードやライブラリーをダウンロードといったところが上手くいかないケースがあった。

昨年度練馬工科高校では、ネットワークを使わずに環境センサを使って温度と湿度の可視化を行った。PCでもセキュリティー面があり、外部の人間がダウンロードやインストールをすると管理者の権限に関わってくる。その対処に悩まされている。今考えられる対策としては、クラウドサービスなどを使ってデバイスを動かすことを考えている。いずれにしても I o T技術を使ってモノを動かすことができれば生徒は興味を持つと思う。

もし、デバイスが使えないとなるとセンサやモータ、LETといったものが使えないとなると高校生はイメージできないと思う。

【影山事務局責任者】 総論として生徒の反応は非常に良いが、課題、もう少しこのようにするとさらに良くなるといった要素もあると思うので、積み上げていきたいと思います。

今年度、どのような力点、キーワードで進めていくのかを説明します。先ほど事務局の説明でもありましたが、当初の事業計画ではございますが、ポイントをお伝えしますと、目的は技術職に憧れて目指すことへの動機づけのコンテンツを作り、高校と専門学校、企業とで連携をしながら、よりモチベーションと技術を持った技術者を増やしていく、広げていくといった大きな目的です。

それにあたって、2年前にキーワードは「ワクワク」で高校1年生へのプログラム開発と実証を行い、昨年度キーワードは「リアル」で高校2年生向けへの教育プログラム開発と実証を行った。今年度は、高校3年生向けにプログラム開発と実証になります。

本事業のような取り組みは逆算的なもので作るのが一般的ではあるが、最終的にはどのような人材が必要ということから、専門学校2年生の仕上がり、1年生の仕上がり、高校3年生、2年生、1年生といった逆算的に作り上げていくのが多いと思われませんが、本事業は6年事業ということで、おそらくスタート時点の6年前に掲げていた企業ニーズや人材ニーズは変わっていると思われれます。このようなニーズの変化にも対応すべく、本事業は積み上げ形式で進めていくということが当初の計画です。

今年度は同様な考え方で進めます。高校3年生を対象に進めます。ただし、当初の計画から本年度から変えることがあります。先ほどの事務局の説明の中で、高校3年生というよりは専門学校0年生というように少しコンセプトを変えていきます。

具体的なところは各WG会議等で協議していきたいと思います。初年度の事業計画では進路確定のキャリア準備、動機づけと明記していました。高校3年生になり、進路選択する段階に入ったところで専門学校を選ぶ、技術職を選ぶといった進路先のモチベーションを上げるといったところが当初の計画でありましたが、現実的には、高校3年生の夏ごろには進路は確定しています。そこに専門学校、技術職の進路を薦めたところで意味をなさないこととなります。

そこで、今年度については、工業系の専門学校に進学することがある程度決まっている高

校3年生を対象に、入学してからスムーズに専門教育への移行ができるような教材開発をします。ここが当初予定したことを変える部分になります。この部分を皆さまと共有していきたいと考えています。

今年度実施する内容は3点です。高校3年生向けへの入学前の導入教材の開発を行います。ただし、これが体験的なものなのか、動画的なものなのかはeラーニング的なものなのかはまだ決定していませんので、各WG会議の中で協議していきます。

次に、企業と高校のヒアリング調査、このヒアリング調査とプログラムの汎用化はある程度オーバーラップさせながら動いていきたいと思っています。この事業のポイントは汎用化です。

例えば、この2年間で開発した教育プログラムを他の地域含めた他高校で実施するとした場合、なにがボトルネックになるのか。先ほどの環境やデバイスの問題など挙げられましたが、同じようなことをボトルネックとして考え、それを改善すると他の地域含めた他高校で実施できるようにする。といったところを可視化する目的でヒアリングを行います。

企業向けでは、どのような人材が必要か、どのような素養が必要か、専門学校で何を学んでほしいかといったところを企業にヒアリングしていますが、必要な素養がこの3年で変わってきています。この6年間の中で色々な変化があるので、そこも含めてヒアリングを行っていきます。育成すべき人材要件もこの6年で色々変わったり、キーワードが付加されたりあると思われれます。2年前メタバース空間内での動画を作成しましたが、個人的ではございますが、メタバースという言葉が聞かなくなった気がします。

このように、トレンド自体も出し入れがあります。このような変化の部分もヒアリングで積み上げていきたいと思っています。専門学校0年生向けのプログラム開発とボトルネックの洗い出しのヒアリング、企業から見た人材ニーズのキャッチアップの3点を今年度の最終的なアウトプットにしていくことを現時点ではキーワードになりますが、共有していきたいと思えます。

【浪川委員】皆さんの肌感と変わらないと思うが、まさにメタバースはゲームの世界ではまだまだ使われて発展していると思うが、一民間企業、いわゆる事業会社の中でメタバースが必要とされているかというところではあまり耳にしなくなった。ここ1年のトレンドは生成AIで、いかに生成AIを活用しているかというところでのDX研修が求められることが多い。ここの需要は今後も高まっていくと思う。

【白井委員】多岐にわたるため、なかなか難しいと感じる。一番は専門学校ゼロ年ということで導入教材を開発することと思う。高校1年生で興味関心を広げ、2年生でリアルに結びつける専門学校ではどのようなことを行っているのか分かったとの声もあったように専門学校の姿が理解できるようになった。高校3年生では専門学校に入学することを生徒自身に自分事として落とし込む、しっかりと意識を作る導入教材があるといいのかもしれないと思う。今はまだ学びと仕事が分離しているように思えるので、学ぶ前にもう一度仕事への意識を定着させるような仕事化や社会化しているような自分事として落とし込んで入学してくれるとその後伸びていくと思う。

【影山事務局責任者】自動車分野においても3年前はオールEVになるといわれてきましたが、そのあたりのテンションも下がってきているようですがいかがでしょうか。

【佐藤事業責任者】EVが今後のトレンドになるとは私の方では断言はできないが、日本においては、今後の方向性について議論が必要で今すぐの確定はできないと思う。色々な選択肢があると思う。そのような意味では、今まで培ってきた技術がこれからも生かされるし、新しいものとの融合がすごく大事になってくるのではと思っている。専門学校0年で考えると、職業に関してより興味を持たせる、ただ単に専門ということではなく、仕事に生かす、自分たちが仕事をしていく。仕事のために専門技術が生かされていくといった意識を持たすことができれば、専門学校0年としての特徴になると思う。

【影山事務局責任者】専門学校実況ガイド的なものを開発していくときに、今までお示してきたフォーマットをもとに、議論を深めていければと考えています。経験してほしいこと、身に付けてほしいスキルといった企業視点とこれをやりたい、このようなものが必要といったWantの部分、実際に実施するにあたり、どのような環境が必要かなどのできる部分といった3点をヒアリングであったり、会議の場や個別でディスカッションしながら作り上げていくことができればと考えています。

フォーマットで昨年と異なるところが一か所あり、昨年はWantが方向でCanが専門学校であった。高校として高校生に何がしたいのか、動機づけとして何を提供してほしいのかというニーズを高校からいただき、専門学校ができる体験メニューを提案・提供するという姿勢でしていました。

今年は専門学校0年生がターゲットとなるため、Wantの視点を専門学校にし、専門学校で学びをしていくためには、入学前にこのようなことをやってほしい、いきたいといったことを議論していきたいと思います。

高校3年生は学校行事で忙しかったり、大学入試と天秤にかけたりと色々な制約条件が出てくると思われれます。このようなことを吸収させていきつつ、企業目線含めて肉付けできればと考えています。キーワードの部分などで何かございましたらお願いします。

【白井委員】専門学校に入る生徒の気質みたいな変化は高校の先生方が一番よく知っているので、どのような生徒が入ってきていて、どのような動機づけが必要か、そのためにはどのような教材が必要なのか。といったことを高校のヒアリング項目に入れてみてはどうか。

【影山事務局責任者】ありがとうございます。その点は検討していきたいと思います。6月にはほぼ進路先が決まって、9月に手続きをするので、ヒアリングはしていきたい。半年接点がないままになるところに課題があるかもしれません。

【佐藤事業責任者】この事業自体、地域産業中核的人材養成が目的であり、専門学校だけではなく、地域人材をどのように作っていくのか、その中の専修学校の役割とは何かの意味となる。

我々としては、専門学校に興味を持ってもらう人を広げて進路先として専門学校を選ぶ人を増やしていかなければならない。難しいかもしれないが、高校へのヒアリング項目に、専門学校に進学した人の成功例、大学に行った人の成功例、その他の人たちはどうなのか。そ

他の人たちが専門学校や大学に進学した場合可能性があるのか。ということを入れるのはどうか。進学先がやはり大学なのかといったところなどが分かれば、広がる方向性が見えてくるのではないか。何となく大学を選んでいる生徒に、しっかりと伝えることで専門学校への進学につながっていく可能性を見出せるのではないかと思うがどうか。

【影山事務局責任者】ありがとうございます。例えば、何となく大学に進学して何にもならない。といったところに焦点を当てて、専門学校のプライオリティを上げていければという考え方もあると思います。

【井坂委員】企業的なイメージは持っていた方が良いと思うが、専門学校教育は基礎部分なところであるため、泥臭い部分がある。どのレベルをどれほど見せていく難しさがある。例えば、ITの世界では、設計があり、お客様のところでどのような工程かの用件提起から始まり、内部設計に入り、詳細設計、プログラミングというような仕事の流れがある。このようなところもある程度見せる必要もあると思うし、細かな技術的なところも考えてもらう必要もある。楽しさだけではダメであり、逆にやりすぎるとつまらなくなってしまうといったことがある。そのバランスがどうなのかは、現時点では回答しかねる。

【影山事務局責任者】個人的な考えですが、専門学校は大学と違って学ぶことが決められている状態で、そこに主体性を持たせられないかと思っています。一つ一つ学ぶことが仕事の現場でどのようなシーンで生きるのか。また、2年間の学びが就職するまでにどのような意図と準備で成り立っているのかといったカリキュラムツリーによる位置づけが分かるような意味づけのものを作るようなものもあると個人的には考えています。最後に、スケジュールになりますが、6月に今回の企画推進委員会会議がございませう。各WG会議につきましては、事務局よりご案内の連絡をさせていただきます。会議と調査を平行に走らせつつ、11月～12月に実証授業を予定しています。今年度の取り組みのアジェンダとしては以上となります。皆さまにご知見をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

【佐藤事業責任者】本日は色々なご意見をいただきまして誠にありがとうございます。新しい方向性を打ち出ささせていただき、皆さまと共有させていただいたと感じています。今後の議論によって新たにコンテンツを作ることもあると思いますので、その際には、皆さまの知恵をいただければ幸いです。本日はありがとうございます。今後とも、よろしくお願いいたします。等

4. その他（連絡事項）

特になし

5. 閉 会

【影山事務局責任者】個別に対応もできますので、ご質問等がございましたら、連絡ください。皆様、本日は、お忙しい中会議出席いただきまして、誠にありがとうございます。順次退出願います。本年度もよろしくお願いいたします。との言葉で会議散会となった。

＜ 会 議 録 ＞

事業名	令和6年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」専門学校と高等学校の有機的連携プログラムの開発・実証 工業系分野における高専連携の5年一貫教育プログラム開発・実証事業
会議名	第1回企画推進委員会会議②
開催日時	令和6年7月4日（木） 10:00～12:00
場 所	ホスト：専門学校東京工科自動車大学校
出席者	<p>【オンライン会議】</p> <p>委員： 佐藤康夫、古藤一弘、掛本寿雄、前田平作、菊田 薫、三浦勝寛、嶋田章二、山崎年雄、安部泰起、園田幸祐、井上真一（計11名）</p> <p>事務局： 影山裕介（事務局責任者）、二ノ宮健志、都留菜々子（計3名） （合計14名）</p>
【 議 事 内 容 】	
<p>【 目 的 】</p> <p>本事業の振り返りと令和6年度取り組み内容の共通認識を行うことを目的とした会議を開催した。</p>	
<p>【 次 第 】</p> <p>1_ 10:00 開 会</p> <p>2_ 10:05 委員自己紹介</p> <p>3_ 10:15 議 事</p> <p>(1) 事業趣旨・目的、連携機関、実施体制と各機関の役割</p> <p>(2) 当該教育プログラムが必要な背景</p> <p>(3) 開発する高・専一貫の教育プログラムの概要</p> <p>(4) 令和5年度企業ヒアリング結果</p> <p>(5) 令和5年度成果物：イメージ動画（6職業分野）</p> <p>(6) 令和5年度成果物：メタバース空間</p> <p>(7) 令和5年度実証実験</p> <p>(8) 令和6年度取り組み</p> <p>(9) 令和6年度スケジュール（案）</p> <p>4_ 11:50 その他（連絡事項等）</p> <p>5_ 12:00 閉 会</p>	
<p>＜配布資料＞</p> <p>【資料1】議事次第</p>	

【資料2】事業概要（PPTX）

【内 容】

以下、次第に沿って会議が進められた

1. 開 会

【影山事務局責任者】 小中学園の影山です。皆さま、お忙しい中会議ご出席いただきまして誠にありがとうございます。本事業にご参加いただいている人数が多いため、複数回に分けて開催しています。企画推進委員会会議は2回目となります。本事業は4年目となりました。本事業は高校と専門学校を連携した一貫教育プログラムの企画開発です。高校1年生から専門学校2年生までの5年間の一貫した教育プログラム開発を行っていく事業です。工業系専門学校として地域に貢献できる技術者を育成していく、若者には技術職を目指す動機づけや目的意識、知識・スキルを身に付けるといったところを高校、企業、専門学校で連携しながら、プログラムの開発をしていく事業です。全体のこれまでの経緯や今年度の実行項目の趣旨などをキックオフとしてすり合わせの内容の会議といたします。よろしくお願いいたします。

【佐藤事業責任者】 東京工科自動車大学校の校長をしています佐藤と申します。日頃より、皆さまには文科省委託事業において、多大なるご協力をいただき、大変感謝しております。また、今年度もよろしくお願いいたします。専門学校の方はご存じかと思われませんが、参議院の本会議において、専門学校教育法の改正案が成立しました。専門学校の位置づけが変わります。単位制や専攻科についての考え方、大学同等の第三者評価を受けた質保証といった考え方です。いずれも高等教育委機関として大学と同等な形にしていくという考え方で作られた法律です。より社会的な位置づけが高まることとなります。地域の方々により応えていく教育機関になります。この高専連携事業の取組みは社会的な位置づけとして重要な形であり、その立場になったこととなります。その中で、社会に貢献していくという意味においては、本事業活動も非常に重要なものと考えています。是非、実のある活動としていくために、ご意見等をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

【影山事務局責任者】 今回は、今年度のキックオフ会議として、本事業の今年度における力点などをすり合わせしていきたいと思えます。本事業は技術者を育成するにあたり、高校1年生～3年生、または専門学校1年生～2年生を対象に、それぞれ時期にテーマを定めてプログラムを開発し、実証していく。5年一貫した教育プログラムによってモチベーションやスキルを高めていく、その結果、地域に貢献できる技術者を輩出していくという趣旨の事業になります。今年度は4年目に入ります。1年目は仕込み、導入動画等の制作を行い、2年目は高校1年生向けのプログラム開発と実証授業、3年目の昨年度は高校2年生向けのプログラム開発と実証授業を行いました。今年度は高校3年生向けのプログラム開発と実証授業を行います。6年事業と長期の事業の取組みとなります。長期にわたる事業のため、近年の技術進歩のスピードが速いため、当初の計画から変わっていくところもございます。従いま

して、本事業はその変化に対応できるように積み上げの的なもので取り組んでいますので、この点の認識も持っていただければと思います。6分野という多岐にわたる取り組みをしますので、専門学校、高等学校、行政団体、各企業の皆さまにつきましては、情報交換含め、知見・アドバイスなどをいただきながら進めていければと思います。よろしくお願いいたします。等

2. 委員自己紹介

【菊田委員】全専各連の参与でプロジェクトの参加をしています。この事業は高校との取り組みということもあり、そういった意味では非常に先進的であると思います。今後、どのように高校側と上手く教育の連携を図るのかといったことが興味深いところです。今年度もよろしくお願いいたします。

【三浦委員】リクルート進学総研の三浦と申します。本事業で新しい価値が拓けることを願っています。協力できることはしていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

【掛本委員】堀越高校の掛本と申します。昨年に引き続き、よろしくお願いいたします。生徒の中には様々なものに興味を持っている者がいますので、この機会に色々と勉強させていただければと思います。よろしくお願いいたします。

【前田委員】今年度もよろしくお願いいたします。今週から就職の受付を始めたところで、進路についてバタついてきています。ようやくコロナが落ち着いて学校が回ってきたと実感しています。よろしくお願いいたします。

【古藤委員】蔵前高等学校の古藤です。よろしくお願いいたします。前回に続き、今回改めて参加させていただいています。

【嶋田委員】東京スバルの嶋田と申します。よろしくお願いいたします。引き続き、今年も参加させていただきます。一人でも多く、自動車業界に興味を持ってもらえるように協力していきたいと考えています。よろしくお願いいたします。

【影山事務局責任者】昨年度は、多摩工科高等学校さんに行っていただきご協力いただきました。その際は、誠にありがとうございます。今年度もよろしくお願いいたします。

【山崎委員】ウエイズトヨタ神奈川の山崎と申します。昨年度に引き続き、今年度もご協力できればと思います。普段は、技術教育を担当しています。先日まで半分以上は外国籍の弊社新入社員のエンジニア教育をしていました。本事業は、私どもの業界にとってキー的なものと思います。少しでもご協力できればと思います。よろしくお願いいたします。

【安部委員】東京商工会議所中野支部の安部と申します。4月から中野支部に赴任しました。よろしくお願いいたします。

【園田委員】東京工科自動車大学校中野校の副校長をしています園田と申します。よろしくお願いいたします。

【井上委員】東京工科自動車大学校世田谷校副校長をしています井上と申します。よろしくお願いいたします。

【都留事務局】事務局をしています都留と申します。今年度もよろしくお願いいたします。

【二ノ宮事務局】事務局をしています小山学園の二ノ宮と申します。よろしくお願ひします。
等

3. 議 事

以下、事務局より説明が行われた。

【二ノ宮事務局】本事業自体、3年間の取り組みが終わり、4年目となります。昨年度の振り返りを含め、お配りしています資料に沿って皆さまと共有するとともに、説明していきたいと思ひます。本事業は5年一貫教育プログラム開発の実施ということで、1年目を準備過程として6年間の事業です。今年はその4年目に入ります。事業自体の背景について、自動車業界を例に出していますが、今回対象の6分野すべてに共通するものと思われまひます。社会、業界の変化や技術者の不足、あるいはそこを目指す若者の減少がある。若者の進路意識に課題感があると思われまひます。生徒、学生にとってキャリアの選択肢を広げ、意欲と向上心を芽生えさせることで、業界にとって若者の技術者育成に寄与すること、高校にとっては探求学習をすることで選択肢を広げることであったり、進路指導の材料であったりと幅を広げて我々専門学校から材料を提供していければという3方向にとってメリットのある事業として取り組んでいます。プログラム開発の考え方として、社会、企業側からの視点であったり、高校側からの視点であったり、専門学校側からの視点からWGを通じて皆さまからの意見出しをしながら取り組んでいました。全体を通したキーワードとして赤字の部分が共通して出てきた内容となっています。体験を通して、企業であったり、技術であったり、本物の力、現場のすごさを感じてもらえるものを作る。それを通して、技術や現場の実情を高校生に知ってもらえることを目指して各WGを通じて共通点として挙げたテーマとなっています。このテーマと掲げて取り組んでいましたが、高校1年生は分野への関心、ワクワクをテーマにした。各分野に興味を持ってもらおうと少しライトな体験であったり、業界の説明であったり、業界に触れる内容の授業と実施しました。昨年は、より意識付けをしてもらえるためのリアルをテーマに少しでも現場に近い視点、経験をしてもらう体験をプログラムに入れた開発と実証授業を行いました。高校2年生の時期の捉え方について、各WGで議論を重ねました。当初は分野横断、分野統合したプログラム開発といった話はあったが、最終的には、二極化はあるものの、この夏から秋の時期には一定数の生徒は進路決定しているといったことから、企業連携を強化して実施していくということで開発に至りました。これが6分野の体験プログラムとなります。具体的には、自動車分野ではロビンエンジンの組み立て、建築分野は橋の強度実験、インテリア分野は教室のリノベーションの提案、プログラミング分野では教室の温度、湿度の可視化、データサイエンス分野では市場価値の可視化、環境分野では水環境と水生生物の関係を調べるといった専門学校生が学ぶ内容、そのまま社会に出ても少し使える授業内容といったリアルに則した内容で組み立てています。実証授業を実施した高校の一覧で、今日の会議ご出席いただひている協力高校に6分野実施しました。私含めた事務局メンバーも参加しました。基本的に生徒さんたちはどの分野でも前向きに取り組んでいました（各分野の授業風景を見せながら説明が行われた）。授業開始前に分野毎の動画を見

て、授業を受けてもらう流れになっています。アンケートは、動画を見る前と見た後、授業を受ける前と受けた後で行いました。それぞれのアンケートの期待指数を分野に関する興味関心度として可視化しています。ご覧いただいているように、何も情報が無い動画を見る前、動画を見た後、授業を受ける前と受けた後を見ると興味関心度は上がっています。コメント自体も、インテリア分野では将来の選択肢として上がってきた。建築分野では、先生のすごさが分かった。環境分野は、知らなかったことがよく分かった。データサイエンスやプログラミング分野では、難しいものではあったが、このような仕事があることを知った。自動車分野は、なかなか触れることができないものを触れることで、自動車整備士の仕事に分かってきた。といったポジティブな意見が多い結果となっています。また、専門学校の授業がどのようなものかが分からなかったところがこの授業を通じて進路先として考えられるようになった。といったコメントもありました。まさしく、このようなコメントの考えを一人でも多く持つことができるようになることがこの事業の取り組みの目的でもあることから、成果として現れていると感じています。アンケートの平均点は、工業系高校と普通科高校とでは、初期の点数と終わった後の点数の推移が変わってきていることが分かります。どうしても、工業系高校では、我々のような工業系専門学校で学ぶことを触れていたり、知識があったりしていますので、ギャップが少なかったり、やってみて理解度が深まったりするケースが多いのではと感じました。普通科高校では、はじめて触れる分野の授業がありましたので、何となく自分の中で変化が起きた。進路の選択肢として考えられる。といった自分の中での変化を示してくれているコメントが目立ちました。高校1年生ではワクワクといった興味関心を持たせる。昨年は進路への意識付けとしてのリアルな体験授業を行いました。今年の高校3年生向けとしては、進路が決まっている段階で実施することになると思われます。高校3年生としていますが、ここを専門学校0年生と位置づけして専門教育、専門分野に進むにあたっての構えとしたテーマで進めていきたいと思えます。実施する内容については、まだ白紙の状態、これからWG通じて意見交換を重ねていきたいと考えています。等

【影山事務局責任者】このような体験型、実習型についてお聞きしたいと思います。

【前田委員】昨年のインサイトの体験授業は非常に良かった。乗ったことが無い生徒も多くいたので、すごく実感ができた。という感想を聞いている。今後も、このような体験授業をお願いしたい。

【掛本委員】当校では、独自にライフデザインという授業を週1回行っていて、小山学園はじめ、色々な専門学校に協力していただいている。ライフデザインを行う日は、生徒の出席率も高い。生徒もすごく楽しみにしている授業でもある。6分野の授業についても非常に興味がある生徒がいて、とても生徒にとって刺激になる。生き生きとしていると感じている。

【嶋田委員】世代とは思いますが、家に車があることが多かったのも、どのような家にもどのような車があるのかを聞くと社名やメーカー名がすぐ出てきていたが、今はあまり車を持っていないところが多いようで、コマーシャル等で車を見た方が多いとは思いますが、はじめて車に触れる生徒も多かったみたいで、シートベルトの着用から教えるといったことがあった。非常に新鮮であった。

【影山事務局責任者】先ほどの事務局の説明で、写真や映像があったが、自動車が一番分かりやすい。高校1年生は、車を見てもらう、乗ってもらうといった五感で味わってもらう。自動ブレーキの体感、体験といったものでした。高校2年生は、手を動かしてエンジンを組み立てる、橋を作る、プログラムを書いてみるといった印象を変えながら行いました。今年度は、高校3年生をターゲットにしたプログラム開発と実証ということになります。先ほどの事務局の説明に軽くではありますが、当初の計画では高校3年生が進路を決めていくための動機づけ、材料にするためのプログラム開発を行うこととして考えていました。当初の計画と違って皆さまにお伝えすることは、コンセプトを変えます。高校3年生ではなく、進路先として専門学校や専門教育先を考えている高校3年生、つまり、専門学校0年生に対する教育プログラム開発をします。理由としては、委員の皆さまと意見交換した中で、高校3年生の夏の段階で専門学校、大学、就職と進路先がほぼ決まっている状態になっているということからです。そこで進路選択の材料を作成しても意味を持たないというところもあって、進路先の専門教育を円滑に受け入れられる、導入になるような教材開発を行うように変えていくということで取り組んでいきたいと思えます。今年度は、①動画などを取り入れた専門学校授業ガイド（仮称）、②高校や企業の状況の変化に伴う人材育成の内容を考えるヒントとなり得る変遷としたヒアリング調査、③プログラムの汎用化というところで、先ほど普通科高校と工業系高校の比較の説明がありましたが、地方も含めてどのような汎用化ができるのかといったところを可視化していく取り組みになると思えます。

【三浦委員】我々が捉えている状況ものとして、大学受験において、指定校ではない公募制の推薦入学が増えてきている。併願可能で大学側が多くの枠を用意し始めている。これに対応するべく高校の現場は大変なことになっているのではと感じる。これに引きずられるように高校の生徒さんもざわつくのではと感じる。この後に、実証授業が始まると思われるので、ぶつかってしまうと思う、専門学校に進路が決まった生徒に関しては専門学校0年生は良いと思うが、専門学校への進路が決まっていない、迷っている生徒に対して新しい発見ができてポジティブに働くようなことがあれば本事業の新しい価値になるのではと思う。

【影山事務局責任者】ふわっと大学に進学するより、しっかりとした技術を身に付けるために専門学校への進路を考えるようになることが大事なポイントと思われ、大学も意識しながら考えていきたいと思えます。

【掛本委員】推薦の中でも併願できる大学が増えてきている。現状、大学を選ぶ生徒が多いが、目的を持って大学を選んではいない生徒が多くいる。高校2年生が進路について中心となる時期としてキャリアデザインという授業をしているが、高校1年生の後半から始めた方が良いのではという意見もある。高校2年生が終了する頃には進路が決まっているという大きな流れになっている。

【前田委員】個人の関心事はそれぞれある。生徒自身行きたいところがあるので、それに向かって進んでいる感はある。専門学校0年生としてスタートするのは11月～3月の間で始まるのが良いと感じる。今までは均等に授業をやっていただいていたが、生徒の思考が定まっているため、それができなくなると思う。バラつきをどのように調整していくのか

が課題になると感じた。

【古藤委員】当校は7割が就職する。3割の進学希望者はいるが、すでに進む先は決まっている状況である。決まっているからこそ、専門学校に進む生徒には、専門学校0年生として前倒しで色々なことに興味を持ってもらうことが大事だと思う。やはり、我々としては、専門学校や大学に入学してからやっていけるのが非常に心配するところである。しっかりと本人たちが意識を持って準備できる体制を作っていただけるのはありがたい。高校2年生の段階で進学を意識している生徒に対して、アプローチを深めていただけるとありがたい。

【影山事務局責任者】専門学校視点で導入時に学生が躓くところ、入学前に準備してほしいところなどを話していただきたい。

【園田委員】自動車では、今のところ基本的にはゼロベースで構わない。しいて言えば、数学的思考といった物事にたどり着くための積み重ね的な考え方を感覚的なものが養っているとスムーズに学べると思う。

【井上委員】入学してからは今の時期ぐらいに躓いてくる。部品の名称がかなり多く出てくるので、それを覚えるのに苦労している学生が増えてくる時期。入学前に車への興味をもっと持ってもらうことと、できれば運転免許も入学前に取ってもらいたい。運転免許を取得するための勉強をはじめると車に興味を持ち始める傾向がある。体験などを通じて、どのような仕組みになっているか考えるきっかけなどができると興味関心が高まって部品の名称なども覚えるのは早くなると思う。もっと興味関心を熟成させていくのがベターと思う。

【菊田委員】先生方のお話をもっともなところと思った。大学の入試のあり方も変わってくると思うし、その中で今回のプロジェクトで専門学校0年生という視点は良いと思う。その前の高校1年生と2年生へのアプローチに対してもアンケートの説明にもあった期待指数が上がるということはすごく良いことと思う。この次に来る進路選択に必要な情報をさらにあげるという観点から専門学校の導入教育に取り掛かるということに変えることは個人的には良いことと感じる。高校の先生方のお話にもあったが、決まってしまう生徒は決まる。例えば、高校1年生や2年生である分野に興味関心があっても、最終的に大学の入試が変わっていく中で高校3年生になって大学への進学に気持ちが傾いたとしても、高校1年生2年生で体験した実体験が残っている。例えば、大学を卒業しても、その後専門学校を思考するといったようなベースとなる自体がキャリア教育として重要なことと思う。大学と18歳人口を取り合うのかということではないと思う。新聞などで専門学校を卒業した子たちが学校教育法の改正で大学に編入するとさんざん言われているが、逆に、大学を卒業して専門学校に入る子たちは何万人といる。このようなことも含め、高校1年生2年生の段階でのリアルな教育を受講できるということが、このプログラムの発端というか、助走期間に有用なことと思った。

【影山事務局責任者】個人的な考えになるのですが、大学と専門学校の違いがいくつかあるが、大学は学生自身が履修科目を決めていく、専門学校は履修科目が決まっていて、それを学生が受講していく。専門学校の各科目の意味づけであったり、科目の順番がなぜこのようになっているのかといったり、学ぶことが仕事のシーンでどのように活きるのか。といった

ことが伝えられることも一つのコンセプトになるのではと思っています。専門学校で学ぶことの意味、一コマ一コマの意味づけを授業に入る前に与えていくことも一つのコンセプトとしてありではないかと考えています。このあたりも、皆さまのご意見を伺っていきたくと考えています。一方で、6年事業でありますので、社会や業界のトレンドも日々変わるなどスピーディーな時代ではあると感じられます。その中でも、自動車業界の変革はEVや自動運転とすさまじいものと印象を受けていますが、どのようなキーワードがありますか。

【山崎委員】今後、レシプロエンジンも無くなっていく、水素、電動という流れになっていく中で、車好きの方にとっては、この流れはどうかといった捉える方もいる。ただ、避けては通れないところであると思う。例えば、ハンズフリーで運転できる自動運転も進めていかなければならない・その中で、車があまり好きではない、興味が無い、触ったことが無い新入社員が入ってくる。本来、技術的な部分を教えるところが、車に触れていないから車の操作から教えていかなければならない。専門学校教育に求めることは、自動車整備士二級の資格取得をする勉強でカリキュラムが埋まっているところは承知の上であるが、工具の使い方ははじめ、車の操作は教えたうえで就職させてほしい。マクロ的な視点の教育ではなく、ピンポイントでミクロ的な視点で教えている。線をつながらない教育方法が横行しているのではないかと思う。専門学校0年生という導入教育でこの点を改善できるきっかけになると良いと思った。また、車に対して興味を持っていない学生に対しても車に興味を持たせる教育内容を提供していれば、自動車系の専門学校を選ぶのではないかと感じた。

【嶋田委員】私も同じような考え方である。ここ数年入社して来る若い子たちは、あまり車に興味を持っていない子が多く見受けられる。話をしてみると運転免許を持っていない子が多い。ただ、我々もそのような学生を受け入れていかなければならないとは考えているが、専門学校0年生でいえば、入口の段階で車に興味を持ってもらえるようなものを行ってもらいと、我々企業としても、受け入れ後の教育も非常にブラッシュアップした内容で指導できると思う。

【安部委員】企業側としては、非常に人手不足で人材確保のために、利益を削り、賃金を上げる活動を必死に取り組んでいると聞いている。車の話でしたが、若い方は手元のスマホなどへの関心が非常に強く、車に対する関心が下がっていると感じる。子供にしても車の免許の話をしていても関心を示さない。我々の時代では考えられない、今の流れだと感じている。

【影山事務局責任者】皆さまには色々な忌憚のないご意見を会議の場や個人的でお伺いすることがあると思いますので、よろしくお願ひします。今年度は、時期とコンセプトを変えるにあたり、昨年は、高校生に対する動機づけであったが、今年度は、専門学校0年生に対する動機づけにコンセプトを変えました。専門学校への導入とした視点で見たとき、より、どのようなコンテンツがあれば良いのかということW a n tのフレームに置き換え、高校生にこのような授業を受けさせるにあたり、大学進学に決定している生徒は意味がないということなのか、大学進学が決まっても動機づけになるのか、進路が決まっていない生徒には、このような視点であればモチベーションにつながるといった意見もいただきながら、当然、企業側の視点としての働くシーンを想定したことをしっかりと育ててほしい。といった

< 会 議 録 >

ことをなるべくフレームに落とし込んでご提案できるようにしたいと思います。もう一つは、プログラム開発の手法、媒体についてとなりますが、3年前はメタバースが注目を浴びていてメタバース教材開発を考えていたが、近年はメタバースという言葉自体が聞かれなくなってきたと思います。

【三浦委員】3年前までは、AIがここまで注目されるとは思っていなかったのが出てきた。動画の生成AIは、技術的にまだまだであるが、画像の生成AIはかなりのところまできている。企業としても時短につながるので生成AIの活用はかなり進んでいる。

【影山事務局責任者】積み上げ形式にしたのは、このようなトレンドの変化に対応することを目的としたものです。プログラム開発をするにあたり、手段として何が妥当なのかといったご意見を伺いながら進めていきたいと考えています。スケジュールについてですが、実証授業について、高校で実施するのか、我々専門学校で実施するのかは検討していきたいと思いますが、11月～年内にかけて実証授業をするといったポイントは共有させていただきたいと思っています。大学入試のこともあります。高校3年生の年末の時期に実施するにはどのような内容のものが良いのかをご一緒に考えていければと思っています。

【佐藤事業責任者】長時間にわたって貴重なご意見をいただきまして誠にありがとうございます。今回の会議で我々からのご提案として、高校3年生対象を専門学校0年生ということで、より専門学校入学に向けて具体的な形のプログラム開発を進めます。専門学校と高校との有機的プログラムの中で、専門学校とのつながりだけの内容という懸念もごございます。本来であれば、大学か専門学校のどちらを選んでも職業に就くこととなります。大学を出てからの職業イメージを高校の段階から持っていないといけない。あるいは、自分の進路を選択する上での学びをその時点で考えなければならない。という中で高校3年生に対して提供できるものを作っていきたいと考えています。本日は、貴重なご意見を多くいただきまして誠にありがとうございます。今後とも、よろしく願いいたします。等

4. その他（連絡事項）

特になし

5. 閉 会

【影山事務局責任者】本日は、お忙しい中会議出席いただきまして、誠にありがとうございます。順次退出願います。本年度もよろしく願いいたします。との言葉で会議散会となった。

＜ 会 議 録 ＞

事業名	令和6年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」専門学校と高等学校の有機的連携プログラムの開発・実証 工業系分野における高専連携の5年一貫教育プログラム開発・実証事業
会議名	第1回プログラム開発WG会議
開催日時	令和6年7月31日（水） 15:00～17:00
場 所	ホスト：専門学校東京工科自動車大学校
出席者	<p>【オンライン会議】</p> <p>委員： 佐藤康夫、白井雅哲、園田幸祐、井坂昭司、金井伸也、藤原瑞卿 (計6名)</p> <p>事務局： 影山裕介（事務局責任者）、二ノ宮健志、都留菜々子（計3名） (合計9名)</p>
<p>【 議 事 内 容 】</p> <p>【 目 的 】</p> <p>今年度開発する教育プログラム開発の方向性について、分野毎の目的設定や映像教材、導入授業等の検討と共通認識を持つことを目的とした会議を開催した。</p> <p>【 次 第 】</p> <p>1_ 15:00 開 会</p> <p>2_ 15:05 議 事</p> <p>(1) 本事業の振り返りについて</p> <p>(2) 令和6年度実証授業の対象者について</p> <p>(3) 映像教材・導入授業等について</p> <p>3_ 16:50 その他（連絡事項等）</p> <p>4_ 17:00 閉 会</p> <p>＜配布資料＞</p> <p>【資料1】議事次第</p> <p>【資料2】専門学校0年生向けの方向性（案）</p> <p>【資料3】会議資料（役割、スケジュールイメージ、キーワード、三つの観点フォーマット）</p> <p>【 内 容 】</p> <p>以下、次第に沿って会議が進められた</p> <p>1. 開 会</p> <p>【二ノ宮事務局】企画推進委員会会議で委員の方々と昨年度の振り返りの共有ができました</p>	

ので、プログラム開発WG会議を開催いたします。今回のプログラム開発では、自動車分野、データサイエンス分野、I o T分野の3つの分野で行います。よろしくお願いいたします。

2. 議 事

(1) 本事業の振り返りについて、(2) 令和6年度実証授業の対象者について下記の説明が行われた。

【二ノ宮事務局】振り返り資料につきましては、配布しています企画推進委員会会議資料に記載されている通りとなります。今年は、高校3年生向けに何を行うのかの協議をしていきたいと思えます。改めてご説明させていただいていますが、高校1年生2年生は、分野自体にワクワク感を与える、気づきを与える。高校2年生については、よりリアルな体験をさせることで実感を持ってもらうこと。高校3年生では、専門学校0年生という形の考え方をしたうえで、専門学校進学生をターゲットとしたときに、我々は何をすべきなのか。という議論を今回の会議で学科ごとの意見をいただきたいと思えます。配布資料2をご参照ください。目的と対象、内容の素案で方針を作成しました。配布資料は案ですので、議論の中で修正・追加等を行いながら進めていければと考えています。まず、専門学校0年生向けの目的を考えてみました。高校に在学しているうちに進学する前の動機づけを行うこと。進学前に進む分野の理解をさせておく、意識を高く持たせて卒業させていくところをこの事業に関わってもらった高校生に還元することを目的と考えています。対象者は、来年4月に当学園(東京工科自動車大学校・東京テクニカルカレッジ)に入学する学生を考えています。実証は年明け頃になると思えますが、本事業協力高校の生徒で当学園のAO内定者と出願している生徒を中心に実証授業を行います。可能であれば同分野で他の専門学校や大学へ進学する、協力校の生徒も対象にしたいと考えています。内容については、学びの導入を円滑にしていける教材開発を考えています。カリキュラムツリーで各授業の位置づけの説明であったり、入学から卒業、就職するまでのキャリアパス、学びの内容を伝えたり、小山学園の卒業生が社会でどのように活躍しているかといったインタビューを作ったりすることを考えています。手法は各分野・学科で詰めていきたいと思えますが、今のところ導入になるような映像やテキストを主軸に考えています。Zoomによる100人規模のオンラインも一つの手法と考えています。ただ、汎用性をどのように考えて内容を作るのか、学科入学したときの学びの内容、その先のキャリアパス、大学との違い、専門学校の特徴などのところができればと思っています。分野毎の課題・ワークシート等はこれから協議を重ねていきたいと思えます。これらを踏まえて、検討事項の①ができればと考えています。目的の設定とそれを叶えるための必要なワーク、分野と学科の特徴を示すことができる映像と補助教材などをアイデアベースでいただければと思えます。ざっくりとですが、説明させていただきましたが、ご意見をいただければと思えます。等

(3) 映像教材・導入授業等について下記の意見交換が行われた。

【二ノ宮事務局】自動車分野では目的や映像、補助教材といったことについて何か考えはあ

りますか。今後、協議しながら修正を重ねていきますので、現段階では思い付きでも構いません。

【園田委員】自動車に興味を持ってもらいたいこと、自動車に触ることが楽しいというように感じてもらえることが望ましい。その上で最終ゴールというか目的になるかもしれないが自動車整備士の資格を取得する。ワクワクをまた持ってきても良いと思う。自動車においてはやはりカッコよさがあるまずはそこを映像に取り入れてほしい。それから自動車整備士のカッコイイ姿を入れてほしい。補助教材については、手を動かすことが興味関心につながると思うので、可能であればプラモデルを組み立てる内容を取り入れて受講生全員で作るようにしたい。

【二ノ宮事務局】ありがとうございます。映像はカッコよさを前面に出したもので作っていくという方向が良いとのことですね。

【園田委員】そこが一番だと思う。カッコイイものに触れるワクワク感がある。

【金井委員】質問ですが、前提のところ、今までは高校1年生向け、2年生向けは分野に対して関心を高めることや動機づけを持たせることであったが、高校3年生向けはどのような効果を狙っているのか。効果検証として何を最大化させることなのか。実証授業で何を実証していきたいのか。

【二ノ宮事務局】今検討しているところとしては、目的としている専門学校に進学前に分野理解を進められる状態を作り出していきたいと考えています。

【金井委員】受講した高校3年生がその分野の理解が進んだかどうかの効果検証の方法はどのように考えているのか。例えば、この実装授業に対象外の生徒がいて、その生徒と比較して何かしらの指標を作り高い低いということをすると思われるが、その指標は何なのか、対照群は何なのかをはじめに決める必要があると思いました。

【二ノ宮事務局】理想論ではあるが、本事業で専門学校0年生向けを開発した導入教材を実証授業で受講した生徒が専門学校に進学した際に、本事業の実証授業を受講していない生徒と比較して意識や理解度の高さの差が違ふところをテスト結果ベースに検証したいと考えています。おそらく本当の効果検証は来年度、専門学校0年生授業を受講した生徒が専門学校に入学してからのものになると思われるが、そこまで正確に終えるかどうかは現段階では分かりかねるところです。環境をどのように作るか検討していきたいと考えています。

【金井委員】差というのは、自分が進む進路についての理解度ということになりますか。

【影山事務局責任者】ざっくりとした表現で申し訳ないのですが、入学前の納得感と安心感ということになります。ただし、どのような項目で検証していくのかは別の委員会で考える必要があります。例えば、データサイエンス分野の安心感の部分では、理数系の知識や数字的なマインドが足りなければ補うといったことになる可能性もあります。例えば、自動車はカリキュラムが時間的ながっかりとされていて、何のために勉強するのかが見えていない。最後に資格を取得するといったことをしっかりと伝えたいというマインドを形成してゴールにする。ということがあります。分野毎の特徴が違うので項目が違って

も構わない前提で考えています。

【金井委員】何を指せばよいのかは理解できました。

【二ノ宮事務局】終了後のアンケートの取り方などについては、現段階では真っ白な状態のため、何かアイデアがございましたらお願いします。

【金井委員】効果検証について、周りの高校生と比べるということより、入学生間で比べるというようにした方がやりやすいと思います。我々教員と話をすると、在校生と接点を持つところがあると良いと思います。入学前ということであれば、アウトプットの場が結構多めなのでそれに慣れてもらうのがあればと思います。夏休みの自由研究的なものをA4判1枚で構わないのでレポートとして作ってもらう。それを赤ペン先生的に指導してもらう。あるいは学校に来てもらうなり、Zoomにつないで中間の仕上がりに対してフィードバックを行うなど。最終的に整理して一つのレポートにまとめるといったもの。可能であれば、その結果を発表会のような形で発表してもらい、全員で議論する。ハードルが高くなると思うが、成果発表会などの機会で行うといったことも横のつながりの構築含めたやり方も考えられると思う。

【二ノ宮事務局】ありがとうございます。より実践的に入学後に続く練習をさせるイメージになりますね。

【金井委員】日本語の長い文章をきちんと読んで自分の考えを正しい文章でアウトプットする力が必要であるのと、パソコンの基本的な操作をなるべくできるようになってもらいたい。Wordなどを使って作成する。あとは論理的に考えるということで、論理的文章を書かせ、一度フィードバックを入れることで考え方の体験をしてもらうデザインはできるのかもしれないと思った。

【二ノ宮事務局】映像の所につながるが、データサイエンスのプロモーション映像や配信すべき映像、OBインタビューも良いと思うが、その中でいうとどのようなものが映像的につながると感じますか。

【金井委員】データサイエンティストの映像ということであれば、実際のリアルで考えると誰かにプレゼンや説明している姿になると思う。象徴的なものになると画面に多くのグラフが出てきてカッコよくしているものがあるが、実際は、伝える役割がデータサイエンティストなので、その点を理解してもらう映像が良いと思う。

【二ノ宮事務局】実際の職場のイメージとしての映像はあまりないと思う。これを機にどのような場面でどのようなプレゼンや説明をしているのかが分かるようなものができれば良いと感じる。ただ、難しすぎると高校生や専門学校生が分かりづらくなるので、その点は検討していくことが必要と考えます。

【金井委員】そのようなシーンで制作できれば良いと思う。あと、日常での連絡手段があればと思う。電話でなくてもチャットで十分と思う。

【白井委員】データサイエンティストはビジュアル的に見えないところがあるので、それができれば良いと思う。タブレットなど当たり前に日常で使っていることにつながっていること、その先には存在している仕事があるということがイメージで見せられると良いと思う。

< 会 議 録 >

【二ノ宮事務局】映像シーンで活躍しているところができるイメージつきやすいですね。

【白井委員】分析をするにしても、それはどのようなものになっているのか、分析のところに触れるのがあると良いと思う。

【金井委員】ゼロベースは難しいが、型の手順みたいなものをつくと良いと思う。

【二ノ宮事務局】本日は、方針イメージの共有ができればという場でもございますので、今後、詳細の検討を重ねていければと思います。

【藤原委員】高校生にはI o Tがまだまだ浸透していないと感じる。I o T基本概念や応用分野を理解すること。それからDXの一環としてどのように活用されているのかを理解する。そのためには、動画などがあると良い。実際に展示会に行くのも良いと思う。そこでリアルの体験ができると思う。体験することで仕事のイメージにもつながり、安心感を持たせられると思う。

【二ノ宮事務局】入学前に安心感を与えることを目的としてあるということでしょうか。

【藤原委員】安心感と分野に対する理解を目的としている。

【二ノ宮事務局】展示会など以外で、ワークなどで行うといった具体的なイメージはありませんが。

【藤原委員】実際にI o Tの基礎を理解した上で、その知識を活用してどのようなプロジェクトにしていくかの計画書を書き、実際に手を動かしてプロダクトの作品を作るといった案はある。

【二ノ宮事務局】イメージ的にどの程度の時間数が掛かると思われますか。

【藤原委員】I o Tの世界観や基礎知識を理解した上で、が条件になるが、プロジェクトの計画書の作成であれば1時間程度と思われる。

【二ノ宮事務局】データサイエンスのように連続的なものやレポートにといった何回か継続していくといったイメージはありますか。それとも単発で完結するイメージでしょうか。

【藤原委員】I o Tの世界観を理解してもらい、プロジェクトの計画書を作成、その後生徒さんが考える実際のプロダクトに入る流れを考えている。プロダクトに入ると高度な技術を要するので、そのあたりの制約をどのようにしていくかは検討する必要がある。高校生が発想することを実便するためには部品調達も必要となる。場所も当校で行うのか、それとも各高校で行うのかといったそのあたりの調整も考える必要がある。ただ、高校で行うとなるとネットワークの環境がそれぞれ違うため、プロダクトを行うには不安要素になる。当校で実施する場合は、その点はスムーズに流れると思う。

【二ノ宮委員】映像制作やワークの内容を企業への協力は取り付けることができますか。

【藤原委員】I o Tの場合は、協力先は見つけられると思う。

【金井委員】知り合いにあたってみる。

【二ノ宮事務局】映像含めてどのようにするかは決定していないので、その点の可能性も踏まえ考えていきたいと思います。

【白井委員】具体的なものが見えた方が良いのかなと思った。あまり高校生に重たくならないようなものになればと思う。

< 会 議 録 >

【佐藤事業責任者】自動車分野ではできるかどうか分からないが、カッコよさを見せる映像やプラモデルといったハードルを高くしていないことを考えているので、このような考え方を重ねていくのも良いと思う。

【二ノ宮事務局】学生に与える負荷と理解度をどこまでもっていけるのか、高められるのかといったところはバランスを見ながら調整できればと考えます。

【影山事務局責任者】ワクワク的なマインド醸成で進めるのか、学びに寄せるのか、就職・資格に直結というルートを見せるのかといったところが分野によって寄せていくものが違うといったこと感じました。例えば、模型を作り上げて業界やこの業界で楽しむといった期待感でワクワクするといった取り組みがクリアなイメージができると思いますが、学びや資格を足していくと複雑さが出てくるので、今後、もう少し時間をかけて検討していく必要があると思います。

【二ノ宮事務局】今後も議論を重ねていきたいと思います。

3. その他（連絡事項等）

特になし

4. 閉 会

【影山事務局責任者】本日は、お忙しい中ありがとうございました。本日の会議はこれで終了となります。引き続き、よろしく願いいたします。との言葉で会議散会となった。

＜ 会 議 録 ＞

事業名	令和6年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」専門学校と高等学校の有機的連携プログラムの開発・実証 工業系分野における高専連携の5年一貫教育プログラム開発・実証事業
会議名	第2回プログラム開発WG会議
開催日時	令和6年8月6日（火） 9：00～11：00
場 所	ホスト：専門学校東京工科自動車大学校
出席者	<p style="text-align: center;">【オンライン会議】</p> 委員： 白井雅哲、井坂昭司、高山寿一郎、野上和裕、今野祐二（計5名） オブザーバー： 甲田竜雄（計1名） 事務局： 影山裕介（事務局責任者）、二ノ宮健志、都留菜々子（計3名） （合計14名）
【 議 事 内 容 】	
<p>【 目 的 】 今年度開発する教育プログラム開発の方向性について、分野毎の目的設定や映像教材、導入授業等の検討と共通認識を持つことを目的とした会議を開催した。</p>	
<p>【 次 第 】 1_ 15：00 開 会 2_ 15：05 議 事 （1）本事業の振り返りについて （2）令和6年度実証授業の対象者について （3）映像教材・導入授業等について 3_ 16：50 その他（連絡事項等） 4_ 17：00 閉 会</p>	
<p style="text-align: center;">＜配布資料＞</p> <p>【資料1】 議事次第 【資料2】 専門学校0年生向けの方向性（案） 【資料3】 会議資料（役割、スケジュールイメージ、キーワード、三つの観点フォーマット）</p>	
<p>【 内 容 】 以下、次第に沿って会議が進められた</p> <p>1. 開 会</p> <p>【二ノ宮事務局】 企画推進委員会会議で委員の方々と昨年度の振り返りの共有ができました</p>	

ので、プログラム開発WG会議を開催いたします。今回のプログラム開発では、建築分野、インテリア分野、環境分野の3つの分野で行います。その他の3分野は7月31日に実施しました。よろしくお願いいたします。

2. 議 事

(1) 本事業の振り返りについて、(2) 令和6年度実証授業の対象者について下記の説明が行われた。

【二ノ宮事務局】振り返り資料につきましては、配布しています企画推進委員会会議資料に記載されている通りとなります。今年は、高校3年生向けに何を行うのかといった協議をしていきたいと思いますが、現在のところは真っ白な状態です。改めてご説明させていただいていますが、高校1年生2年生は、分野自体にワクワク感を与える、気づきを与える。高校2年生については、よりリアルな体験をさせることで実感を持ってもらうこと。高校3年生では、専門学校0年生という形の考え方をしたうえで、専門学校進学生をターゲットとしたときに、専門教育を受けるための準備や構えに対して我々は何をすべきなのか。という議論を今回の会議で学科ごとの意見をいただきたいと思います。実証授業の時期は1～2月になるかと思われますので、対象は進路を確定した卒業前の高校3年生を考えています。配布資料2をご参照ください。目的と対象、内容の素案で方針を作成しました。配布資料は案ですので、議論の中で修正・追加等を行いながら進めていければと考えています。まず、専門学校0年生向けの目的を考えてみました。専門学校に進学する学生に向け、高校に在学しているうちに進学する前に動機づけを行うこと。この事業に関わってもらった高校生に進学前に進む分野の理解をさせておき、意識の高いモチベーションで安心感、納得感を持たせて卒業させていくことを目的と考えています。ゴール感や安心感と納得感を持たせることとなります。ただし、アンケート内容や効果の検証の方法などはこれから決めていくこととなります。対象者は、来年4月に当学園（東京工科自動車大学校・東京テクニカルカレッジ）に入学する学生を考えています。具体的には、年明けになると思われますが、本事業協力高校の生徒で当学園のAO内定者と出願している学生を中心とし、同分野の他の専門学校や大学へ進学する生徒にも可能であれば実証授業を行います。内容については、学びの導入を円滑にしていく教材開発を考えています。導入に使える映像を作った上で、補助教材、ワークシートを使った各分野による各分野の理解度などのコンテンツを作成する方向で考えています。分野毎に特徴が出てきているため、本日に關しては、検討事項①を考えていただきたい。映像でイメージしているのは、5分程度の時間のものと考えています。ワークについてもそれぞれ分野からアイディアが出てきている。専門学校に入学する前にこのような知識や意識を持っていた方が良いといったところを教材に落とし込めると良いのではと考えています。宿題であったり、課題であったりとワークにして実践できるようなもの。分野毎にアイディアを題していただければと思います。等

(3) 映像教材・導入授業等について下記の意見交換が行われた。

【高山委員】対象者について、来年の4月に専門学校に進学する高校3年生に対して実証授

業内容を考えるということになるのか。

【二ノ宮事務局】当校に限らず、専門学校に進学希望する高校3年生対象です。内容としては、導入部分はZ o o mによる100人規模の授業で行いたいと思っています。I o Tなどはその後展示会に行くイメージを提案してきたので、Z o o mで導入部を見せて理解した上で、後日展示会に行くといったことでもできると考えています。これまでは高校を主軸に考えていましたが、専門学校に進路が決まっている生徒は専門学校生になってくるため、専門学校側の視点で考えていこうと思っています。

【高山委員】一回目はZ o o mで配信し、その後、対面で授業を行うということになるのか。

【二ノ宮事務局】その方法もありで、Z o o mの日にワークをさせて終わるのもあります。

【今野委員】環境分野であるが、今まで水をテーマに興味関心を持ってもらうため高校でやっていたが、今年は各分野に興味を示した高校3年生全体に対して行うものなのか。それとも、人数関係なく、生徒が選んだ分野に対して個別で対応していくのか。全体に対しての動画なのか、分野毎の動画なのかで立場が変わると思う。当校と他校が違うのは、当校は総合学園である。その点はどのように考えているのかお聞きしたい。

【二ノ宮事務局】文部科学省委託事業であるため、他の学校さんでも使えるように汎用性を考えています。今のところ、2分は専門学校としての説明、3分は分野毎の説明と分けて考えています。そうすると必要な分野の動画を他の専門学校でも使えることになります。

【白井委員】あくまで分野毎に作るということになるということですね。入学前に定着が良くなるようなプレ教材を作るイメージ。

【二ノ宮事務局】7月31日I o Tとデータサイエンス分野で会議をしましたが、何となくではありますが、作る映像の共通する部分として、自分が専門学校に入学して学ぶ分野は、カッコイイというイメージを伝えることが良いのではということでした。自動車にしてもビジュアル的にカッコイイ自動車を出したり、整備士の働く姿をカッコよく見せるといったことやデータサイエンスでも現場はどこにするかは未定ですが、データサイエンティストが活躍する映像を探したり、先輩の姿とその風景を撮ってくること。I o Tでは世界観が伝わるような動画を作っていくというアイデアが出てきていました。

【野上委員】何となくのイメージは分かりました。建築としてはある程度クオリティの高い住宅展示場に行って建物を見学させる。その際に、ワークシートの的なものでチェックポイントを穴埋めしていくようにすると、建築の全体的なイメージや素材といったものが感じられウと思う。ただ、品質も様々なため質の良い住宅展示場を探す必要がある。それを探してなるべく家に近いところに見に行ってもらって、作成したワークシートを提出する。もしくは、教員が連れて行くのかになると思う。身の回りプラス高めの良い品質、性能であったり、地震に強かったりといったものに触れると今の提案の段階ではあるが、建築と自分たちをつなげることになると思われる。

【二ノ宮事務局】ありがとうございます。イメージ通りの感じがします。インテリアとの兼ね合いもあると考えられますが、その点はいかがでしょうか。

【野上委員】一緒にしても良いと思う。

【高山委員】住宅展示場であれば、建築もインテリア両方の意向が叶えられると思う。インテリアに特化するのであれば家具のショールームなどが考えられる。導入での提案について思いついたが、気になるインテリアの写真を撮って送ってもらい、それにコメントを入れて返すといったやり方もあると思った。

【二ノ宮事務局】ありがとうございます。映像についてですが、どのような方向性で作ると良いといったイメージはありますか。

【野上委員】映像的に見せるとなると企業協力が必要と思う。各会社の売りのようなものを提供いただいて、それをつないで最新技術一覧というものはどうか。地震に特化したものや大空間に特化したもの、津波が来ても建物が浮いて建物が同じ位置に戻るといった取り組みをしている企業がある。このようなリアルなものを提供いただくとワクワクを与えることや技術のすごさを伝えることができると思うので、映像を作るのであればこのような感じのものがいいのではないかと思う。

【今野委員】動画制作はいつ頃から考えているのか。

【二ノ宮委員】9月ごろから制作に掛る予定です。

【影山事務局責任者】8月中までは検討期間と考えています。分野によって映像を作るもの、Zoomでやるもの、対面、外でやるというように分かれると思っています。制作部分は、9月に入って早々に手掛けていきたいと考えています。

【二ノ宮事務局】12月～1月には実証授業を行わないといけないので、そこからの逆算になります。

【今野委員】環境も自然の中でのフィールドワークだけを行っていても、どこにつながるかが見えないため、企業協力によってつながりをコーディネートして映像制作し、導入部分に組み込むとつながりが分かると思う。

【二ノ宮事務局】環境分野で事前教育のイメージはありますか。

【今野委員】地球上のほとんどが水が必要で人間も自然環境も水が無いといけないため、水を大切にしなければならない。一番水を使う人間が水をきれいに使っていくことが大切というところでその技術があるという流れの映像があると良いと思う。そこから専門学校のカリキュラム（勉強の必要性）の話に入るという流れになると良いと思う。環境分野は広いので、映像で全体の掴みを取ってから入っていくというようにするのが良いと思う。

【二ノ宮事務局】分野によって異なる内容で良いと思います。予算的な部分もありますので、検討していきたいと思います。その上で、実証授業やZoomでもワークとなると、何か具体的にやるべきこと、やっていた方がよいことなどありましたらお願いします。

【今野委員】専門的なことをするのではないため、実際の授業の基礎的なところ、水処理系のところをもう少し分かりやすくする方向で良いと思う。

【二ノ宮委員】実証授業については、当校で何かしらのワークを行い、内容については時間に応じて行うということですね。ありがとうございます。インテリアにおいて映像のイメージは何かございますか。

【高山委員】インテリアの場合、リフォームという仕事がある。空間のイメージを変えてい

くことができるのがインテリアの強いところと思う。リフォームやリノベーションの映像が良いと思う。可能であれば、色々な家具の企業から使っているものを提供いただいたり、IoTの技術を取入れたりしてコーディネートにより空間が変わるところを映像で見せられると印象は良くなると思う。

【二ノ宮事務局】ビフォーアフターのイメージということですね。ありがとうございます。目的感としては比較的全体で共通のものとして考えてよろしいでしょうか。入学者の納得感、安心感を高めること、少しでもテンションを上げて入学してもらうような取り組みを共通認識としてよろしいでしょうか。

【甲田オブザーバー】目的のところで入学前の安心感を与えるといったことは共感できる。ただ、あまりにも期待値を上げすぎる傾向のものにならないように注意は必要。ギャップがありすぎると逆にテンションが下がってしまうと思う。住宅展示場に行ってみ学して何かを得てくるという行動が今後にもつながると思う。設計のアイデアを入学前に持って入ってくるのも良いと思う。イメージを調整することが必要。入学前に色々なネタを集めさせること、アイデアの種を持って入学してくる感じのプログラムの持って行き方が良いと感じた。全体的に皆さんの意見は良いと思いますが、やりすぎないこと、バランス感覚を持って調整できればと思う。

【二ノ宮事務局】ありがとうございます。概ね方向性としては良いということですね。

【甲田オブザーバー】環境は難しいと思うが、ギャップという点においては同じ。環境全体を示した上で水の大切さにつながると思うが、入学前にあまり水を意識させすぎない方が良いと思う。段階を踏まえた方が良いと思う。

【二ノ宮事務局】ありがとうございます。ワークについてはこれから内容を詰めていきますのでご意見を参考に協議していきたいと思います。

【井坂委員】コンピュータ分野はどうしてもブラックボックスなためそこが難しいが、逆にブラックボックスのところは見せなくてもいいと思う。アウトプット部分を中心に表現できればと思う。IoTであれば、その製品を見せる。データサイエンスであればこのような分析ができるなどを中心に映像で表現できれば良いのではと思う。コンピュータ系では著作権、肖像権などが問題になってくる。それを映像の中でどこまで表現できるのかが気になるところで壁にもなると思う。IoT分野で実際に会社を見せるというように考えてはいるが、そこはそれで良いと思う。展示会や会社見学を考えているが土日平日と行くタイミングをどのようにするのも課題になると思う。

【二ノ宮事務局】冬休みにピンポイントで行く日程も可能性として考える必要があるかもしれないですね。

【井坂委員】分野によって行くタイミング、時期が変わると思う。データサイエンス、IoTの会社は土日が休みのため、平日がメインになる。また、イベント系に行くとなると、例えば、コンピュータゲームショーなどは基本的には高校生は入れないため、ハードルが上がる。時期と内容はもう少し検討していくことが必要と思う。

【野上委員】建築の場合、住宅展示場などへの見学は平日しか行けない。お客にはなり得な

いため、土日に行く子供連れの新婚夫婦などをターゲットに売り込みを掛けるため、会社の邪魔をするだけになるので、高校生が行っても相手にしてくれないし、質問も受け付けられないと思うので行けない。

【二ノ宮事務局】ありがとうございます。展示場への課題が浮き彫りになってきましたので、実施できるか含め検討していきたいと思います。

【白井委員】危惧するのは、難しくしない方が良いのではと思う。シンプルでストレートで構わないと思う。あまり手が込んでいたり、深かったりすると導入にはならなくなってしまふ。このような勉強が待っているというワクワクを与えるようなものにできればと思う。住宅展示場が良くないということはないが、あまりリアルな現場を見せる必要はないのかもしれない。例えば、チームラボに連れていくなど行ってワクワクさせるなど、勉強に携わる部分は専門学校に入学してからで良いのではと感じた。

【二ノ宮委員】難しくしすぎるところやギャップ感含めて検討していきたいと思います。

【影山事務局責任者】ワクワク感の側面と安心感といった不安の払しょくがあると考えられると思います。例えば、プログラミングをする際に数学の計算もできないとプログラミングはできないから数学の復習をする。といったことも場合によってはあると思います。専門学校に入って躓きそうなところ、分野毎様々あると思いますが、その視点でできることがあれば協議していきたいと思います。これまで出てきた意見は、モチベーションを上げるためという観点からでした。今後、進めるにあたり、このモチベーションの観点で進めるかの決定と違う側面で広げて安心感や期待感、学びというところの準備も一つの形と思われます。もう少し協議を重ねていきたいと思います。

【井坂委員】当校卒業生に仕事のプレゼンをしてもらうのも面白いと思う。

【二ノ宮事務局】映像や実証であってもOBを出すことは手段としては非常に良いことと思います。専門学校卒業後にどのような仕事をしているのか見せることもテーマとしてありますので、検討していければと思います。

【白井委員】卒業生は面白いと思う。高校生にとっては親近感が湧くと思う。学びの結果のキャリアパスも見える。等

3. その他（連絡事項等）

特になし

4. 閉 会

【二ノ宮事務局】ありがとうございます。本日いただいた意見をまずはまとめます。今後、事務局から個別にご相談する場合もあると思いますので、その際にはお手数をおかけいたしますが、よろしく願いいたします。との言葉で会議散会となった。

本「成果報告書」は、文部科学省の教育政策推進事業委託費による委託事業として、《学校法人小山学園 専門学校東京工科自動車大学校》が実施した令和6年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」の成果をとりまとめたものです。

令和6年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」
専門学校と高等学校の有機的連携プログラムの開発・実証

工業系分野における高専連携の5年一貫教育プログラム開発・実証 成果報告書

令和7年2月発行

発行所・連絡先

学校法人小山学園 専門学校東京工科自動車大学校
〒164-0001 東京都中野区中野 6-21-16
TEL 03-3360-8824 FAX 03-3360-8805
<https://car.ttc.ac.jp/>

本書の内容を無断で転記、転載することを禁じます。

TTC 専門学校
東京工科自動車大学校